



2024年度  
SAFEコンソーシアム アワード  
取組事例集

## 目次

はじめに	P 2
取組事例一覧	P 3
<取組各事例紹介>	
1. サービス産業 × 安全な職場づくり部門	P 15
2. サービス産業 × エイジフレンドリー部門	P 44
3. サービス産業 × 企業等間連携部門	P 52
4. 製造業、建設業、運輸業等 × 安全な職場づくり部門	P 57
5. 製造業、建設業、運輸業等 × エイジフレンドリー部門	P 113
6. 製造業、建設業、運輸業等 × 企業等間連携部門	P 124
7. その他	P 133

## はじめに

「SAFEコンソーシアム」※では、職場において実施されている労働災害防止や安全・健康の増進のための取組事例を募集し、表彰することで、優良な取組を進める職場の「見える化」を図り、企業・労働者による更なる取組を促進することを目的として「SAFEアワード」を実施しています。令和6年度には次の部門別に応募いただき、一般投票等を経て優良事例が選出されました。

- ・安全な職場づくり部門
- ・エイジフレンドリー部門
- ・企業等間連携部門

※ 労働災害のない安全で安心して働ける職場の実現は、いうまでもなく全ての人の願いです。しかし、今、産業構造の変化や働き方の多様化に伴って、転倒などの労働者個人の身体機能が影響するリスクや、顧客・発注者、調達先等との関係で改善が難しい業務、統一的な教育研修機会の減少など、職場単独では対応が難しい新たな課題が増えてきています。SAFEコンソーシアムは、このような課題の解決を進めるため、「Safer Action For Employees (SAFE)」を旗印に、社会全体として安全で安心して働ける職場づくりのプライオリティを上げ、加盟者が互いの知恵を共有しながら取組を進めていこうとするものです。

# 取り組み事例一覧

# 取組事例一覧

## サービス産業×安全な職場づくり部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
「レジ椅子」の導入による身体的負荷・精神的負荷の軽減	株式会社ベルク	小売業	17,500
安全人間育成活動～会社の安全を支える人財育成～	株式会社 グリーンテック	技術サービス業	3,500
業務負担軽減と危険箇所の「見える化」で労災防止につなげる	社会福祉法人 三幸福社会	保健衛生業	300～
社員の座りすぎ・運動不足を解消 運動習慣のある社員比率を60%以上へのチャレンジ	株式会社システムリサーチ	情報通信業	140
転カツ！ ～転倒予防活動～	社会福祉法人愛生福祉会 特別養護老人ホーム田谷の里	保健衛生業	107
労災発生の傾向は？労災ダッシュボードで分析・対策だ！	イオン北海道株式会社	小売業	19,022
夏・冬のゼロ災運動で 労働災害防止対策を加速する！	イオン北海道株式会社	小売業	19,022
ファン付きウェアと警戒アラートで熱中症を未然予防！	株式会社カクヤス	小売業	5,500
フォークリフト事故『ゼロ災害』を目指す（解釈差をなくすためのよりわかりやすい安全教育	ロイヤルホームセンター株式会社	小売業	4,000
一人ひとりが自らの安全と健康を守る意識を高め組織全体の安全文化を醸成に力を入れています。	DACグループ	広告業	920
労働災害防止	株式会社 1 & Dホールディングス	飲食店	650
安心して働ける介護現場づくり～職員のやりたい・やりがいの実現へ～	社会福祉法人聖隷福祉事業団	保健衛生業	16,000
全職員のポジティブアクション！腰痛ゼロ災の環境から業務効率化・生産性向上発展	社会福祉法人同塵会	保健衛生業	1,418
トランス（移乗×変革）formation 変革～マインドチェンジ～ 抱え上げない・持ち上げない・引きずらないケアをめざして	社会福祉法人聖隷福祉事業団	保健衛生業	16,000
頭と身体は使ってナンボ！動いてナンボ！	はあとふるグループ	保健衛生業	300～
働きやすい職場環境の構築をめざして ～腰痛ゼロへの挑戦～	社会福祉法人 天神会	保健衛生業	400
労働災害ゼロへの道！大切なのはPDCAサイクル！！	社会福祉法人おおさわの福祉会	保健衛生業	100～ 299
介護施設も自動化やICTの時代に！	社会福祉法人仁摩福祉会	保健衛生業	180

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
社内研修制度の充実 入社時研修をはじめ定期的な研修を実施することで職員の腰痛予防を継続的にサポート	株式会社リエイ	保健衛生業	施設数48カ所
職場定着支援助成金の活用について ～腰痛災害防止のための介護設備・機器導入～	社会福祉法人ロザリオの聖母会	保健衛生業	300～
ウェルビーイング推進室を中心とした職場全体の労災防止への取組み	社会福祉法人和光会	保健衛生業	760
ペガサス ☆オリジナル☆3分ストレッチ チャレンジ	社会医療法人ペガサス	保健衛生業	300～
送迎車交通ヒヤリマップで交通事故防止	社会福祉法人みゆき福祉会	保健衛生業	100～299
労働災害抑止対策 指導、教育、制度、ITツール活用	リハコンテンツ株式会社	保健衛生業	276
小規模事業だからこそ可能な安全な職場作り職員から利用者へつなぐ安全ガイド	株式会社ココカラミライ	保健衛生業	5
「安全第一！私の1年：個人目標達成と安全意識向上への挑戦」	株式会社ビステム・クリーン	清掃業	120
社員の健康と命を守る経営【熱中症対策】重症者0を継続する取組	リライアンス・セキュリティ株式会社	警備業	230
芸能従事者実態調査アンケート 芸能界の就業環境改善のために実態の見える化を促進	一般社団法人日本芸能従事者協会	その他	52,000

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
社員の平均年齢上昇を見据えた安全衛生強化策の展開！	SOMPOひまわり生命保険株式会社	金融・保険	2,700
健康であればいつまでも（生涯現役を実現するために）	株式会社 旭フーズ	卸売業	64
職員が健康で長く働き続けられる職場作り～意識付けで全職員腰痛ゼロ！健康ファミリー青谷学園～	社会福祉法人青谷学園	医療・福祉	30
いつまでも元気に安全に働ける職場づくり	社会福祉法人和光会	医療・福祉	760
理学療法士が考案した“運動習慣と介護予防”～高齢の職員も一緒に ベガサス健康クラブ～	社会医療法人ベガサス	医療・福祉	300～
人に向き合う気持ちを重視 体力年齢不問のエイジフレンドリーを意識した職場づくり	社会福祉法人 浩喜会	医療・福祉	50
エイジフレンドリーな職場に向けて	株式会社グローバル・クリーン	清掃業	150

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
事務椅子をバランスボールにチェンジ！ 「バランスボールに座って転倒しないからだづくり」～3か月間でからだに変化～	福岡市役所	官公庁	9,400
理学療法士による「職場における腰痛予防」の取り組み	公益社団法人日本理学療法士協会	医療・福祉	57
丸五&日進ゴム（靴メーカー）による岡山県内のスーパーマーケット 転倒災害防止大作戦	(株)丸五、日進ゴム（株） / 岡山県+SAFE協議会（小売業）	小売業	300～
新入者（雇い入れ時）安全衛生教育の深化	一般社団法人川越地区労働基準協会	サービス業	1,050～

# 取組事例一覧

## 製造業、建設業、運輸業等×安全な職場づくり部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
三菱ケミカルグループ体操と安全安心体カテスト®で従業員の転倒災害ゼロへ！！	三菱ケミカルグループ株式会社	製造業	66,358
500の知恵を結集！転倒災害防止事例集	キヤノン株式会社	製造業	24,000
「安全職場」は業者への誠意 2次・3次請負業者えお含めたゼロ災継続活動	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
健康支援サービス「ホコタッチ」を用いた“歩行の質”改善と健康づくり	花王株式会社	製造業	28,871
過去の災害から学ぶ安全教育の実施	独立行政法人国立印刷局	製造業	4,073
第一回やるきMAX安全活動コンテストを社内で開催 リーダーが活動の仕掛けを考え一緒にやろう！とメンバーの背中を押す	マックス株式会社	製造業	2,000
ヒューマンエラーに特化した新入社員安全教育カリキュラムの構築	サンデン・リテールシステム株式会社 赤城事業所	製造業	491
暑さ本番前から始める熱中症ゼロ活動～啓発と暑熱馴化で 酷暑の夏でも いきいき実現～	IHI回転機械エンジニアリング 生産センター横浜工場	製造業	120
転倒災害の未然防止対策～AI分析による転倒リスク低減への取組み～	ジェイティプラントサービス株式会社 熊本支店	製造業	65
ミャンマー語に対応！母国語に対応した安全な職場づくり	株式会社デリモ	製造業	300
AIを利用したスマホアプリによるKY活動の効果的かつ効率化の取り組み	東亜建設工業株式会社	建設業	150
「ヒヤリハットの見える化で類似災害防止」 ヒヤリハット体験を現地に掲示・周知	東亜建設工業株式会社	建設業	150
QRコードを用いたヒヤリハット投稿サイトの開設	東北発電工業労働組合	建設業	1,270
SAFE-C導入の第一歩として「まねる」から「まなぶ」でベトナム実習生の安全の「見える化」改善	ヤマダイインフラテクノス株式会社	建設業	160
フォークリフト事故0をめざして！フォークリフトに関するアンケートを実施！	株式会社トーコン	運輸業・郵便業	240
労働安全部発足！～本社による組織的な安全衛生管理～	フジパングループ本社株式会社/ フジパングループ	製造業	16,000
職場巡視と自主保全活動の融合による全員参加型のゴム練り工場安全化活動 3K(危険・汚い・キツイ)を（綺麗・快適・希望）へ	株式会社フコク	製造業	1,150

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
健康・安全についての全社員教育の実施～完全な作業遂行力のためには健康な体が不可欠！～	寿精版印刷株式会社	製造業	496
ケーブル伸ばし用平台車により背面歩行廃止・転倒リスク低減・作業負荷軽減！	株式会社ササキ	製造業	230
台車専用運搬台車で腰痛防止！	株式会社ササキ	製造業	175
物の落下による、人に当たるリスクの減少	株式会社日本ネットワークサポート	製造業	85
組立ライン表示灯による安全確保	株式会社日本ネットワークサポート	製造業	77
自然災害や労働災害等の緊急時における「応急措置」への備え	株式会社日本ネットワークサポート	製造業	94
遊休装置を活用した包装作業の省力化・安全化	オリエント化学工業株式会社	製造業	230
部品台車の運搬作業が、前傾姿勢で辛い👉放置されていた腰痛リスクを改善し排除！！	株式会社 ジェイジェイ	製造業	75
作業場の転倒災害防止対策	ゼオンオプトバイオラボ株式会社	製造業	50～99
安全の見える化推進パトロール「災害ゼロ」から「危険ゼロ」へ	東亜建設工業株式会社	建設業	150
クラウドカメラで現場を安全管理～遠隔地の現場をリモート確認～	東亜建設工業株式会社	建設業	50
安全な照度を確保した職場づくり	東亜建設工業株式会社	建設業	150
災害の再発防止対策(過去の災害事例の活用等)	東亜建設工業株式会社	建設業	30
鏡の自分に誓おう安全意識の向上	東亜建設工業株式会社	建設業	150
新規入場者・若手労働者への対応	東亜建設工業株式会社	建設業	27
安全確認・指差し呼称の定着にむけて～指差し呼称事例の掲示と実践場所の「見える化」～	東亜建設工業株式会社	建設業	20
オリジナルポスターで安全意識向上！	菱和建设株式会社	建設業	100

# 取組事例一覧

## 製造業、建設業、運輸業等×安全な職場づくり部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
危険感受性向上 危険体感VRトレーニングの取り組み	栗田工業株式会社	建設業	8,000
マネキン展示による正しい保護具着用の啓蒙活動	栗田工業株式会社	建設業	8,000
安全協議会として取組む「腰痛防止」	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
「危険・有害要因の特定」による躓き・転倒防止	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
安全カレンダーの作成・掲示による安全意識の高揚	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
SAFE-C導入の第一歩として「まねる」から「まなぶ」で安全の「見える化」を推進	ヤマダインフラテクノス株式会社	建設業	160
安全標識を自ら考え作成する風土づくり～全員で「見える化」を考える～	新発田建設株式会社	建設業	110
トンネル工事現場における立入禁止エリアの明示(LED光線照射を活用した見える化)	寿建設株式会社	建設業	96
作業中の合図や指示の音声を拡声器で作業場全体に共有(情報の共有によるリスク回避)	寿建設株式会社	建設業	96
機械設備の改良で高所からの転落防止(既成概念からの発想の転換)	寿建設株式会社	建設業	96
熱中症を予防するための見える化～作業環境の把握と改善～	株式会社安部日鋼工業 設楽ダム 5号橋作業所	建設業	40
ゼロ災の日	東野建設工業株式会社	建設業	40
見える化の共有	東野建設工業株式会社	建設業	40
社員が安心して働ける職場づくり	株式会社東北ターボ工業	建設業	80
現場の見える化～見える危険から見える安全に変えよう～	大有建設株式会社	建設業	400
完全なインフラ整備を追求	大有建設株式会社	建設業	400
高速道路の規制内の安全確保～第3者から作業員を守るために～	大有建設株式会社	建設業	400

## 取組事例一覧

### 製造業、建設業、運輸業等×安全な職場づくり部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
～安全な作業環境の確保～安全対策の「多重化」によりヒューマンエラー防止を図る	大有建設株式会社	建設業	400
建設機械による労働災害をなくすために私たちに何ができるか	大有建設株式会社	建設業	400
～安全な現場環境の構築～現場内の接触事故に繋がる事項を見える化して安全を守る！	大有建設株式会社	建設業	400
藤原工業の『たてもの』づくり基礎は『安全な身体』づくり	藤原工業株式会社	建設業	28

# 取組事例一覧

## 製造業、建設業、運輸業等×エイジフレンドリー部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
『転ばぬ先の改善マップ』繋がる 広がる エイジフレンドリー	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
無人搬送車やからくり改善による重筋作業レス取組みで誰でも働ける職場づくり	ダイキン工業株式会社 堺製作所	製造業	2,200
「みんなで参加しよう体力測定会」～運動不足の解消・運動の習慣化でエイジフレンドリーな職場づくりとゼロ災へ～	花王(株) 川崎工場	建設業	300
全従業員による体力測定の実施～健康で快適な職場づくりの推進と一人ひとりの健康増進にむけた取組み～	ダイキン工業株式会社 堺製作所	製造業	2,200
エイジフレンドリー対象者の体力チェック簡素化と客観的把握について	株式会社 L I X I L 有明工場	製造業	820
安全パトロール（声かけ巡回）を活用した段差箇所の改善【転倒事故撲滅】	五十鈴関東株式会社太田サービスセンター	製造業	36
発掘現場での高齢者転倒防止対策	大畑建設株式会社	建設業	155
「働く大人の体力測定」で体力レベルを可視化！	有限会社正木工業	建設業	13
事故0を目指して～カラダの見える化～	株式会社西行土木	建設業	60
現道交通規制時の事故防止対策	大有建設株式会社	建設業	400

# 取組事例一覧

## 製造業、建設業、運輸業等×企業等間連携部門

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
ミズノとサミットの共同企画シューズ「売業向けワーク用スニーカー」	ミズノ株式会社	製造業	300～
働く社会人のための姿勢改善プログラム 足圧測定会の実施（連携企業：有限会社マスターピースコンサート）	ANAホールディングス株式会社	運輸業・郵便業	41,225
大塚製薬株式会社殿による熱中症対策出前講座の開催	東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部	建設業	2,000
～エイジフレンドリーな職場環境に向かって～METS・やまと監修 転倒防止や腰痛予防のための運動指導講座	サカネテクノ株式会社	製造業	200
地域コラボによる腰痛・転倒防止対策活動 ※邑楽町役場地域包括支援センター、羽生総合病院との連携	株式会社 フコク	製造業	1,150
建設現場の環境改善と安全に貢献するボディメンテナンス施設 健水院 produced by ダイヤ工業(株)	株式会社竹中工務店	建設業	8,000
素材梱包の変更による取り組み 素材購入業者中山商工(株)様 企業等間連携	日東精密工業株式会社	製造業	109
労働災害防止の取組み～SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み構築～	栗田工業株式会社	建設業	8,000

取組タイトル	会社名	業種	従業員数
ウェザーニュースの気象情報を全社導入～店舗の防災対策に特化したアプリの開発で安全性を向上～	株式会社カインズ	卸売業・小売業	266,000
フリーランスにも産業医を！芸術・芸能従事者の健康活動「こころとからだのヘルスケア」	一般社団法人日本芸能従事者協会	生活関連サービス業・娯楽業	52,000
人工呼吸をしない救急蘇生法の開催～救命教育の全社展開～	株式会社IHIエスキューブ	情報通信業	500
全社員で取り組む 多能工化・多専門化活動！～標準化作業を軸とした安全で効果的な教育展開～	寿精版印刷株式会社	製造業	496
心も身体も安心安全な職場づくりへの挑戦！！～心理的安全性の浸透教育～	寿精版印刷株式会社	製造業	496
エイジフレンドリー イベント型・情報提供型の両面からアプローチ！	ユニ・チャーム株式会社	製造業	1,800

# 1. サービス産業×安全な職場づくり部門



## ゴールド賞

# Belc ベルク 「レジ椅子」の導入による身体的負荷・精神的負荷の軽減

### 背景（課題・ニーズ）

スーパーのレジでは、長年立ちながらの業務を行うことが基本となっており、長時間作業による足腰などの身体的な負荷の他、精神的な負荷が小売業の課題となっていました。そこで「座ってもいいんじゃないか？」という発想が生まれ、改善に取り組みました。

### 取り組んだプロジェクト内容

まず椅子の選定から取り組みました。条件として①安定感がある ②高さの調整が出来る ③長時間座っていても疲れにくいなど主に3つありました。いくつかの椅子を試した中から、条件を満たした現在の椅子を選定し、2023年12月より実験運用を開始しました。また、椅子の設置と同時に、より作業をしやすくするため、レジ台の改修も合わせて実施しました。



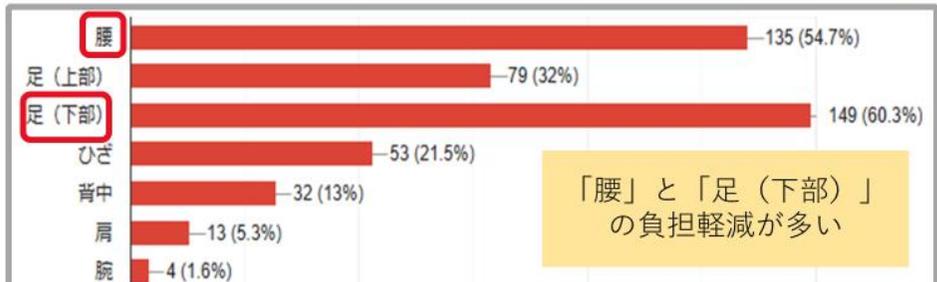
事業者名：株式会社ベルク  
業界・業種：小売業  
従業員規模：約17,500人  
地域：関東／埼玉



### やってみての効果

当初は戸惑いの声が多かったですが、導入から1年を迎えるにあたり、レジ椅子を使用する従業員にアンケートを実施しました。その結果、身体の負担の軽減を感じている従業員が全体の約70%、ストレス・精神的な負担の軽減を約56%の方が実感しています。また身体の負担が軽減した箇所としては、足（下部）が60.3%、腰が54.7%の方が軽減を感じている結果となりました。今後も従業員の声を聞きながら改良を進め、全店に拡大していきたいと考えております。

【レジ椅子導入アンケート実施】 身体の負担が軽減した箇所（複数回答）※回答者247人



## ポイント

顧客への対応だけでなく、労働者の働きやすさや安全を追求する取組です



# 安全人間育成活動 ～会社の安全を支える人財育成～

事業者名：株式会社 グリーンテック  
業界・業種：一般派遣・請負サービス  
従業員規模：約3,500名  
地域：全国

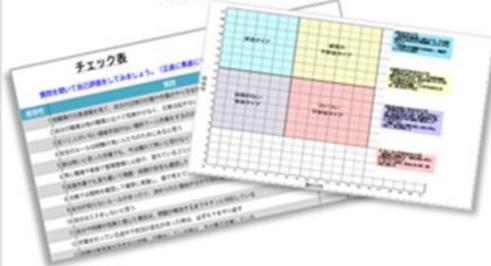
## 背景（課題・ニーズ）

自社で発生した業務災害(労災)を分析すると、危険感受性\*1の低さが起因した災害が64%、危険敢行性\*2の高さが起因した災害が24%発生したことから、社員への安全スキル(危険要因の発見と解決)向上のためのアプローチについて課題と捉え、『安全人間』を育てる活動に取り組んでいる。

- \*1 危険感受性 ・ ・何が危険か、どうなると危険な状態になるのかを直観的に把握し、危害の程度・発生確率を敏感に感じ取る能力。
- \*2 危険敢行性 ・ ・危険を認識していても、あえて危険な行動を取ること。

## 取り組んだプロジェクト内容

### KKマッピング



感受性、敢行性、それぞれ21問の質問に答え4つのタイプ（安全タイプ・自信の無い安全タイプ・過信の不安全タイプ・ついつい不安全タイプ）に分類。自分自身の行動特性を知り、ついついしてしまう危険な行動を抑制、安全に行動する。

### 安全人間育成道場



全国の営業所に続々設置！  
★『育成道場』で過去トラに紐づいた3つのクイズ（交通・構内・保護具着用）でルールを学び直しKYTで危険感をUP。  
★『体感道場』の労災体感機器（転倒・切創・巻き込まれ他）で事故の怖さを体験！

ローラー上に足を乗せ  
転倒の怖さを体験！

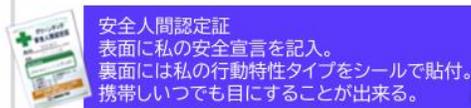
### 業務災害生の声



被災社員や関係者にインタビューし動画で社内展開（4回/年）。当時の様子、労災発生後の生活の変化、家族が感じた気持ちを理解し1件の重みを知る。

QRコード  
からすき間  
時間に視聴

## やってみての効果



安全人間認定証  
表面に私の安全宣言を記入。  
裏面には私の行動特性タイプをシールで貼付。  
携帯いつでも目にする事が出来る。

KKマッピング、安全人間育成道場を受講した社員は安全人間に認定。認定証を手にした社員はゼロ災継続中！痛い思いをしたくない、家族や周囲に迷惑を掛けたくないという意識が高まり、安全職場への改善活動に結びついている。

## 今後の目標や展望

安全人間育成道場を定期的にブラッシュアップ。社員が楽しんで取り組むことが出来る活動を推進していく。

## ポイント

労働災害の防止のために最も重要な作業環境の確保に加えて、働く人の不安全行動の抑制を図る取組です



ブロンズ賞



## 業務負担軽減と危険箇所の「見える化」で労災防止につなげる

事業者名：社会福祉法人 三幸福社会  
 業界・業種：医療・福祉  
 従業員規模：300～  
 地域：関東

### 背景（課題・ニーズ）

社会福祉施設の労働災害が増加傾向の中、介護職員の身体こそが資本という考えの下、職員の意見を参考に、業務負担の軽減や職場の危険を「見える化」することで労働災害を減らして職員一人ひとりが働きやすい環境づくりを行っている。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### ①業務負担軽減の取組

- 1) ケアアテンダントを採用し、介護補助業務等分担することで負担を軽減している
- 2) 職員からの要望を聞き、眠リスクランを導入。夜間時の負担軽減に繋がっている

#### ②腰痛予防体操

厚生労働省YouTube（MHLWanzenvideo）の動画を活用し、業務開始前後や休憩中など様々なタイミングで行っている。自宅でできる体操など、様々な種類の体操を共有している。



#### ③危険箇所の見える化

職員のヒヤリハット事例を共有し対策を行っている。入浴場などの転倒リスクが高い場所に危険ステッカーを貼り、転倒災害を防止している。

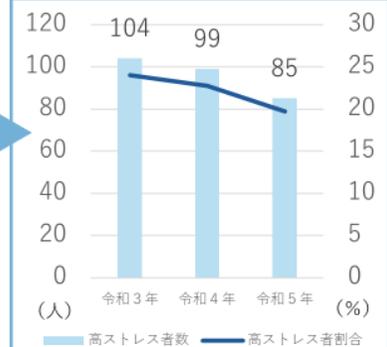


#### やってみての効果

業務負担が減少し、眠リスクランを導入した施設では残業時間は半分程度に減少した。高ストレス者も昨年度比3.1%減少、労災事案も令和3年度と比較して令和4年度で半数に減少

#### 今後の目標や展望

今後も職員が働きやすい環境を整備するために、職員の意見等をヒアリングして課題を解決していきたい



### ポイント

社会福祉施設で「働く人」の立場にたった、安全と安心の確保のための総合的な取組です



## 社員の座りすぎ・運動不足を解消 運動習慣のある社員比率を60%以上へのチャレンジ

事業者名: 株式会社システムリサーチ  
業界・業種: ソフトウェア業  
従業員規模: 約140名  
地域: 関西/兵庫県

### 背景(課題・ニーズ)と対策(取り組み内容)

当社では、IT企業の仕事柄、座っている時間が長く、運動不足の解消や腰痛・肩こりの予防、心身のリフレッシュが社員の健康課題となっていました。そこで新たな取り組みとして、2022年度からリフレッシュタイムを導入し、毎日15時に全社一斉にラジオ体操を実施しています。また、健康づくりに必要な環境整備として、ぶら下がり健康器、体組成計、握力計、長座体前屈計、血圧測定器などを設置し、昼休憩時等に利用しています。さらに、全社一斉の体力測定を実施し、年齢別平均値と実年齢との比較を体感する機会を提供しています。啓蒙活動としては、腰痛体操やストレッチ&筋トレプログラムのポスターを貼り出し、社員の意識向上に努めています。2023年度は社内チャットツール掲示機能を使い、Sports in LIFE様からご提供いただいた健康動画9本を定期的に発信し、携帯で動画を閲覧できる仕組みを利用して健康づくりの啓蒙活動に役立てています。



### やってみての効果

社員の運動習慣比率(自社定義)は、3年目の調査で約43%から最新の調査で約56%に増加し、運動習慣の広がりや健康づくりへの関心が高まっています。その他にも健康経営優良法人に2020年度から4年連続で認定されています。

### 今後の目標や展望

運動習慣の定着化をより促進するための啓蒙活動や、社員自らが企画する様々な健康づくりイベントを推進するとともに、地域と連携してスポーツ大会への参加やプロギングなどを実施していく計画です。



## ポイント

社員の方の自主的な運動促進・定着のための仕掛け・仕組みづくりの取組です



パール賞



# 転カツ！ ～転倒予防活動～



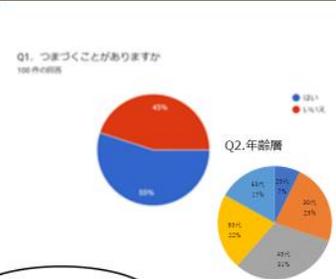
事業者名：社会福祉法人 愛生福祉会  
 業界・業種：医療・福祉  
 従業員規模：107名(令和6年10月時点)  
 地域：関東/神奈川

## 背景（課題・ニーズ）

当施設開所以降14年間で3件であった労働災害（骨折）は直近2年間（2022～2024年）で4件という急速な増加を辿り、また、その要因は「足をひねった」が75%を占め、俊敏性や重心コントロールが明らかな課題となった。そこで、安全衛生委員会では「転カツ！～転倒予防活動～」と題し、空手の型（沖縄首里手の古伝型）を取り入れ「中心軸作り」「重心移動」の獲得等、改善に取り組んだ。

## 取り組み・活動内容

### ①事前アンケート(実態の把握)



### ②運動機能測定(体力の確認)

100年ライフ 安全・健康に働く  
**転びの予防**  
 体カチエックシート

心



### ③転倒予防運動(能力の改善)

9/26

安全衛生委員会  
**転倒予防**  
 田谷の里健康空手  
 14:00～15:00

技

護身術！

## 取り組みの結果

事前アンケートでは、先ず転倒に興味を持つ職員が少なかった。しかし、運動機能測定を実施し、自身の予測能力と実際の能力の差異を感じた事で、転倒リスクを再確認出来た。結果、興味・関心を高めた状態で転倒予防運動に繋げる事が出来た。今後も上記内容を継続し、事後アンケートを実施して予防に繋がる結果を出せるよう取り組んでいきたい。

腰を落とす！

## ポイント

働く方の転倒災害の予防のため、各自に気づきを促しながら、身体機能の維持向上に繋がる運動等を促進する取組です



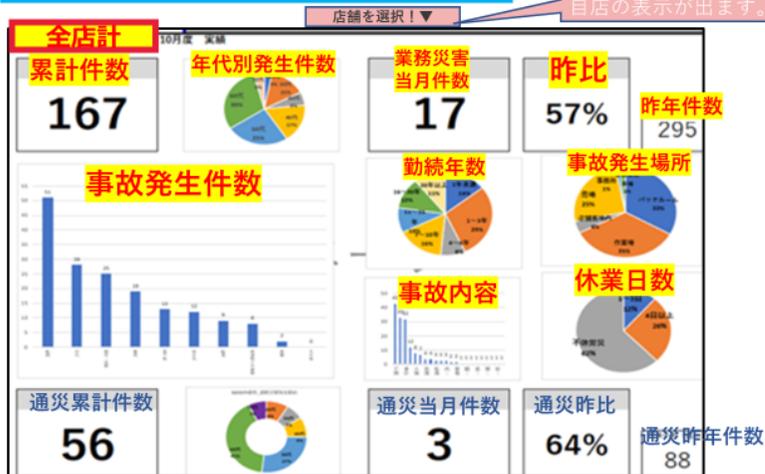
# 労災発生の傾向は？ 労災ダッシュボードで分析・対策だ！

事業者名：イオン北海道株式会社  
 業界・業種：総合小売業  
 従業員規模：19,022名（24年2月末）  
 地域：北海道・東北/北海道

## 背景（課題・ニーズ）

当社は全道各地に総合スーパー、スーパーマーケット、ディスカウントストアなど様々な業態を展開しています。しかし、各店舗の規模や地域特性により、労働災害の発生状況やその原因は異なります。これに対応するため、各店舗に適した分析と対策が求められています。そこで、各店舗にあった分析・対策を講じるため、労災データをダッシュボードを用いて一目で把握できるようにしました。

## 取り組んだプロジェクト内容



情報を可視化し、一目で自店の労災の全体像がわかります。全店計と比べることで、自店の労災の特徴を分析をでき、防止対策を進めるためのデータ取得が容易になりました。

A店



B店



C店



業態・店舗規模によって傾向が違う！

## やってみての効果

24年度上期 業務災害発生件数

昨比 **86%**

特に！！

長年の課題であった「切れ・こすれ」の労働災害が昨比**66.7%**と大幅減少！



# 夏・冬のゼロ災運動で 労働災害防止対策を加速する！

事業者名：イオン北海道株式会社  
 業界・業種：総合小売業  
 従業員規模：19,022名（24年2月末）  
 地域：北海道・東北/北海道

## 背景（課題・ニーズ）

当社は、一昨年のアワードにおいて「冬のゼロ災運動」でシルバー賞を受賞いたしました。この取り組みは全国の皆様から高く評価されました。この成功を基に、労働災害防止の取り組みをさらにブラッシュアップし、形骸化しがちな対策を見直しました。具体的には、夏と冬の年2回、定例のイベントとして実施することにより、以下の2つの目的を達成することを目指しています。

- ① 従業員の労災防止風土の醸成 季節ごとの労働災害に対する意識を高め、従業員一人ひとりが安全に対する責任感を持つ機会を提供しました。
- ② 重点取組の決定と統一 全店が同じベクトルで取り組むための重点取組を決定し、効果的な労災防止策を全社で共有・実施しました。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 夏のゼロ災運動2024

STOP! 無くそう! 熱中症 切創災害

2024年7月11日~9月10日

23年度真夏日日数

札幌	30日 (8.6日)
旭川	30日 (10.9日)
帯広	26日 (4.1日)
室蘭	11日 (0.8日)
帯広	31日 (12.5日)

昨年5~6月 労働災害発生件数

切創が最多!

### 夏のゼロ災運動2024 重点取組項目

重点取組① 熱中症対策

- 勤務時の熱中症対策
  - ① 服装、涼感素材の着用 (Webサイトの掲載)
  - ② 休憩時間・休憩場所の確保
  - ③ 体調管理と自己予防の徹底
  - ④ 季節的な服装・涼感素材の確保 (お弁当箱の準備)
  - ⑤ 熱中症対策の啓発
    - ・労災ニュースでの取り上げ
    - ・取次ぎでの実施
    - ・ヒスケアの徹底

重点取組②「切創災害」対策

- 切創災害対策
  - ① 安全靴の着用と点検の徹底
  - ② 新規入社者の正しい履き方の研修の徹底
  - ③ 靴の点検によるヒスケアポイント

### 冬のゼロ災運動 2023

踏切! 無くそう! 転倒災害

2023年12月1日~2024年3月31日

【22年度 各店の取り組み内容】

- 危険マップを作成し、危険箇所の確認
- 危険箇所に赤とシツプを置き、いつでも誰でもお掃除できる状態に
- 従業員総務課と店舗入り口付近にシツプを常備
- 毎朝靴を、靴入れに注意喚起を実施

従業員の間で広く浸透し、もう一つとして、転倒災害の発生も減りました。

### 冬のゼロ災運動2023 重点実施項目

実施項目① 店舗数域内の安全対策

- 従業員出入口の整理、危険箇所の撤去と危険箇所のシツプを貼る。
- 従業員駐車場に店舗との境界線を明確にすることで、歩行・搬送時の衝突を減らす。
- 危険マップ (又はハードマップ) を作成し、注意を呼び付ける。
- 降雪発生時、危険マップで記した危険箇所可能な範囲で、スコップ等を設置する。

実施項目② 通勤時の転倒対策

- いつを運んでも安全に通勤出来るように早めの準備を
- 冬靴 (滑りずらい履物)、履物の点検。
- すべり止めのマットを履物に貼る。
- ながら歩行 (スマートフォン、電話) をしない。
- ポケットに手を入れないで、手袋を着用する。
- 踏切に歩かされて、滑らない方がない。
- すべりずらい履物 (凍結歩道、地下鉄出入口、バス停、車の出入口がある歩道) を理解する。

実施項目③ ユガを防ぐ服装・体操の推奨

- 靴に同時に、タイツを履くことを推奨する。
- 帽子、手袋、マフラーを履用し、防寒を徹底させる。
- 靴に滑り止めテープを貼る。靴底の溝にコトコトが貯まる。
- 後に靴に滑り止めテープを貼る。かかばはコトコトが貯まる。
- ストレッチや準備体操をして、ケガを予防する。

選定する重点取組は夏は「熱中症」、冬は「凍結路面对策」はマスト。その他の重点取組は昨年の実績や現在の状況を鑑み都度決定する。

## やってみての効果

今夏の北海道は非常に暑く、札幌市では真夏日が18日と例年より10日も多くなりました。しかし、当社では熱中症による労働災害は0件でした。一方、冬季の転倒災害については、札幌市の凍結路面による転倒での救急搬送が過去最多を更新する厳しい環境であったものの、当社では昨年より転送災害の件数は微増にとどまりました。これらの成果は、従業員一人ひとりが季節に応じた労働災害への意識を高めた結果であると言えます。

なんでも酒や  
**カクヤス**

## ファン付きウェアと警戒アラート で熱中症を未然予防！

事業者名：株式会社カクヤス  
業界・業種：小売業  
従業員規模：約5,500人  
地域：関東/東京

### 背景（課題・ニーズ）

当社は屋外での作業や運転が多く、特に夏場は車内や外気温が非常に高くなります。車内でのクーラーが効きにくい状況や、荷物の積み下ろし作業を行う際に高温多湿、直射日光、無風などの条件下が、熱中症リスクを高めることから意識的に対策を講じております。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 【ファン付きウェア購入補助】

内蔵の小型ファンで身体を冷やし、熱中症などの予防に効果がある「ファン付きウェア」を購入希望者に対して補助金を支給しました。暑い環境でも快適に作業ができ、疲労やストレスが軽減され作業効率が向上します。さらに、体の冷却に使うエネルギーを押さえ、体力を長持ちさせるほか、長時間の作業でも集中力が保たれやすくなります。



#### 【熱中症警戒アラート配信】

翌日の熱中症警戒アラートを確認し、暑さ指数（WBGT）が33℃に達すると予測された場合、イントラにトピックスとともに当社が運営展開する首都圏・関西・九州ごとに発信。暑さへの「気付き」を促し熱中症への警戒を呼びかけました。



### やってみての効果

昨今の相次ぐ危険な暑さに対する意識が高まったほか、従業員が進んで暑さを避ける工夫をするなど、一定の効果があつたと考えます。

### 今後の目標や展望

来夏は「暑熱順化」の重要性について、より理解が深まるよう工夫した発信方法を検討するほか、さらに高性能なファン付きウェアを従業員に提案できるよう討議を進めます。

## 【安全な職場づくり部門】



## フォークリフト事故『ゼロ災害』を目指す (解釈差をなくすためのよりわかりやすい安全教育)

事業者名：ロイヤルホームセンター(株)  
 業界・業種：小売  
 従業員規模：約4,000人  
 地域：近畿/大阪

## 背景 (課題・ニーズ)

- ・フォークリフト事故発生→マニュアル内容の理解度に差があり、結果違反による事故が多い。
- ・文字の多いマニュアルだけではイメージがしにくい⇒活字中心の教育コンテンツを見直す。

## 目的

- ・フォークリフト事故『ゼロ災害』の達成
- ・フォークリフト安全週間を定め、新コンテンツを用いてマニュアル遵守の為の啓蒙活動をおこなう。

## 取り組んだプロジェクト内容

目と耳に直接的に訴えかけ、理解のスピードを上げ、且つ理解を深めることで「実行力」を高める⇒安全週間に向けて以下のコンテンツを配信



## やってみての効果

2024年度のFL累計事故件数は減少傾向→9月末時点で前年比△60%  
 研修後の従業員理解度99.8%

## 今後の目標や展望

- ・KYT活動および過去の事故事例の動画化
- ・フォークリフト作業指揮者向け教育動画の配信
- ・マニュアルの動画化 (行動が伴う手順の動画化)



一人ひとりが自らの安全と健康を守る意識を高め  
組織全体の安全文化を醸成に力を入れています。

事業者名: DACグループ  
業界・業種: 広告業  
従業員規模: 920名  
地域: 東京

## 背景(課題・ニーズ)

従業員の安全と健康の確保は、企業活動の基盤であり、会社が成長し続けるためには社員の健康が大切だと考えています。トップダウンではなく、一人ひとりが自らの安全と健康を守る意識を高め、組織全体の安全文化を醸成できるよう楽しく参加でき、学びを深められるような施策を実施することを意識しています。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①衛生担当によるnote「月刊ナイチンゲール」の発行

社員の労働災害防止や疾病予防や健康保持・増進のための情報発信としてnoteにて「月刊ナイチンゲール」を毎月掲載しています。記事の担当はグループ会社それぞれの衛生担当が持ち回りで書いています。記事の内容は社員一人ひとりが幸せでいきいきと働けるように、「社員の健康」に繋がればなんでもOK!腰痛予防策やおすすめのストレッチ方法や社員の健康増進法など、楽しく読んでもらえるような記事を掲載しています。



ぜひ読んでみてください!



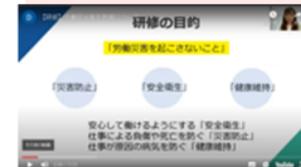
### ②健康ウォーキングの実施

安全衛生活動の取り組みについて社員が主体となって取り組めるよう、誰でも参加可能なウォーキングのイベントを開催しています。労働現場で増える「転倒」事故の対策として、ウォーキングが有効だと考え、2021年から毎年実施しています。



### ③オンラインでの安全衛生教育の実施

安全かつ健康的な職場環境で働くための知識を習得し、労働災害や健康被害を未然に防ぐために実施しております。在宅勤務等でも受講できるように、オンラインで実施し、イラスト等も使い、わかりやすい内容にしています。また相談窓口等も伝え、なにか困ったら相談できるような体制づくりも実施しています。



## やってみての効果

①月刊ナイチンゲールについては最高PV数13,136となっており、社内外問わず多くの方に見ていただいていると感じています。毎月、執筆者が変わることもあり、さまざまな感性や角度からの記事を掲載しているので、飽きずに楽しく読んでもらっています。②ウォーキングは開催して4年目になりますが、毎年多くの方に参加いただいております。参加者同士で声をかけあって励まし合うことでコミュニケーションが生まれ、歩くことを意識し、足の筋量も実感していると社員からの声をいただいております。③オンライン安全衛生教育はコロナ禍から開始しておりますが現在も多様な働き方があるなかでも、きちんと研修を受けてもらっていると感じています。また今後もさまざまな企画を考え楽しく社員全員で安全な環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。

## 労働災害防止

### ①危険見える化ラミネート貼付

(目的) 発生頻度の多い労災事故の危険に見えるか化し、注意点を共有

(貼付場所) フライヤー付近の壁      下げ場の壁      包丁殺菌庫の扉      スライサー付近の壁      パントリーの壁



事業者名：株式会社1 & Dホールディングス  
 業界・業種：焼肉レストラン・肉の小売業  
 従業員規模：社員650名、パートアルバイト10450名  
 地域：関西・関東・九州・中京・中四国

### ②一旦停止による衝突・火傷事故の防止

(過去事故事例) ・熱い料理を運ぶ従業員とお客様（子供）が通路で衝突し、こぼれた料理でお客様、従業員の火傷事故発生  
 ・熱い料理を運ぶ従業員のトレイに別の従業員が接触し、こぼれた料理で双方火傷

(目的) 通路が交差する床に一旦停止シールを貼り、一旦停止で左右確認し、従業員間、お客様との衝突事故を防止

(運用) 30分毎のタイマーセットにより、忙しい中でも一旦停止の意識を啓蒙





## 安心して働ける介護現場づくり ～職員のやりたい・やりがいの実現へ～

事業者名：社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
 業界・業種：医療・保健・福祉・介護  
 従業員規模：約16,000人  
 地域：静岡・東京・千葉・神奈川・兵庫  
 奈良・愛媛・鹿児島

**【課題】**  
 介護の現場＝身体的負担・心理的不安が大きい  
 →人手不足

**【Mission】**  
 職員の心身を守り、安心して働ける職場にする

**【具体的な取り組み】**

①業務の切り出し  
 : 介護のプロがやる業務とプロでなくてもできる業務  
 (↓元気な高齢者や障がい者へ)

②ICT機器の導入

記録・業務管理

見守り支援

インカム

移動・移乗補助



**【成果】**

項目	導入前	導入後	増減率
①事故発見件数	59件	81件	+37.3%
②夜間帯歩数	43,083歩	38,244歩	-11.0%
③巡視回数	32回	20回	-39.0%
④超過勤務時間	4.40時間	2.70時間	-39.0%

→身体的負担が軽減

項目	導入後		
①心理的不安	軽くなった 75.0%	変わらない 18.0%	重くなった 7.0%
②環境	静かに 91.0%	変わらない 9.0%	騒がしく 0.0%

→心理的不安が軽減

**【これから】**  
 職員のやりたい・やりがいの実現へ！



## 全職員のポジティブアクション！ 腰痛ゼロ災の環境から業務効率化・生産性向上発展

事業者名：日野サザンポート  
業界・業種：福祉・介護  
従業員規模：1418名(R6年7月現在)  
地域：関東

### 1. R5年度からR6年度に向けた全職員のポジティブアプローチ

令和5年に開始した楽しみながらポジティブに腰痛対策プロジェクト『腰痛(コシータ)to腰楽(コシラック)』。

取組み開始の令和5年度から現在に至るまで、腰痛労災のゼロ災を維持継続中である。

本プロジェクトをきっかけに、腰痛対策は勿論の事、「働きやすい職場環境の推進も更に良くしていこう！」と全職員がポジティブに課題抽出や課題解決へのアプローチをしてくれるようになった。

現在は、腰痛対策に留まらず、業務効率化・生産性向上に向けた体制整備として、ICT化・介護ロボット導入の検討会を設置し、令和6年度中の導入を目指し、整備推進している。

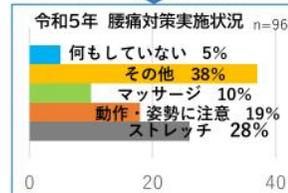
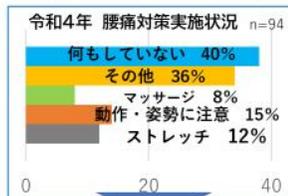
### 2. 取り組んだプロジェクト内容

#### ①腰痛to腰楽PJの継続的取組

「これだけ体操」「啓発ポスター掲示」  
「研修開催」「危険予測回避の取組」



#### ■腰痛対策に対する意識変化



#### ②ポジティブアプローチ

課題抽出・解決の取組  
働きやすい職場環境の推進



#### ③業務効率化・生産性向上への体制整備

「ICT化・介護ロボット導入」  
検討会の設置、体制の整備



# トランス<sup>2</sup> (移乗×変革) formation

トランス= 移乗の略語 (transfer)



事業者名：社会福祉法人聖隷福祉事業団  
 介護付有料老人ホーム浦安エデンの園  
 業界・業種：医療・福祉  
 従業員規模：法人1万6千名、当施設50名  
 地域：法人本部静岡県、当施設千葉県

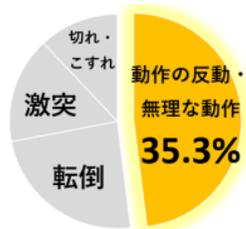
**変革～マインドチェンジ～ 抱え上げない・持ち上げない・引きずらないケアをめざして**

## 背景・ニーズ

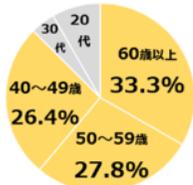
当法人（有料老人ホーム管轄事業部）では、年齢層に関係なく誰もが安全に働ける職場環境構築をめざしています。最近の法人調査にて、腰痛予防の安全策としていた複数名による介助・重量物取り扱い場面での受傷に増加傾向がみられました。そこで、職場環境での「動作の反動・無理な動作」の見直し、働く職員の意識改革から労働災害の減少に取り組みました。

## 2023年度労働災害内訳

### ▼ 事故類別



### ▼ 年齢別



※管轄施設10施設分の集計データ

## 不安全行動を誘発する要因

- ・情報のアップデート不足
- ・提供する支援が、自立促進阻害や二次障害（筋緊張・褥瘡・誤嚥性肺炎）の発生に繋がり重度化

**作業環境・組織的要因**  
 が大きい

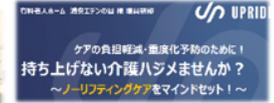
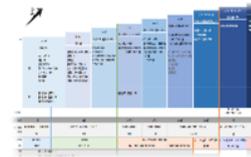
## 対策

重度化防止目的

基本ケア  
 (食事・入浴・排泄)  
 に関わる  
**移乗・姿勢**  
 支援の見直し

## 1 取り組み内容

### 意識改革 (研修・オンラインセミナー受講)



▲ 教育プログラムに沿った人材育成

▲ 「目から鱗」と驚きばかり 従来「働き方」抱え上げる・持ち上げるケアがご入居者にも職員にも不利益ばかりだったの？

▲ 新たなケアメソッド「抱え上げない・持ち上げないケア」をインプット

## 2 取り組み内容

### 入居者と一体となった取り組み (リフト導入・

姿勢観察から、適正な支援方法の見直し)



▲「怖いと思っていたけど、包まれて安心・お喋りする余裕もあるだね」

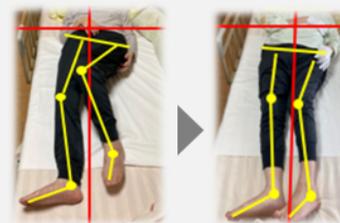
▲ランドマークに合せた適切なポジショニング (臥位・座位姿勢)・移乗方法を検討、実践

▲まずは入居者体験

▲得た知識・スキルをアウトプット

※ランドマーク：本人の中心線に対し、耳・肩・腸骨・膝・踝が水平になるようにポジショニングしていくもの

## やってみての効果・今後の展望



症例者1名、5か月で姿勢改善・**食事時間減少！！** (自力摂取)

### － 取り組みから見たこと －

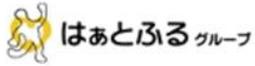
今まで「無理な動作をしていた」、「こんなに体が楽、安全！」自分たちが変わることでご入居者の状態により変化をもたらすご入居者の変化が職員にやりがいを実感させる好循環になる

### － 変革に向けた次への一歩 －

- ① 介護場面以外の事務作業などでの無理な動作の見直し
- ② 計画的な備品整備
- ③ 全ご入居者、24時間の移乗・姿勢保持介助スキルの刷新
- ④ 変革によるご入居者の重度化予防事例を法人内で共有

職場の環境改善を職員の負担軽減とご入居者の重度化予防に繋げ、

**「労働災害ゼロ」をめざしていく**



# 頭と身体は使ってナンボ！動いてナンボ！

事業者名: はあとふるグループ  
 業界・業種: 医療・福祉  
 従業員規模: 300～  
 地域: 近畿ブロック

## 背景(課題・ニーズ)

ロコモティブシンドローム(以下:ロコモ)は高齢労働者だけの課題と捉えられがちだが、当グループでは、車の利用増加やデスクワークによる活動量の減少などから、すべての年代の職員に該当する健康課題と考えている。そこで、全職員を対象にロコモ健診を実施している。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ① ロコモ健診の実施

10月に、全職員を対象に立ち上がり・2ステップ・ロコモ度テストを実施

#### 立ち上がりテスト



高さ40・30・20・10cmの台に膝かけ、膝から下は70度の角度で反動をつけずに片足で立ち上がることでできるかをチェック

#### 2ステップテスト



両足をそろえてスタート地点に立ち、そこからできるだけ大股で、1歩・2歩と歩く。この歩いた長さを使って移動機能の健常度をチェック

#### ロコモ25



生活状況や運動器に関する25の質問に答え、自分の運動器の状態を客観的に振り返るとともに、ロコモ度を測定

### ② 併設フィットネスジムの利用促進

#### 地下パフォーマンスエリア -エントランス楼地下-



#### カーディオエリア



#### ベッドエリア



#### フリーウエイトエリア



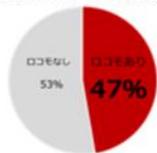
### ③ 朝礼時のエクササイズの実施



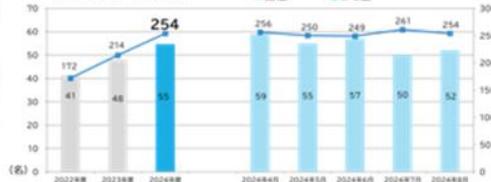
職員が集まる朝礼でフィットネスジムトレーナーによる「はあとふるエクササイズ」を定期的実施

## やってみての効果

### 【ロコモ該当率】 全体(1つでもロコモ該当者)



### 施設利用者数



全職員のうち78%の職員が参加した。

就労世代においてもロコモ該当者は多く、運動習慣のない方はロコモ該当率が比較的高い結果となった。

この健診によって職員一人ひとりの健康意識が向上し、健診を開始した2021年から併設フィットネスジムの利用者数が増加した。

## 今後の目標や展望

動くことの大切さを発信するグループとして、そこで働く職員の運動器の健康を守り、その人らしく安全・健康に働き続けることは、ひいては患者さんやご家族、地域に提供するヘルスクアの質にも大きく影響します。まずは、働く私たち自身が「ロコモゼロ」を目指し、多くの職員が運動習慣を持てるように努めます。そして、併設フィットネスジムの職員利用者数が増加し、ロコモ該当者がどの程度改善されたのかを調査するなど、引き続き啓発活動と健診に取り組んで参ります。



## 働きやすい職場環境の構築をめざして ～腰痛ゼロへの挑戦～

事業者名：社会福祉法人天神会  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：約400人  
地域：中国/岡山県

### 背景（課題・ニーズ）

当法人では、高齢者介護サービス及び障害福祉サービス等18の事業を行っております。2015年より、介護現場における腰痛労災の増加対策、職員の健康管理の推進、働きやすい職場環境の構築を目的に、法人を挙げて腰痛予防対策「腰痛ゼロへの挑戦」を掲げキックオフ宣言をしました。これまで様々な取り組みを実施し、現在も継続した活動を行っております。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 研修・組織作り・キックオフ

- 腰痛予防対策に先進的に取り組んでいるオーストラリア（アデレード）で実地研修を受けました。
- 腰痛予防対策に取り組むために、組織体制を明確にしました。
- 2015年8月26日、「腰痛ゼロへの挑戦」を掲げキックオフ宣言をしました。



#### 啓蒙活動・体操の推進・職員教育

- 啓蒙活動として、ポスターを作成し職員へ意識付けが出来る効果的な場所へ掲示を行いました。
- 腰痛予防対策として、「これだけ体操」を取り入れ、各施設で実施しました。
- 腰痛対策に関する教育を実施しました。現在でも新入職員や外国人労働者に対しても適時行います。



#### 職場ラウンド・改善活動・報告会

- 腰痛対策の委員や衛生管理者、現場管理者と共に各施設ラウンドを行い、腰痛の原因となる業務や作業姿勢の確認を行い業務改善に繋がりました。
- 年度末には、腰痛予防改善報告会を開催し、各施設の腰痛予防対策に関する改善活動を報告し、優秀な改善に対し表彰をしました。



#### 標準化・継続教育・継続活動

- 各施設で実施した改善活動について、各施設で共有できるように、CaseStudyの作成を行う。
- ケアの標準化を目的に、全職員が携行している「てんじん心得帖」にも記載し、標準化や教育に役立てている。
- これらの活動を、現在も継続的に活動している。



### やってみての効果

2019年介護現場職員の腰痛保有者は、52%であった。2020年では51%と大きな変化はなかった。2023年では、介護現場職員の腰痛者37%、2024年度では35.8%と減少傾向となった。少しずつ、様々な活動の効果が伺えてきました。

今後も安全で安心な介護サービスを提供するためにも、腰痛労災発生の防止、腰痛ゼロへ向けて継続的な活動が必須である。



# 労働災害ゼロへの道！大切なのはPDCAサイクル！！

事業者名：社会福祉法人  
 おおさわの福祉会  
 業界・業種：医療・福祉  
 従業員規模：100～299  
 地域：富山県

『介護＝腰痛』というイメージがありませんか？当法人では腰痛予防委員会を立ち上げ、腰痛による労働災害ゼロを目標に計画→実施→評価→改善を繰り返し行っております。介護業界の人材不足が加速する世の中だからこそ介護＝腰痛というイメージを変えたい！働きやすい職場を目指したい！介護業界を盛り上げたい！という強い気持ちで取り組んでおります！

## P 腰痛予防委員会による計画

腰痛ゼロを目標にどのように達成するかを委員会にて検討

委員会にて年間プランの作成

## D 各部署での実施

委員が各部署に計画を持ち込み実施

法人内研修の実施



テクノロジー活用



予防月間の実施

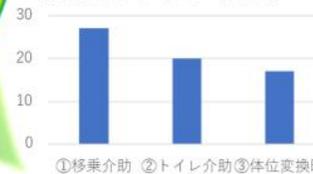


腰痛による労働災害ゼロ継続中  
 大切なのはPDCAサイクル！

## C 委員会での評価

委員会にて腰痛チェックリストの集計、計画進捗評価を行い改善点、問題点を抽出

腰痛を感じる時（人数）



腰痛チェックリスト集計リスクの洗い出し

計画の評価

## A 評価の結果から改善

評価をもとに改善に取り掛かる



リスクに有効な物品の購入



外部研修参加



マニュアル化

2012年以降腰痛による離職ゼロ継続中



## 介護施設も自動化やICTの時代に！

### 背景（課題・ニーズ）

以前より腰痛などのからだの不調を訴える介護スタッフの声が多く、不調→休む→人手不足→不調の悪循環に陥っていました。労働基準監督署や安全衛生コンサルタントに指導していただきながら課題を抽出し改善に取り組みました。スタッフが健康で笑顔で仕事に取り組めることが利用者の方のサービス向上にもつながることに気がつきました！

### 取り組んだプロジェクト内容

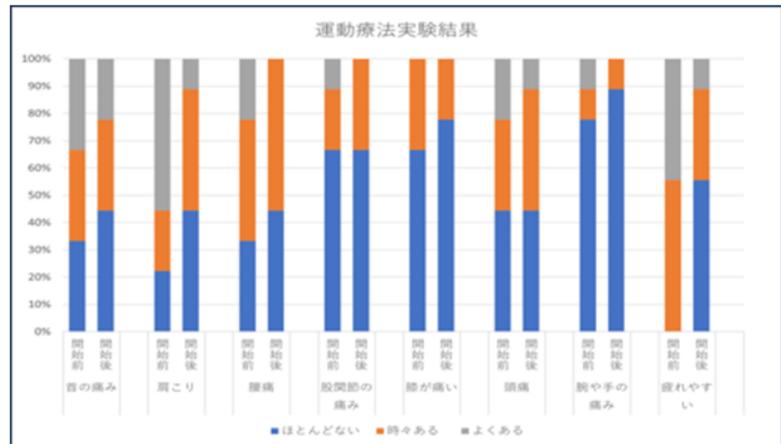
さまざまな取り組みを行いましたが、特に効果のあった内容は下記のとおりです。

- 介護ロボットや福祉用具の導入  
アンケートを実施し、どんな場面でどのように腰に負担がかかるか、負担の大きさや負担の頻度をチェック。抱え上げる動作や長時間同じ姿勢（前かがみや中腰）の作業時に有効な介護ロボットや福祉用具を導入した。
- IOTを活用した作業効率の向上、作業負担の軽減  
見守り機器を導入し、夜間の巡回回数を1/5に削減。入所者の睡眠時の状況をパソコンやスマートフォンで確認できるようにした。
- 身体機能を保持増進するための運動療法の実施  
不調にならないからだづくりを自分自身でできるよう、外部インストラクターに来ていただき、職員に運動療法の指導をしてもらった。



### やってみての効果とさらなる取り組み

トライアンドエラーを繰り返しながら、職員が安全に働ける職場づくりに取り組んでいます。昨年度、実験的に仕事時間中に15分程度毎日運動療法を実施し、体調の変化について調査を行いました。その結果、からだの不調が明らかに改善され、また、睡眠の質の改善も見られました。その結果をうけ、今年度からは職員が就業中に運動などの時間をとれるよう、1日15分のリフレッシュタイムを設けました。





株式会社リエイ

## 社内研修制度の充実

入社時研修をはじめ定期的な研修を実施することで  
職員の腰痛予防を継続的にサポート

事業者名：株式会社リエイ  
業界・業種：高齢者福祉  
従業員規模：施設数48か所  
地域：千葉・東京・埼玉・愛知  
大阪・兵庫・福岡

当社では、毎月入社した職員に向けて介護技術研修を実施しております。  
またその他のタイミングでも定期的の実施することで、腰痛予防の知識を発信。  
まずは、ボディメカニクスの理論を理解したうえで、利用者様にとっても職員自身にとっても  
安心安全な介護を目指しています。

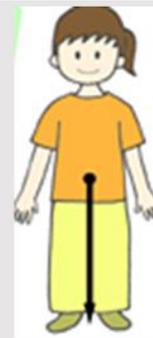
### 【実施研修】

1. 中途社員研修 月1回
  - ・安全衛生教育
  - ・介護技術研修
2. 1年目研修・2年目研修・3年目研修

### 【内容】

## ボディメカニクスとは

- ・支持基底面の理解
- ・重心を低くする





## 職場定着支援助成金の活用について

～腰痛災害防止のための介護設備・機器導入～

事業者名：社会福祉法人ロザリオの  
聖母会 ナザレの家あさひ  
業界・業種：保健衛生業  
従業員規模：300～  
地域：千葉県

### 1. 助成金活用のきっかけ及び助成金の名称

2016年、入浴支援に伴う支援者への身体的負担を軽減する為リフト付きシャワーキャリーの導入を計画。これを契機に2024年9月現在、7台の機器を導入。

機器導入に関する補助金を探すも見つけることができず、福祉機器を取り扱う業者さんに相談し当該助成金に関する情報を得て申請した。

助成金名称は「職場定着支援助成金（介護福祉機器等助成）」※現在この助成金は廃止となり、現在使用可能な助成金は名称などが変わっているようです

⇒ [https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/shinsei\\_kikai\\_fukushi.html](https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/shinsei_kikai_fukushi.html)

### 2. 助成金について（2016年当時の情報）

機器代金の1/2の額を補助を受けた。但し—法人上限300万円

当時の助成額はリフトの購入金額225万円×1/2=112.5万円

申請書等の作成や資料の準備などに係る負担感は？⇒助成金担当者が速やかに対応してくださったため、スムーズに申請することが出来た

♪機器導入後、腰痛を理由とする退職者は無→労働環境の改善と労働災害の軽減につながった♪

### 3. 課題

★計画期間及び対象となる介護福祉機器が決まっている⇒機器の金額などを合わせて事前に確認が必要

★機器以外の補助は非該当になる為機器代以外の経費は自己資金⇒資金繰りの検討が必要

★当法人は複数の施設・事業所があるが、場合により同一法人で既に助成を受けていた場合は助成額に制限がある為（同一法人内上限額の設定）法人内の助成金に関する情報の共有が必要

### 4. 腰痛災害防止のために

身体介護などは、ベッドからの移乗や移動、排せつや入浴など、その都度毎日行う行為のため、わずかな負担も積み重ねれば大きな負担（痛み）に変わり、場合によっては離職へとつながりかねません。そこで、事業者としては、職場の環境を整備することは当たり前ですが、職員の身体的な負担を取り除くことによって常に笑顔で利用者さんに接してもらうことで支援の質の向上につながることが出来ます。



# ウェルビーイング推進室を中心とした 職場全体の労災防止への取り組み

事業者名：社会福祉法人和光会  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：約760人  
地域：岐阜県(東海・北陸ブロック)

## ウェルビーイング推進室

保健師、看護師、臨床心理士等10名を擁する専門部署を設け、  
職員のメンタルを含め職員の健康管理、労災防止に取り組んでいます。



### 主な取り組み

#### 健康増進、健康管理

- 健康診断後の個別面談・相談
- メンタルサポート
- 職員を対象とした研修
  - ・ラインケア動画配信（全管理職視聴必須）
  - ・たばこ、睡眠セミナー
  - ・これだけ体操動画配信（全職員視聴必須）
  - ・女性の健康・アルコール依存防止
  - ・育児と介護の両立支援動画配信



動画配信▶

### 環境整備

- 各事業所の訪問による**職場環境**のチェック
- 50人未満の事業所を**含むすべての事業所に産業医を配置し、ウェルビーイング推進室と連携**して復職面談などの対応を実施

### 啓蒙活動

- 健康障害の予防のため、健康に関する情報を**通信発行や動画配信で発信**
- 安全運転講習の実施



ウェルビーイング通信▶

### 体力づくり

- 肺年齢測定会の実施
- 体力測定の実施
- さつきラン&ウォーク2024に参加  
／岐阜県で最大の参加者

日常的な運動習慣が定着し、運動不足の改善に繋がりました！



### 2023年度結果

- 定期健康診断受診率 **100%**を維持
- 定期健康診断後の精密検査受診率 **100%**を維持
- ストレスチェック受診率 **70%**以上
- 労働災害件数 **8**件
- 健康経営優良法人を **2**年連続で取得！  
職員の生産性等の状況「アブセンティーイズム、プレゼンティーイズム、ワークエンゲージメント、ヘルスリテラシー」を常に管理し、課題の早期発見へ繋がっています。

アブセンティーイズム	3.1 日
プレゼンティーイズム *1	56.6%
ワーク・エンゲイジメント *2	3.12 点
ヘルスリテラシー *3	3.71 点

\*1 QQmethod

\*2 ユトレヒト・ワークエンゲイジメント尺度 (9項目)

\*3 CCHLR度



# ペガサス ☆オリジナル☆ 3分ストレッチ チャレンジ

事業者名：社会医療法人ペガサス  
業界・業種：医療福祉  
従業員規模：300名～  
地域：近畿

## 背景（課題・ニーズ）

当法人の労働災害の中でも転倒災害が増加傾向となっていたことから、法人内の理学療法士や作業療法士を中心として、転倒防止チームを発足。チームを中心として協議を行い、オリジナルストレッチの原案を作成。どうやったら継続して取り組んでもらえるのか現場の意見を聴きながら、実施時間の調整や気軽にできるように工夫を行い、「ペガサスオリジナル3分ストレッチ」を作成し、転倒災害の防止の取組みを実施。

## 取り組んだプロジェクト内容

1. 転倒災害の防止のため、理学療法士、作業療法士等を中心とした転倒防止チームを発足
  2. 就業前等にストレッチを行うことで、転倒防止になると考え、オリジナルストレッチを作成
  3. 現場にオリジナルストレッチを見てもらい、意見を求める
- ★現場からの意見
- ・継続して実施できるものがよい
  - ・できれば短い時間
  - ・誰でもできる簡単なものがよい（50代や60代の職員が増えている）
4. 時間を短くするなどしてオリジナルストレッチを修正
  5. 覚えてもらうために、オリジナルストレッチの動画を撮影（できるだけたくさんの職員に協力を依頼）
  6. 動画を公開し、みんなに覚えてもらう
  7. 実施率向上のため、職員向けの全体研修内でも公開し、参加者全員で実施



## 取組み効果

- ・オリジナルストレッチの動画を公開後、転倒災害は現時点で0件
- ・オリジナルストレッチをみんなで一緒にやることで、就業前にあいさつや雑談などを行うコミュニケーションの場となった。

## 今後の課題

- ・継続して実施してもらうことが重要。法人内の研修やイベント等の開催時に、みんなで一緒にやるなどペガサスオリジナルストレッチを実施する機会をつくり、継続実施に取り組んでいく。

医師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・クラーク・事務





## 送迎車交通ヒヤリマップで交通事故防止

社会福祉法人みゆき福祉会  
業界・業種：保健衛生業  
従業員規模：100～299  
地域：北海道・東北

マップを紹介いただく機会があり作成をスタート。現在も分かり易いとの声を受け毎年更新中。委員会等で危険と感じた場所等の情報を集め、マップ上に見える化して職員に周知している。初めて運転する職員にも危険箇所をイメージしやすく不安を解消できる。職員間で安全運転の意識や声掛けが高まる。今後も職員間で危険箇所を吸い上げ、リアルタイムに情報を更新していく。

### パッと地図からイメージできる

- ・ 込み合う道路
- ・ 街灯がなく見えずらい
- ・ 細い道で車がすれ違えない
- ・ 夕方は中学生が多い
- ・ カーブ直ぐに信号
- ・ 側溝に蓋が無い
- ・ 電柱と歩行者が重なる
- ・ 冬季は道路が凍結する



### 「駅周辺交通ヒヤリマップ」



### 「施設周辺交通ヒヤリマップ」



# 労働災害抑止対策

## 指導、教育、制度、ITツール活用

事業者名：リハコンテンツ株式会社  
 業界・業種：通所介護  
 従業員規模：276名（2024年6月）  
 地域：千葉県（本社）

### 1. 業務上の事故、怪我、不調

当社のデイサービス事業は主に要介護度の低いご利用者を対象としており、重大な労働災害は少ないですが、以下の労働環境に関する課題が存在します。

- ・ご利用者からの暴力による傷や打撲
- ・施設内の障害物や設備による怪我
- ・ご利用者、他スタッフからの感染症
- ・介護車両の運転中の事故
- ・ストレスや職場環境から来る心的不調
- ・人間関係のストレス
- ・長時間のパソコン作業や書類作成による目の疲れや肩こり

### 2. 労働災害抑止対策：指導、教育、制度

- ・指導、教育
  - ・入職時にご利用者への介助方法とともに、自らの防災対策についても指導
  - ・毎月「自主点検リスト」において休暇の取得状況を確認、適切な取得を指導
- ・制度
  - ・福利厚生策の一環として「医療コンシェルジュ」サービスを導入

### 3. 労働災害抑止対策：ITツール活用

- ・メッセージツール
  - ・全職員へのツール付与により、現場職員と労務担当者、現場職員と経営層等、縦横の垣根無く直接コミュニケーションが可能
- ・カメラ
  - ・本社事務所、施設フロアにカメラを設置、相互コミュニケーション、及び事故発生時の検証用記録等に活用
- ・送迎車ナビシステム
  - ・送迎先の住所などの基本情報と時間指定などの条件を予め登録しておくことで最適な送迎計画を作成可能。運転走行の記録、分析も行える
- ・帳票作成システム
  - ・携帯端末（iPod）を用い、バイタル、体力測定、LIFE基礎情報の登録を実施、事務業務の軽減を行う

### リハビリ型デイサービス：半日型の主な流れ

午前の部（9：00～12：00）の場合



リハビリ型デイサービスは本人のやる気を促し、確かな変化・成果を更なる目標につなぐことで、このリハビリ型デイサービスは「本人が行きたい」と望まれるのが大きな特徴です。



## 小規模事業だからこそ可能な安全な職場作り 職員から利用者へつなぐ安全ガイド

事業者名：株式会社ココカラミライ  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：約5名  
地域：京都府

新規事業の立ち上げに伴い、現時点で安全対策のマニュアルが整備されていない状況です。そのため、従業員と協力し、事業所内における【事故の予測・原因・対策】を議論し、利用者様を反映させたガイドラインを策定し、順次取り入れていく予定です。

### 【マニュアルの安全対策を意識付け】

#### 1. 導入時教育

初期教育: 新入社員や新しい職務に就く従業員に対して、安全対策マニュアルの徹底した教育を実施します。具体的な事例や過去の災害事例を用いて、実際のリスクを理解させます。

マニュアルの配布: 安全対策マニュアルを配布し、各自がいつでも参照できるようにします。電子版も提供することで、スマートフォンやPCからもアクセス可能にします。



周知



確認作業



【安全マニュアルシートで最終確認を行う】

### 【やってみての効果】

#### 1. 従業員のリスク意識の向上

初期教育や定期的な再教育により、従業員が日常業務においてリスクを意識するようになります。

#### 2. 事故発生率の低下

定期的な訓練と意識付けにより、過去に頻発していた事故が減少し、負傷者や物損の発生が少なくなります。

### 【今後の目標や展望】

#### 1. 職場の信頼感と連携の強化

同僚同士で安全を確認し合う風土が醸成されることで、チーム内の連携が強化され、職場全体の安全性が高まります。

また、会社が安全対策に真剣に取り組んでいることが伝わり、従業員の会社に対する信頼感が向上します。

結果的に、従業員の士気やモチベーションが向上します。



## 「安全第一！私の1年：個人目標達成と安全意識向上への挑戦」

事業者名：株式会社ビステム・クリーン  
 業界・業種：サービス  
 従業員規模：120名（パート社員含む）  
 地域：関東／神奈川

### 1. 背景（課題・ニーズ）

今までも、健康に注意するように、安全作業を心掛けるようにという注意や声かけ、日々の確認をしてきたものの、その場限りで終わってしまうことが結果に結びついていなかった。

### 2. 目的

目に見える形で目標を作成し、毎月、全員一緒に前月実績を報告することで意識の改善向上を図った。

### 3. 取り組んだプロジェクト内容

年度初めに「安全・品質・生産性」の3項目について 各個人で年間目標を設定した。安全が第一項目なのは「安全優先」という会社の考えの現れ。

目標には【**テーマ（何を達成するか）**】 【**達成レベル（具体的な目標）**】  
 【**達成手段（どのように達成するか）**】 【**今月の実績（何をしたか）**】を記述し、毎月の定期ミーティング時に報告を行い、それに対し全員でアドバイスを行った。

### 4. やってみたいの効果

- ①体質改善を行ったり、日々の健康自己管理を行うことで病気による休みが約80%減。
- ②『ヒヤリ・ハット』が蓄積されていき、情報を共有することで今年度無事故達成中。

### 5. 社員のコメント

【A君】「今まで、やらなければいけないと分かっているけど、日々の業務に忙殺されて結果を出せなかったが、周りの人たちへ報告するという責任感が生まれ、成果物を作成できました」

#### 目標設定シート（個人）

項目	達成手段 (どのように達成するか)	今月の実績 (何をしたか)
健康	・仕事以外の安全作業を第一に考える ・休憩は調整で、事務用は必ず休んで共有 ・作業中に起こった怪我が原因に気を配る	ヒヤリ・ハット報告 4件 (計15)
労働	・作業量が増えてから徐々に作業量を減らす ・新しい作業手順を覚える	他人から見られていることを意識して 作業量を抑える/減らす

#### 成果物の一つ「ヒヤリ・ハット」

【安全な職場づくり部門】

# 社員の健康と命を守る経営

## 【熱中症対策】

### 重症者0を継続する取組



事業者名：  
リライアンス・セキュリティー株式会社  
業界・業種：警備業  
従業員規模：230名  
地域：中国/広島



背景（課題・ニーズ）

●2007年に熱中症重症者発生 ●「警備業」は「農業」「建設業」に次ぐ死傷災害の発生 ⇒ ◎社員の健康と命を守るための強力な取組

取り組んだプロジェクト内容

毎年取り組み内容をブラッシュアップ／熱中症策資料配布・周知徹底、熱中症対策講習会参加、熱中症対策巡察実施（体調確認・指導）、ポカリスエット・水・塩タブレット配布、経口補水液準備・配布、熱中症対策キット装備、メッシュ素材キャップ導入、高通気性ヘルメット・安全ベスト・制服導入、ドリンクホルダー導入、業務用冷凍庫導入⇒氷配布、夏用クールマスク導入、社内安全講座開催、空調ベスト導入、冷感クールTシャツ導入、遮熱ヘルメット導入（ヘルメット内の温度を12度低減）、ミストファン導入、熱中症対策オリジナルキット配布、熱中症予防情報サイト（環境省）登録推奨  
2024年の熱中症対策集中巡察は過去最長7月6日（土）～9月16日（月）の73日間 ○対応管理者 延べ 85人 ○対象警備士 延べ 1,048人 ○対応時間 延べ 680時間 ○ミネラルウォーター 1,080ℓ(500mlのペットボトル2,160本) ○塩タブレット 40kg 等 配布

毎年7月～8月は熱中症対策集中巡察  
【対面での体調確認・安全指導】



やってみての効果

一人ひとりの社員の健康に向き合った結果、脳疾患や心臓疾患などの病気をしてしても復帰を目指す社員が増加。  
3年連続で健康経営優良法人(プライト500)認定

今後の目標や展望

気象庁観測史上1番暑い夏を2年連続更新  
2025年以降も異次元の熱中症対策  
労働者人口減少の中でも選ばれる会社に！

【2024年の新規対策】



【止まることなく進化を続ける熱中症対策】

- 2008年以降重症者0を継続中
- 熱中症の発生率が1/3に減少
- 多様な人材の満足度向上・定着
- 社員を大切にする会社の認知拡大
- 夏季の応募数・採用数が3倍以上
- 70歳以上のシニアが5年で2倍以上

【安全な職場づくり部門】



## 芸能従事者実態調査アンケート

芸能界の就業環境改善のために  
 ✨実態の見える化を促進✨

事業者名：一般社団法人日本芸能従事者協会  
 業界・業種：芸能業界・芸能従事者  
 従業員規模：会員数約52,000名  
 地域：全国

### 背景と課題

フリーランスが多い業界にはアンケートデータが少なく、特に芸能界の調査はほとんどありませんでした。そのため就業環境の整備に向けた取り組みがしにくい状況でした。そこで当協会では、労災や安全衛生、ハラスメントや芸能界のドライバーにまで目を向けて、実態調査アンケートを定期的実施しています。

### 実施した調査

#### ①ハラスメント実態調査

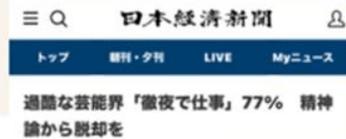
まず目を見張るのがハラスメントの多さで、パワハラ93.2%、セクハラ73.5%も起きていました。芸能界ならではの事例に脱いだら仕事が増えると言われた9.6%、同意なく露出の高い衣服を着せられた5%がありました。

文化芸術・メディア・芸能従事者

**ハラスメント  
実態調査アンケート5**  
 Arts Workers Japan

#### ②労災と安全衛生

長時間労働の常態化やトイレがない61.7%更衣室がない85.2%などの安全衛生状況の悪さや自殺願望が42.7%などの実態が明らかになりました。



**芸能従事者  
実態調査アンケート9**  
 労災と安全衛生2023  
 Arts Workers Japan

#### ③ドライバーの労働時間

2024年労働時間規制の対象となるドライバーは芸能界にも数多く存在していますが、この規制を知らない人が半数以上いることがわかったので、周知徹底のため勉強会を開催しました。



**芸能従事者  
実態調査アンケート**  
 ドライバーの労働時間  
 Arts Workers Japan

### やってみての効果

想定より多くの回答数があり、集計結果を共有することで「困っているのは自分だけではない」連帯感が生まれました。長時間労働の実態や新しいルールの周知不足が明るみに出たことで、新聞等にも報道され社会認識となり、建設的な対策を立てることができました。

### 今後の目標や展望

厚労省の「過労死等防止対策白書」でも芸術芸能分野が調査され重点業種となりました。必要な事項が詰まった「個人事業者等の健康管理ガイドライン」を遵守した取り組みを目指します！

## 2. サービス産業×エイジフレンドリー部門

## 社員の平均年齢上昇を見据えた安全衛生強化策の展開！

### 背景（課題・ニーズ）

当社は、お客さまの健康を応援する「健康応援企業」をビジョンに掲げており、その実現には社員とその家族の健康が不可欠であると考え、**健康経営**に注力しています。当社の健康課題トップは「**運動不足**」であり、**社員の平均年齢も上昇傾向**であるため、職場で起こり得る**転倒の防止や腰痛の予防**の重要性が増えています。

### ★「オリジナル体操・第二弾」の制作★

- ◆以前より展開しているオリジナル体操「SOMPOひまわり体操」に加え、筋力強化要素を取り入れ、**高齢層に多い転倒や腰痛の予防効果が期待できる「SOMPOひまわり体操 UP BEAT STYLE」**を制作。
- ◆短時間（3分間）で業務の合間に気軽に実践できる。
- ◆転倒予防、腰痛予防・改善に加え、肩こり改善、介護予防（ロコモ/フレイル）、体幹強化、リフレッシュ、ストレス解消など、労働災害防止だけではなく様々な効果がある。
- ◆テレワークやオフィス空間でも実施できるよう、座位バージョンも制作。



体操（第一弾動画）



### ★「転倒防止セミナー」の継続開催★

「転倒」を防止・予防するための体づくり、腰痛等によるプレゼンティーズム低減を目的とした「**転倒・腰痛予防セミナー**」を**2年連続**で開催。労働災害の現状を学び、**自身の状態をチェック**したうえで、予防のためのストレッチ&エクササイズを実践。

50歳超の社員には個別に参加呼びかけ



### ★「健康応援ミーティング※」でのロコモ予防★

**高齢層はもちろん、若年世代も含め運動機能の定期チェックを推奨し、厚生労働省スマート・ライフ・プロジェクトで紹介されている「ロコトレ」**によるロコモ予防を実践した。

※毎月1回、**全職場**で実施している健康をテーマとしたミーティング



### ★実施効果★

※運動習慣者比率：1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の割合

（定性）「足腰が鍛えられた」「体力と集中力が向上した」「自身の運動不足に気づいた」「今後もストレッチを実践したい」などの社員の声が確認できた。  
（定量）従業員の運動習慣者比率※の上昇（社内アンケート）：**36.3%**（取組後：2024年8月）← **24.7%**（取組前：2023年3月）

社員の安全・健康のため、今後も継続して取り組みます！



### ポイント

働く方の転倒や腰痛の予防のため、各自に気づきを促しながら、身体機能の維持向上に繋がる運動等を促進する取組です



## 健康であればいつまでも (生涯現役を実現するために)

事業者名：株式会社 旭フーズ  
業界・業種：卸売業  
従業員規模：64名  
地域：関東、甲信越

### 背景（課題・ニーズ）

若手人材不足とシニア世代で勤務している従業員の多くが「長く働きたい」ニーズがある。年齢の壁を乗り越え、生産性を向上できるかについて取り組んだ。コロナ禍後もさらなる人員不足が見えている中さらに実現性を高める取り組みを進めている。

### 取り組んだプロジェクト内容

令和元年 パートアルバイトさんを対象に「生涯現役制度」を宣言

本人が引退宣言しない限り、継続的に雇用する。

#### 働きやすい環境の整備

- ・階段手すり設置 エイジフレンドリー補助金を活用し設置
- ・インフルエンザワクチン接種 全員を対象に年1回会社で接種
- ・コロナ禍食料配給 会社で野菜、食料を配給 BCP取り組みとして
- ・引退まで責任を持つ覚悟 総務経理課を中心に安否、健康確認

現場社員が気温などを考慮し休養などレフリー機能を有する。



エイジフレンドリー補助金を活用した階段手すり設置  
昇降負担の軽減につながった。

#### 機械との協働 年齢問わず作業が行える様に

- ・自動仕分け機（ピースソーター）導入 ものづくり補助金を活用  
従来の速力、体力を行わず機械側でカバー 高い生産性を確保
- ・段ボール圧縮機を導入

ピースソーター導入により作業効率が上がった一方、排出される段ボールの量が増えたことから作業スペース確保が課題であった。箱のまま投入し圧縮することにより年齢を問わず少人数で解決する事ができた。



自動仕分け機（ピースソーター）  
従来の歩数を掛けず  
正確な仕分を実現  
1F、3Fに導入



段ボール圧縮機  
そのまま段ボールを大量に入れ  
力を使わず圧縮  
1F、3Fソーターとセットで稼働

### やってみての効果

従業員の1/3に当たる19人が60歳以上で元気に活躍している。

埼玉県公式YouTubeチャンネル（サイタマどうが）にて事例紹介  
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED） 「エルダー」2024年10月号 高齢者に聞く 生涯現役で働くとは 第98回掲載

寛容な社内風土醸造はもちろんであるが第三者評価をいただける事に。

【シニア活躍企業③】株式会社旭フーズ～シニアが主戦力～

### ポイント

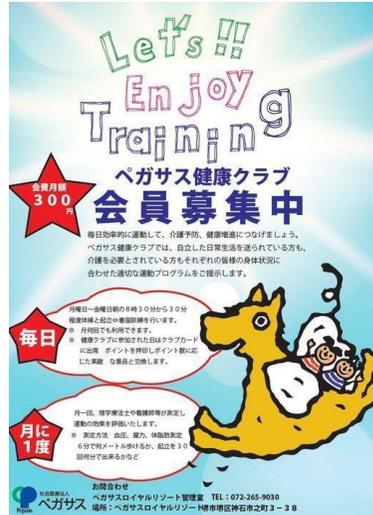
シニア労働者が安心して安全に働くことができるよう、行政による支援策も活用しながら、環境改善を進める取組です





# 理学療法士が考案した“運動習慣と介護予防” ～高齢の職員も一緒に ペガサス健康クラブ～

事業者名：社会医療法人ペガサス  
業界・業種：医療福祉  
従業員規模：300名～  
地域：近畿



## 【理学療法士が考案したプログラム】

サービス付高齢者向け住宅「ペガサスロイヤルリゾート」では、日々の運動習慣の定着と介護予防を目的として、平日午前8:30から理学療法士が考案した30分程度体操と起立着座運動を行っています。

**体操と起立着座訓練を行っているのはペガサスロイヤルリゾートの入居者と入居者を見守る業務を担っている見守り隊の高齢者の職員(従業員)です。**健康クラブに参加された方には、クラブカードに出席ポイントを押印して、ポイント数に応じて素敵な商品と交換できるようにして、インセンティブを設けて継続参加できるように工夫しています。



毎日の体操

## 【理学療法士、看護師による医学的評価を実施】

月に一度、理学療法士や看護師が測定し、運動の効果 を医学的に評価しています。

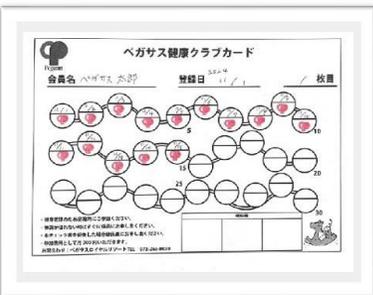
項目は「血圧」「握力」「30秒で起立が何回できるか」「片足立ち」「下肢筋力測定」「バランス能力評価」です。定期的な測定と結果のフィードバックにより、入居者や職員自らの意欲の向上につなげ、日々の運動習慣の定着を 図っています。



健康相談会の様子



月に一度の測定会



ポイントを貯めます

## いつまでも元気に安全に働ける職場づくり

事業者名：社会福祉法人和光会  
 業界・業種：医療・福祉  
 従業員規模：約760人  
 地域：岐阜県(東海・北陸ブロック)

### 背景-課題

当法人は様々な事業所があり、年齢や体力に応じた働き方ができるため、65歳以上の高齢者も約16.8%を占めている。一方で基礎疾患を抱えていることも少なくないため、高齢者がいつまでも元気に安全に働けるよう、様々な取り組みを行っている。

### 主な取り組み

#### 健康・体力づくり

- 「ウェルビーイング推進室」
  - ・ 動画研修や通信発行で健康管理や健康づくりの情報を発信
  - ・ 健診やストレスチェック後の面談、個別フォロー

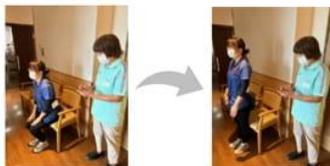
我慢しないで！危険な二次性頭痛

二次性頭痛：脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍、頸椎病、脳炎

これまでに経験がないひどい頭痛  
 手足のしびれ  
 歩きにくい  
 話せない  
 どんどん悪くなる

急いで治療が必要！  
 脳神経外科・脳神経内科を受診しましょう！

- 体力測定  
 運動習慣獲得のきっかけづくり  
 転倒リスク把握の機会づくり



- さつきラン&ウォーク2024
- 肺年齢測定会
- 医療費補助、受診しやすい環境整備

#### 環境改善

- 「視覚的な注意喚起」  
 危険箇所への目印設置（赤テープ）
- 「掃除機と体温計をコードレス化」  
 コードに起因する災害を防止
- 「夜勤中の業務を効率化する見守り支援システム」  
 スタッフが携帯している端末でご利用者の状態をリアルタイムに確認することができます。これにより夜間巡回の回数が半減し、職員の負担軽減に繋がっています。



#### 腰痛予防

- 「これだけ体操」  
 30秒で出来る体操でこまめに腰痛予防
- 「持ち抱えない介護」  
 正しい介助方法、適切な福祉用具の活用で身体負担の軽減



### 考察

2022年度および2023年度において、65歳以上の労災件数はそれぞれ2件、0件と多くはなかったが、法人全体では7件、8件の労災（うち転倒は4件ずつ）が発生しており、引き続き注意が必要である。そのため、健康・体力づくりや環境改善の取り組みを継続していきたい。



## 人に向き合う気持ちを重視 体力年齢不問のエイジフレンドリーを意識した 職場づくり

事業所名:社会福祉法人 浩喜会  
業界・業種:医療:福祉  
事業所規模:約50人  
地域:関東

ベテラン職員は「人財」ととらえ、ながく働ける職場づくり  
心身のバランスがはかれる小さな取組みを積み上げる

### ○「身的」負担軽減の取組み



移乗介護をサポートする  
リフト等を積極採用!  
腰痛に起因する退職は  
「ゼロ」  
※腰痛予防モデル施設  
として情報発信

「介護補助職」の活用による  
業務の分業化

### ○「心的」負担軽減の取組み



個別面談(年2回)  
⇒悩みの芽は  
小さいうちに解決

職員の声から有給+公休を組み合わせた5連休「リフレッシュ休暇」の創出

他にもストレスチェックの実施とサポート

☆取組みの成果  
☆

- ・定年(65歳)をむかえても、「まだ働きたい」の声があがる
- ・職員の平均年齢⇒50.8歳
- ・勤続10年以上の職員⇒55%在籍

**結論:エイジフレンドリーを意識した職場づくりは幅広い人財獲得と、定着化につながる!**



## エイジフレンドリーな 職場に向けて

事業者名：株式会社グローバル・クリーン  
 業界・業種：清掃業  
 従業員規模：150人  
 地域：九州/宮崎県

### 背景（課題・ニーズ）

個人事業主から法人設立した当時から、会社としてはベテランの能力・知識が業務上不可欠でした。そのような中、創業当時から支えてくれたパート社員が4名ほど65歳を迎えようとしていました。

また、全社員の8割をパート・アルバイトが占めており、定年年齢を過ぎても働きたい意欲のある方が多くおり、定年年齢の引上げを検討する必要がありました。

### 取り組んだプロジェクト内容

女性や高齢者でも軽く持ち上げることができ、高い窓の掃除がより安全にできる道具



○面談を行い、体調や体力等の確認をしながら労働時間を軽減するなど、それぞれに合った働きやすい環境を整備。

○体への負担を軽減する道具を導入。

○社員の健康を考慮し、肩こり対策で健康運動指導士による指導のもとヨガを数カ月に1度開催した。

○ウォーキングを推奨し、宮崎県主催のアプリSALKOを各自導入してもらい、ウォーキング中に水分補給をするためのポシェットを全社員に配布した。

腰や首に負担のかからない長さのモップ



### やってみての効果

高齢であってもやりがいのある仕事ができいきいきと働く姿があります。

これまでの経験や知識を生かせられ、若い子と切磋琢磨して働いています。

### 今後の目標

今後も楽に作業ができるテクノロジー等も積極的に導入しながら全社員が働きやすい職場づくりに努めてまいります。



お昼休憩中にヨガ

### **3. サービス産業×企業等間連携部門**



# 事務椅子をバランスボールにチェンジ！

## 「バランスボールに座って転倒しないからだづくり」

### ～3か月間でからだが変化～

スポーツ  
オアシス



#### 背景（課題・ニーズ）

福岡市役所では45歳位から公務上の災害が増加傾向にあり、主な原因が転倒によるケガとなっていることから、福岡市、株式会社ルネサンス、株式会社スポーツ オアシスの共働で福岡市職員100名を対象とした『バランスボールを活用した転倒災害予防』の取り組みを行いました

事業者名：福岡市役所  
業界・業種：官公庁  
従業員規模：約9,400名  
地域：九州/福岡

#### 取り組んだプロジェクト内容

約3か月間、事務椅子の代わりにスポーツオアシスのバランスボール（固定リング付き）に座って業務を行うとともに、休憩時間等にバランスボールエクササイズを実施ルネサンスのトレーナーによる転倒リスク測定会で効果検証を実施

対象者  
運動習慣のない40代以上  
100名

#### 転倒リスク測定会（事前）

##### 動機づけとやる気を引き出す測定会

- ・転倒予防の必要性のレクチャー
- ・バランスボールエクササイズ
- ・3種目測定(下肢筋力、バランス能力、敏捷性)

##### 転倒予防の必要性

##### 2ステップテスト 前



#### バランスボール使用（3か月間）

##### 3か月間継続できるような仕掛け

- ・エクササイズの動画配信
- ・動機づけメール送信
- ・グループチャットで近況共有

##### 椅子をバランスボールに



#### 転倒リスク測定会（事後）

##### 振り返りで体の変化に気づき継続へ

- ・3か月間の取り組み共有
- ・バランスボールエクササイズ
- ・3種目測定の結果共有

##### エクササイズ&測定結果共有



#### やってみての効果

下肢筋力、バランス能力、敏捷性の向上、  
転倒リスクの低減にも有意な成果

「1か月間でつまずいた」割合  
60.9%→32.6%まで減少



#### こんな効果も！（参加者の声）

「腰、肩、膝の痛みの改善があった」  
「姿勢がよかった」  
「職場でのコミュニケーションが増えた」  
「日常生活で活動量が増えた」

#### 今後の目標や展望

バランスボールを活用した転倒防止プログラムを継続的に実施  
今回のプロジェクト（第1期）で得られた成果をもとに、次のプロジェクト（第2期）を実施し、さらに充実した内容でより多くの職員の転倒予防の対策を推進してまいります

#### ポイント

転倒リスクチェックや身体機能維持向上のためのサービスを組み合わせる働き方に届けることで、転倒災害等の予防を進められています



# 理学療法士による「職場における腰痛予防」の取り組み

事業者名：公益社団法人  
日本理学療法士協会  
会  
業界・業種：医療・福祉  
従業員規模：事務所勤務57名  
地域：関東/東京

## 背景（課題・ニーズ）

日本理学療法士協会（本会）は、主に全国の医療・介護施設等で働く約13万6千名の理学療法士の会員を擁する医療専門職団体である。医療・介護職種を含む「保健衛生業」では、職員の腰痛が年々増加傾向にあり、労働者の生産性低下や人材確保への影響が懸念されている。そこで、本会会員の理学療法士が自身の所属施設において多職種に対する腰痛予防対策を講じることを支援する事業を2020年度より開始した。

## 取り組んだプロジェクト内容

企画：理学療法士が自身の職場における腰痛予防対策を講じるための3つの取り組み（Mission）を用意し、Missionの達成に応じた認定証を施設単位で発行した。  
対象：全国47都道府県の理学療法士の会員（約13万6千名）が所属する医療・介護施設等を対象とした。

### Mission 1

#### ポスターを施設内に掲示して腰痛予防を啓発



2020年度

2022年度

2023年度

2024年度

### Mission 2

#### 職員に対する腰痛予防講習会の実施



### Mission 3

#### 職場の腰痛リスクの見積と改善策を提案

※2023年度より希望する施設はChampion Stageとして認定し、理学療法士がない外部施設からの腰痛予防事業等の依頼に対応可能な施設として本会ホームページに窓口の連絡先を掲載しました。



厚生労働省「介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト」を活用し職場のリスク見積を実施

銅メダル施設として認定 銅

銀メダル施設として認定 銀

金

## やってみての効果

### 7,308名が腰痛予防の取り組みを実施！

実績データ	7,308名が腰痛予防の取り組みを実施！			
	参加実績	2020年～2021年度	2022年度	2023年度
参加施設（銀メダル）		130施設	144施設	180施設
参加者（理学療法士）		320名	377名	991名
参加者（多職種）		5,645名	7,370名	7,308名

参加者の声



職場環境を見直し、設備等を整備したことで腰痛が軽減したと感じました。取り組みを通じて自身の身体機能を把握するきっかけになり、腰痛は治療だけでなく予防が大切という意識の向上に繋がりました。

腰痛予防体操の取り組みをきっかけに、腰痛以外でも職員間で「健康に関するコミュニケーション」が活発になり、円滑な多職種連携に繋がる一助になりました。



## ポイント

医療・介護施設において、専門家団体による指導に基づいて、働く方の腰痛予防を進める取組です



## 【企業等間連携部門】

# 丸五&日進ゴム（靴メーカー）による 岡山県内のスーパーマーケット 転倒災害防止大作戦

### 背景（課題・ニーズ）

靴メーカー2社（株式会社丸五、日進ゴム株式会社）が「岡山県+SAFE協議会」に加盟しているスーパーマーケットへ訪問し、転倒災害防止に係る安全診断（床の滑り測定・労働者が履いている靴のチェック等）を実施。それを基に診断レポートを作成し、スーパーマーケットは環境改善等を図り、転倒災害の防止を推進している。

### 取り組んだプロジェクト内容



### 靴パトロール

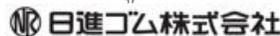
靴のタイプ	新品	6ヶ月	1年	1年6ヶ月	2年
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06

**ポイント**  
衛生を保つことができる  
劣化を認知しやすい  
汚れがすぐにわかる  
交換時期がすぐに把握できる  
管理者が容易に点検できる

**ポイント**  
●長期使用により靴自体が変形している。安定感が悪くなり、危険な上、身体にとっても変形障害や疲労増加のリスク有り。

靴のタイプ	新品	6ヶ月	1年	1年6ヶ月	2年
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06
摩擦係数	0.15	0.12	0.10	0.08	0.06

### 床の滑り測定



#### 測定場所：惣菜 床



滑りレベル
1 滑りにくく安全
2 少し滑るので注意が必要
3 かなり滑り危険、対策が必要
4 絶対に滑り大変危険、緊急な対策が必要

**【コメント】**  
床面が油膜に被われている。数値的には問題ないレベルだが、体感的には滑りやすく感じる。グレーチングの上は一気に危険度が増すので注意が必要。



#### 測定場所：惣菜 床（フライヤー前）

**【好事例】**  
フライヤー前にマットを敷くのは油膜を防ぎ、転倒防止にもなるのでGOOD!



#### 測定場所：精肉 床



滑りレベル
1 滑りにくく安全
2 少し滑るので注意が必要
3 かなり滑り危険、対策が必要
4 絶対に滑り大変危険、緊急な対策が必要

**【コメント】**  
入り口側に比べ、奥に行くにつれて油膜に被われているのが確認できる。スライサー等で肉が飛び散ってきたように思われます。機械もありますので、通る際は注意をしてください。



### やってみての効果

事業者（スーパーマーケット）は診断レポートを基に店舗の転倒リスクの低減を図るとともに、安全衛生委員会や店長会等を通じ他の店舗への水平展開を行っている。岡山県内の小売業のうち、岡山県+SAFE協議会加盟事業者の労働災害の発生割合が前年比で減少傾向にあり効果が表れてきている。

### ポイント

+SAFE協議会を中心に、地域全体のスーパーマーケットと地元の靴メーカーが協力し、働く方の転倒災害防止に向けて環境改善を図る取組です

事業者ロゴ

## 新入者（雇い入れ時）安全衛生教育の深化

一般社団法人川越地区労働基準協会  
 業界・業種：サービス業  
 従業員規模：会員数1,050団体強  
 地域：埼玉

### 背景（課題・ニーズ）

毎年4月に、会員企業様における新入者（雇い入れ時）の安全衛生教育を実施している。教育内容は、中災防発刊「新入者安全衛生テキスト第2版」を中心に据え、「安全の指標」や埼玉労働局ホームページより前年度の労働災害の状況や死亡災害統計および災害事例などをインプット情報として提供しながら、幅広く職場における労働安全衛生管理の大切さや自分自身の健康管理の大切さを約6時間の長丁場で行っていた。しかし、受講生にとってまた、企業にとって有効な教育になっているのか不安であった。

### ありたい姿（目標設定）

令和の新入社員の傾向（Z世代の育成方法）を理解し、①受講者自らが考え②受講者が本受講内容を上長と振り返り面談ができ③高評価を得、その結果として、毎年継続受講いただけるという「受講者も企業もそして、私ども協会もすべてWin-Winの関係」になる。

### 取り組んだプロジェクト内容

- ①なぜ？ここに参加してるのか！を認識させる
  - ②グループワークの実施（自ら考える）
    - ・ヒヤリハット体感訓練
    - ・心が動いたこと
    - ・学んだこと
    - ・上長（廻り）に何を確認する・したい
    - ・明日から自分は何をやる
  - ③自己宣言書を作成・発表
  - ④企業ご（教育）担当者の見学を実施
- 上記の取組みで、受講者が帰社後に、上長と振り返りミーティングが可能となる。

↓グループワークの状況 → 自己宣言書&研修報告



自己宣言

私は、  
**あいさつがはず、  
 基本的なルールを守り、  
 常に行動**

します。

令和6年4月5日  
 会社名 XXXXXXXXXX  
 氏名 XXXXXXXXXX

「新入者教育研修 報告書」

1. 研修目的  
 本研修の目的は、新入者が職場での安全衛生管理の重要性を理解し、自分自身の安全衛生管理の意識を高め、職場での安全衛生管理に積極的に参加できるようにすることである。

2. 研修内容  
 本研修の内容は、安全衛生管理の重要性、安全衛生管理の役割、安全衛生管理の意識の向上、安全衛生管理の実践などである。

3. 出席（退席）の有無を確認する  
 本研修の出席（退席）の有無を確認する。

4. 研修後、何をやるか  
 本研修の研修後、何をやるか。

## 4. 製造業、建設業、運輸業等 × 安全な職場づくり部門



# 三菱ケミカルグループ体操と安全安心体力テスト®で 従業員の転倒災害ゼロへ！！

事業者名：三菱ケミカルグループ株式会社  
 業界・業種：製造業  
 従業員規模：66,358名（連結）  
 地域：全国/海外

## 背景（課題・ニーズ）

製造現場で発生する「転倒」による災害に対し、これまで作業の環境改善や手順見直し、各種教育等の対策を行ってきました。更なる対策として、2017年より「人の運動機能」に着目した対策を国内外を問わずグローバルで推進し、転倒災害ゼロを目指しています。

## 取り組んだプロジェクト内容

当社オリジナルの「三菱ケミカルグループ体操」を毎日就業時間内に動画を見て実施し、「転倒しにくい身体づくり」を進め、「安全安心体力テスト®」で「転倒リスク」を客観的に評価し、両輪での取り組みを推進しています。体操の解説動画、教育資料の作成と活用、e-learning等を通して、従業員の知識とモチベーションの向上を図っています。また、製造現場のみならずオフィス環境での展開も行っています。

すべての年齢層で転倒しにくい体力の維持・向上が必要

転倒しにくい身体づくり

転倒リスク評価

三菱ケミカルグループ体操

安全安心体力テスト®



多国籍のモデル起用  
 身体の状態や服装によって、負荷や実施方法を選択可能  
 日本語、英語、中国語版作成



多言語のリーフレット・教育資料  
グローバルでe-learning実施



製造拠点での体操実施の様子



オフィスでも工夫して体操実施



## やってみての効果

取り組み開始以降、過去1年間の転倒経験者が年々減少し、転倒ハイリスク者が減少しました。



## 今後の目標・展望

転倒災害は世界共通・職種を問わない課題であり、国内外で働き方に関わらず取り組みを継続していきます。

## ポイント

工場だけでなくオフィスにおいても転倒災害を予防するため、働く方が体力チェックと身体機能の維持向上のための効果的な体操ができるよう環境づくりを進めている取組です



Panasonic  
AUTOMOTIVE

# 楽しく競い合いながら体力チェック！

事業者名：パナソニックITS株式会社  
業界・業種：情報通信業  
従業員規模：約627名 ※60歳以上の再雇用者  
出向受け入れ者を除く  
拠点：神奈川県横浜市、北海道室蘭市

## 背景

～体力向上の行動変容を促し、転倒・腰痛等の労働災害未然防止に繋げる～

健康経営活動のひとつとして毎年7月～8月に体力チェックを実施しているが、まずは社員1人ひとりが**自身の体力を知る**ことが体力向上のスタート地点と捉え、**体力チェック実施率向上のために7つの取組み**を実施



田辺社長CEO

## 取組内容

### ポイント① 楽しい気持ちを掻き立てる！

健康部会 イベント開催案内

2024年度 体力チェック

7/1(月)～8/30(金)

自社製の種目別ピクトグラムを作成

職場対抗(標準5種目の5段階平均)

95.2%

職場対抗としてもランキング公開

### ポイント② 競い合いの気持ちを掻き立てる！

種目別/年代別で上位ランキング公開

20歳代	1位 佐山 克巳 2.07 pt.
	2位 松平 龍一 2.04 pt.
	3位 上口 慎介 2.00 pt.
30歳代	1位 末広 龍二 1.95 pt.
	2位 茂木 穂尊 1.91 pt.
	3位 横塚 裕二 1.89 pt.
40歳代	1位 寺林 湧気 2.11 pt.◎
	2位 飯嶋 浩幸 2.08 pt.
	3位 横濱 裕一 2.05 pt.
50歳代	1位 鎌田 治 1.97 pt.
	2位 高橋 敏彦 1.96 pt.
	3位 芦山 雅夫 1.95 pt.

社内記録認定

種目別の社内記録は認定証を公開

### ポイント③ いつでも気軽に測定できる！

測定会場は2ヶ所に設置

2024年度 体力チェック 記録申請はFormsで何度も

何度も再測定して記録申請可

### ポイント④ 自身の体力を知り行動変容を促す！

体力チェック個人票で種目別5段階評価/経年推移/同年代との比較/健康リスク可視化

※健康リスクとして、転倒リスク/ロコモ度/サルコペニアを判定

## 効果と今後の展望

前年比+21%となる**95%の実施率**を達成。職場単位で体力チェックを実施し**コミュニケーションも向上したと大好評**👍  
並行して**神奈川産業保健総合支援センター**の御協力を得て「**転倒・腰痛防止対策**」の取組みも実施中

Ignite The Spirit.



## ポイント

働く方の転倒や腰痛の予防のため、各自が体力チェック等に意欲的に対策に取り組めるような環境づくりを進めている取組です



ブロンズ賞

製造業、建設業、運輸業等 × 安全な職場づくり部門

# Canon 500の知恵を結集！転倒災害防止事例集

事業者名：キヤノン株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：2万4000名  
地域：関東

## 背景（課題・ニーズ）

複数事業所をもつ弊社グループでは「転倒災害」がここ数年増加していることが共通課題でした。そこで、グループ全体で「転倒災害防止キャンペーン」を実施。段差や滑りやすい箇所を解消する改善活動を全拠点で展開し、オリジナル啓発ポスターも製作。転倒災害を半数以下に抑制。

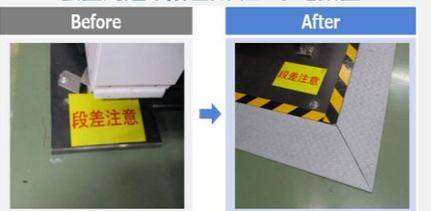
## 転倒災害防止キャンペーン内容

他拠点も「やってみよう！」とマネしたくなるような事例をピックアップし、社内イントラサイトに転倒災害防止事例集を掲載。合計**500事例**

### ホワイトボードの脚に踏み防止用注意喚起カバーを設置



### 装置周辺の段差にスロープを設置



### 階段横扉の開閉激突注意マットを設置



日本緑十字社  
路面用標識  
(敷だけマット)

### 社内イントラサイト (500事例)



事例を  
ピックアップ

## 災害防止に効果絶大!!

### オリジナルの啓発ポスター!!



労働災害をより自分事と捉えていただくため、キヤノンの制服を着たキャラクターが怪我をしているイラストを盛り込みました

## やってみての効果

毎年7月をキャンペーン期間として設け4年、キャンペーン開始前と比較し転倒災害の件数は半数以下に抑えられました。事前に対策していれば良かったと思うような転倒災害はほとんど発生していません。効果は絶大です！

## ポイント

転倒災害の防止のため、全社を挙げて環境の改善に徹底的に取り組み、働く方が転倒防止を自分ごととして捉えるための工夫も凝らしています。



ダイヤモンド賞

TOSHIBA

「安全職場」は業者への誠意  
2次・3次下請負業者を含めたゼロ災継続活動

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
社会システム事業部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約2,000人  
地域：全国（東北）

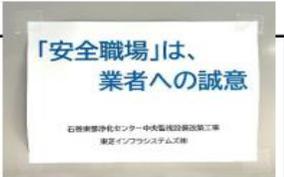
・ 背景（課題・ニーズ）

現場代理人や1次下請負会社への安全指示事項や安全情報は研修会などで周知徹底されていたが、**2次・3次の業者**にはその機会が無く懸念事項になっていた。「ゼロ災継続」への課題を「現地で加わる**2次・3次下請作業員**の安全作業と安全行動」と捉えた。

・ 取り組んだプロジェクト内容

**2次・3次業者**の作業期間は短期のため「ゼロ災の意味合い」や「ゼロ災継続の意義」を短時間で伝え、その場から「安全作業」「安全行動」で応えてもらうことが重点と考えた。伝達の手段は『安全職場は、業者への誠意』を基調に

- (1) 「危険箇所の見える化マップ」を作成し、リスクを周知した。
- (2) 興味が沸き「ゼロ災継続」の思いが伝わり、直感を促す**安全標識**を制作して活用した。



<p><b>(1) 「危険箇所の見える化マップ」の作成と活用</b></p> <p>・入所教育、そして現場事務所内に掲示して危険箇所の周知に活用した。</p>	<p><b>(2) 「安全標識」の制作と活用</b></p> <p>・「思わず目を引き、即刻理解できる補助的な安全標識として<b>トリックアート</b>を活用した。</p>	<p><b>(3) 「1メートル前標識」の制作と活用</b></p> <p>・「1メートル前標識」は、危険個所の1メートル手前の床に貼付し「何かある」との<b>予告標識</b>として有効だった。</p>	<p><b>☆業者からも自発的に安全策への行動（転倒防止）</b></p> <p>・業者から「安全作業」「安全行動」を超越する<b>安全策が自発的に散見</b>されるようになり、新たな芽吹きと「チーム力」の高まりを感じた。</p> <p>蓋の固定に「皿子ネジ」を使用 基礎の欠損を補修</p>
---	--	---	--

・ やってみたいの効果

・「危険箇所の見える化マップ」は短時間にリスクを伝える手段として極めて有効だった。また改善完了ごとに写真を添付して現場の「前進と躍動」をみんなで実感した。  
・**安全標識**は「思わず目が向く、標識の意図がすぐに解る」と業者からの感想で効果を確認できた。  
・**7年間無災害を継続中。**

・ 今後の目標や展望

・試行中の「**1 + 1 = 0**」は 始業前に実施した危険予知に加えて施工中にも一つ先の「人・物」の動きの危険を予知するものです。現地工事に携わる**すべての下請負業者を含めて展開しゼロ災の継続**に繋げる。



東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部

ポイント

自社に限らず、同じ場所で働く様々な方の労働災害防止のため、作業環境の改善を図る取組です



# 健康支援サービス「ホコタッチ」を用いた “歩行の質”改善と健康づくり

事業者名：花王株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：28,871人  
地域：全国

## 背景（課題・ニーズ）

社員の安全と健康増進のため、日頃から社員へ健康支援サービス「ホコタッチ」を提供し、**歩行の質（速度と歩き方）向上**や歩くことの習慣化を推奨しています。さらに、**歩くことの意識づけや習慣化**のために、毎年ウォーキングイベントを開催しています。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 1. 専用歩行計「ホコタッチ」による日常生活歩行の支援

- ホコタッチを装着して日常生活を送る  
➔ 歩行モニタリング・独自の分析手法で「歩行生活力」が見える化 ➔ 歩行の質改善 & 習慣化

「ホコタッチ」とは、加速度センサーを内蔵した「専用の歩行計」と、これに蓄積されたデータの結果を印刷する「ホコタッチスポット」を組み合わせた健康支援サービスです。

「歩行速度」や「歩行生活年齢」が見える化

健康増進システム「GENKI Web」で歩行ランキング掲載

### 2. 「Waku Waku Walk! チャレンジ」開催

- 70日間（4/7～6/15）のウォーキングイベントを開催。
- 寄付先対抗戦でモチベーションUP! 歩数に応じて合計100万円を寄付。楽しく歩いて、社会貢献もできる!
- 個人目標達成者に花王製品プレゼント。

#### 社内告知

#### 2024年 春のウォーキング Waku Waku Walk! チャレンジ

● チャンス期間：4月7日（土）～6月15日（土）（70日間）  
（エントリー期間：3月27日～4月19日）

● イベント内容  
寄付先対抗戦！みんなで歩いて社会貢献！合計100万円を寄付しよう！  
エントリー時に寄付したいコースを選んで参加し、コースごとの平均歩数を競います。  
順位に応じて寄付金額が変動します。

● 賞品  
A: ケア・インターナショナル カフェ C: SHARE  
1位 30万円 2位 20万円 3位 10万円

● 個人目標の達成条件  
① GENKI Webで56日以上歩数の記録を数録  
② 平均歩数が8,000歩以上を達成  
③ 個人目標達成した方には、達成賞として花王製品をプレゼント!

● 参加者：1,871名（国内花王グループ社員対象）

順位	チーム名	歩数平均	参加人数
50万	1 B: プラントサッカー協会	7,902	358
20万	2 C: SHARE	7,372	909
10万	3 A: ケア・インターナショナル ジャパン	6,976	604
		7,417	1,871

特別枠●日本WHO協会特別枠 ●日本赤十字(能登半島地震)

#### 寄付先対抗で進捗掲載

- ☆個人目標の達成条件
- ① GENKI Webで56日以上歩数を記録
  - ② 平均歩数が8,000歩以上

## やってみての効果

✓ **ホコタッチ登録者：9,053名**（国内花王グループ社員）

歩行の質を高めることや、歩くことの習慣化に繋げることができた

### 【 Waku Waku Walk! チャレンジ 】

- ✓ 参加人数：**1,871名**（国内花王グループ社員）
- ✓ 「歩く」が習慣化した人（56日以上記録）：**67%** ※昨年52%
- ✓ 個人目標達成率：**48%**（894人）

## ポイント

働く方の安全や健康のため、各自が意欲的に改善に取り組めるような技術活用やインセンティブの導入を行っています

## 過去の災害から学ぶ安全教育の実施

事業者名：独立行政法人国立印刷局  
業界・業種：製造業  
従業員規模：4,073人  
地域：関東/東京

### 背景（課題・ニーズ）

- 過去の災害事例が十分に活用できていない。
- 災害発生時の迅速かつ効果的な情報発信が必要。
- 過去の災害による経験を風化させることなく、安全教育の生きた題材とする。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### Step 1 システムの導入

全職員が閲覧可能なデータベースとして「災害事例検索システム」を平成17年に導入、現在まで約30年分のデータを保存。

#### 災害事例検索システム



#### Step 2 システムによる情報共有

「災害事例」を作成し、国立印刷局の全事業場に発信、注意喚起。災害事例検索システムに掲載し、全職員が情報を共有。

発生状況を写真や図で分かりやすく説明



発生原因から防止対策を検討・実施

#### 災害事例



#### Step 3 過去の災害から学ぶ

過去に発生した災害からKYTシートを作成し、係・作業単位でKYT研修を2か月に1回実施するなど、安全活動を活性化（本局、研究所、東京工場、王子工場、小田原工場、静岡工場、彦根工場及び岡山工場の8事業場）。

過去の災害事例を題材として作成

#### KYTシート



KYT活動（小集団活動）

#### 今後の目標や展望

災害事例検索システムを活用した安全教育を継続的に実施することで、「**災害ゼロ**」を目指します！

#### やってみての効果

- 実際の災害を題材としているため、危険予知のイメージがしやすく、労働災害を自分事として捉えられ、KYT活動による安全教育がより一層効果的に実施できた。
- 過去の災害事例を確認することで、現在の安全対策や作業手順の必要性がより理解できるようになった。
- リスクアセスメント実施時、想定される危険や必要な措置が検討しやすくなった。
- 労働災害(休業)発生状況は、令和4年度：4件、令和5年度：5件、令和6年度：0件(9月末現在)

**MAX**

# 第一回やるきMAX安全活動コンテストを社内で開催

ENGINEERED FOR PERFORMANCE

## リーダーが活動の仕掛けを考え 一緒にやろう！とメンバーの背中を押す

やるき～MAX！  
みんな笑顔！

事業者名：マックス株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約2,000名  
地域：全国

### 背景（課題・ニーズ）

弊社では、リスクアセスメントを中心とした管理活動をしっかりとやってきた、しかし不安な行動から起こる、**転倒・無理な動作・転落の労働災害が今も続いている**、また管理活動だけを強めると現場は指示待ち人間となり、**自主的な安全活動はいつまで待っても始まらない**



### 取り組んだプロジェクト内容

自由参加のコンテストを開催、リーダーがメンバーにチームの問題を提案、**みんなが「やるきMAX」で解決が行えるようにリードして**取組をコンテストに提出、**自分もやってみたい取組に投票**を行い、各賞が決定、11/21に入賞メンバーが本社に集まり、**社長から賞状を授与**

### やってみての効果

- 取組を通じて**コミュニケーションが生まれた**
- 本社(3)、生産間接(7)、工場(19)、開発(5)、営業(7)、物流(1)と**色々な部署(計42チーム)**が参加
- 投票は従業員から**700票入り投票を通じて他部署の取組を知る**
- 初めての取組でリーダーは戸惑ったが**色々な活動の仕掛けを考えた**
- 仕事は違っても全ての取組に色々な**工夫や改善のヒントがある**
- この取組は**誰でもいつでも見られるようにしておく**

### 今後の目標や展望

来年の第二回やるきMAX安全活動コンテストは**他企業の皆様にも参加をいただけるように準備する**

### スケジュール

6月  
各拠点の安全衛生委員会  
でコンテストの趣旨を説明

7月-8月  
活動を全社で取組

9月-10月  
取組に投票

11月21日  
表彰式

### 取組(営業)

朝のあいさつは心の準備運動



- 活動の仕掛け  
**出社した仲間顔をみて挨拶しよう！**
- チームの変化  
他部署メンバーの名前と顔を覚え、会話が增えた

### 取組(生産間接)

朝の一言運動と自作ポスター  
生産達成が優先されていた  
毎朝当番で安全意識向上の  
一言を説明  
重要ならポスター作製

今日の一言	ドアを開けるときはツーアクション
その理由	ドアを開けるときは、先ず少し開いて向こう側に誰もいないことを確認してから開きましょう (防火扉は閉めておくことがルールとなっています。)

- 問題意識を持って現場を見る習慣
- ポスターをみんなでワイワイと作成



### 取組(工場)

いいとこ取りツアーで  
他部署の良い所をゲット



- 発見した危険  
ヒヤリハットが出てこない、安全活動が停滞
- 活動の仕掛け  
他職場を見ていいとこ取りしよう！**パートさんが楽しそうに調査！**



# ヒューマンエラーに特化した 新入社員安全教育カリキュラムの構築

事業者名：サンデン・リテールシステム株式会社 赤城事業所  
 業界・業種：製造業  
 従業員規模：491名（24年10月時点）  
 地域：関東／群馬

## 背景（課題・ニーズ）

新入社員に対し入社直後に安全教育を行っているが、教育後の理解度確認並びにアンケート結果とは裏腹に毎年新入社員の労働災害が発生していた。入社直後の新入社員にどう伝えたら教育内容が伝わるかが課題であった。

## 取り組んだプロジェクト内容

◇一方的な教育ではなく、新入社員に体感してもらう・考えてもらうカリキュラムに変更した

**【これまでの安全教育】**  
 内容わからず教育中に寝てしまう社員も  
 “理解した？”けど災害は発生している  
 毎年災害発生していた

**【活動事例①】労働安全衛生クイズ（法令・工場基準のクイズ化）**  
 ルールの理由を考える

**【活動事例②】ジェスチャーゲーム（伝言ゲーム）**  
 相手に物事を伝える大変さを実感  
 物事の伝達の重要性を感じる

**【活動事例③】ボール送りリレー（競技に対するルール遵守・改善意識）**  
 競う事での焦り・急ぎ ⇒  
 急ぎ・焦りを誘発させるゲーム体験

**【活動事例④】ただ楽しむだけでなく・・・**  
 ヒューマンエラー12分類より効果説明・腹落ち  
 ヒューマンエラーの観点から効果説明

## やってみての効果

カリキュラム変更後、毎年発生した新入社員の労働災害が4年半で1件に減少させることができた（21年5月より無災害継続中）。また新入社員同士の横のつながりが持たれたことで、絆が強まり離職防止にも繋がった。

## 今後の目標や展望

新入社員のみならず、全社員の「体」と「心」双方が健康になるような“企画・仕掛け”を考案し実施していく（マンネリ防止）。

【安全な職場づくり部門】



株式会社IHI回転機械エンジニアリング

## 暑さ本番前から始める熱中症ゼロ活動 ～啓発と暑熱馴化で 酷暑の夏でも いきいき実現～

事業所名：IHI回転機械エンジニアリング  
生産センター横浜工場  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約120名  
地域：関東/神奈川

背景（課題・ニーズ）

製造業の当工場では、夏季の熱中症対策は課題である。昨今の酷暑下においても、一人ひとりがいきいきと暑さに打ち勝つ職場の実現に向けて、**暑さ本番前の5月から啓発と体づくり**を中心とした熱中症予防にIHI横浜地区と協働で取り組んでいる。

取り組んだ内容

### 毎年5～9月：キーワードで啓発

IHI横浜地区の熱中症啓発資料を一部アレンジし、**当工場オリジナルのキーワードで熱中症予防を啓発！** 予防ワードの「ANA」や「3K」はリズムカルで理解しやすく、請負業者を含む工場従業員全員が、熟知している。

熱中症から身を守るために…

#### 今～ 暑熱馴化トレーニング

汗をかく練習 例) ウォーキング 熱い風呂に入る

前日～ **A N A**  
朝飯抜 寝不足 アルコール

作業中 **3 K**  
給水 休憩 声かけ

発症後 **冷やす 飲む**

IHI横浜地区熱中症予防啓発資料  
一部を弊社用に編集し展開

毎朝、面着  
で  
**ANA**  
を  
相互確認

あいさつ替わ  
りに「水分  
摂っています  
か？」

### 毎年5～6月：暑熱馴化 ウォーキングイベント

#### STOP！熱中症 ～初夏のワイワイウォーク～



【目的・概要】暑熱馴化の体づくり

暑さ本番前の5月～ウォーキングイベントを2カ月開催

- ①専用アプリで2つのウォーキングイベントに各自参戦  
個人とチームで歩数を競い合い、ウォーキングで汗をかく練習
- ②IHI横浜地区昼休みウォーキングイベントへの参加  
\*期間中、3回開催  
昼休みに構内約20分のコースをそれぞれウォーキング  
給水所を設け、こまめな水分補給を啓発

期間中、延  
べ  
700人が参  
加



昼休みウォーキングイベント：給水所

効果

**今夏も 熱中症ゼロ達成！**  
毎年、繰り返し積み重ねた意識啓発と暑さに耐える体づくりにより一人ひとりの意識が醸成され、相互で意識し合える風土が災害ゼロを達成

今後の展望

**みんなで協力 ゼロ災害を目指す**





# ミャンマー語に対応！ 母国語に対応した安全な職場づくり

事業者名：株式会社デリモ  
業界・業種：食料品製造業  
従業員規模：300人  
地域：関東

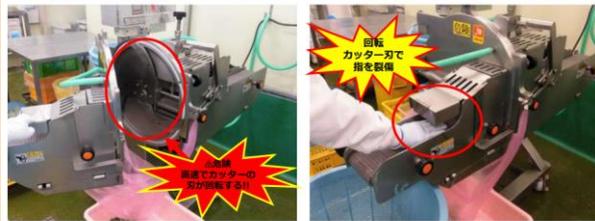
## 背景（課題・ニーズ）

当社の製造現場では、ミャンマー人などの技能実習生が多数働いており、従業員約300人のうち約100人がミャンマー人とその3割を占めています。  
ミャンマー人の中には、日本語の理解が不十分な従業員がおり、全ての従業員が安全に働くためには母国語による教育が必要と考えました。

## 取り組んだプロジェクト内容

元々日本人労働者向けに作成した危険箇所やその対策に関する教育資料について、**日本語の理解力が高いミャンマー人の労働者に翻訳をしてもらい、現場にて翻訳した資料を用いて**、日本語に理解が不十分なミャンマー人に対して、資料+実機での**安全教育の実施をしています。**

### 27. 野菜処理室 ネギ・きゅうりスライサー



母国語



作業中、ネギを抜き出そうとし、手をいれてしまい指を裂傷

- ！注意！**
1. 不具合が生じた時は、必ず!! 電源スイッチを切る
  2. 出口側から手・指を入れない

- ！သတိ！**
1. ဝင်းသီး ဖြင့် ဖျက်ပါက မဖြစ်မယ့် !! စက် ရပ်ပါ။
  2. ငြောက်သွန် ခွက် ထွက်သည့် အပေါ်က ဖြင့် လက်မထည့်ပါ။

## やってみての効果

どちらが伝わるかアンケートの結果、103人のうち98人のミャンマー人から、母国語の方が分かりやすいと言った声があった。95%の人が母国語でないと伝わりにくいといった理由からこの活動を継続しています。

## 今後の目標や展望

外国人労働者からヒヤリハット事例を集め、日本人が気づかない潜在的な危険を明らかにしていくことが今後の目標です



# AIを利用したスマホアプリによる KY活動の効果的かつ効率化の取り組み



事業者名：東亜建設工業(株)大阪支店  
 業界・業種：総合建設業  
 従業員規模：約150人（全社1700人）  
 地域：近畿・四国を管轄

## 背景（課題・ニーズ）

AI技術を利用した危険予知活動アシストサービス。当日の作業内容を入力すると関連した労働災害事例及びその危険ポイントを提示する。KY活動時の繰り返し作業における**マンネリ化の防止**や**若手職員・作業員の知識不足を補助**できるシステム。

## 取り組んだプロジェクト内容

KYシートの作成・出力まで行うことができ、  
 KYのペーパーレス化を実現



## やってみての効果

- ・ 施工内容、作業内容に応じた**適切な災害事例が提示**される
- ・ 入力順序、方法が現場で違和感なくシステムが利用
- ・ **若手職員の検索ツール**として有用となった（AI検索）

## 今後の目標や展望

- ・ 電子サイン入力、**掲示用QR表示機能でスマホで確認**可能
- ・ QRコードでログイン機能
- ・ 労働災害事例の逐次追加にて、より精度の高い災害事例の抽出

# 「ヒヤリハットの見える化で類似災害防止」

## ヒヤリハット体験を現地に掲示・周知



事業者名：東亜建設工業(株) 大阪支店  
 業界・業種：総合建設業  
 従業員規模：約150人（全社約1700人）  
 地域：近畿、四国を管轄

背景（課題・ニーズ）

取り組んだプロジェクト内容

大阪支店では、ヒヤリハットが発生した現地（陸上現場、作業船内）に発生事例を掲示し、ヒヤリハット防止の項目を示すことで、同じ現場で働く他職の方にも周知することで、類似のヒヤリハット防止から災害防止に繋げる活動を行っている。

ヒヤリハット発生現場に事例を掲示し、音声ナビ併用で見える化、聞こえる化で類似事例を抑止

ヒヤリハット掲示 事例



やってみての効果

ヒヤリハットの事例が、発生現場でどのような事例が起きたか、一目で分かる「ヒヤリハットの見える化」として、現場全員に周知徹底できる。

今後の目標や展望

ハインリッヒの法則（1：29：300）の陰には、多くのヒヤリハット事例や危険有害要因が潜んでおり、この災害に繋がる危険の芽の段階で、危険有害要因及びヒヤリハット事例の「見える化」やパトライトや警報装置・音声ナビ等を活用した「聞こえる化」も積極的に進め、指差呼称と併用で推進する。



# QRコードを用いた ヒヤリハット投稿サイトの開設

事業者名：東北発電工業労働組合  
 業界・業種：その他  
 従業員規模：1270人  
 地域：東北地区・新潟県・東京都

## 背景（課題・ニーズ）

当労組ではハインリッヒの法則の基、労働災害根絶を目指し、種となるヒヤリハットの集約、その後の対策・フィードバックを実施しており、組合員からヒヤリハットを募集・集約・分析後、会社へ情報提供を実施している。従来の集約方法は紙ベースで募集し指定の様式に取りまとめていたが、入力に時間を要すること、ヒヤリハットがリアルタイムで収集できないことが課題となっていた。

## 取り組んだプロジェクト内容

Microsoft office内のFormsを活用し、スマートフォンが普及している現代において当事者が直接ヒヤリハットを投稿できるような仕組みを構築した。  
 また、気軽に投稿できるよう事業所内の各所にQRコードを用いたポスターの掲示を実施した。



## やってみての効果

- 手持ちのスマートフォンからQRコードを読み取ることで簡単にアクセスできることにより従来の紙ベースと比較して投稿率が19.4%向上した。
- 投稿内容をリアルタイムで吸い上げることができ、その後の対策について迅速に対応できる。
- ヒヤリハットを蓄積しデータベース化することで発生傾向を分析できる。

## 今後の目標や展望

ヒヤリハット体験は貴重な財産であり、その情報の蓄積が的確な絞った対策の樹立に寄与できることから、ヒヤリハットの遁減化による労働災害の撲滅を目指す。



【安全な職場づくり部門】

SAFE-C導入の第一歩として

「まねる」から「まなぶ」で  
ベトナム実習生の安全の「見える化」改善



ヤマダインフラテクノス(株)

事業所名：技術開発部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約160名  
地域：中部/愛知県

課題・背景

当社はこの5年間で社員数は85名から162名へと約2倍に増え、急成長を遂げている塗装会社です。特徴としてベトナム人実習生が40人を超え、全社員数の1/4を占めるようになりました。彼らは日本語取得の努力をしていますが、安全に対するコミュニケーションは待たなしです。今年度SAFE-Cに加入し、安全レベルを上げるために『「まねる」から「まなぶ」』を合言葉にスタートしました。

取組んだ運動

SAFE-Cの活動として他社で進めている安全対策を「まねて」それを「いかし」自ら「まなんで」いくことから進めています。情報を水平展開するためにYSAFE-C通信を発行しています。YSAFE-C通信3号は外国人就労者に対する安全度向上事例です。時いた種 (PLAN) に、気づいて水をかけ (DO&CHALLENGE&CHECK)、芽 (安全) が出てくることで次の行動 (SAFE-C活動) につなげて (ACTION) しています。

外国人就労者 (ベトナム実習生等) 向けYSAFE-C通信3号  
安全メッセージ (SAFE&COMMUNICATION)

今後の展開と展望

- ① まだ報告数も少ないため「まねる」から「まなぶ」を定着させていきます。
- ② 他職場の改善報告が見える活動を進めます。
- ③ 安全の「PDCA」により改善の「水平展開」を目指します。

【展望】 その結果小さな気がかりを黙認しない安全職場を実現させていきます。言葉の壁を越えて「安全」に挑戦し、母国に帰国した際に、技術だけでなく「日本の安全文化」もお土産に持ち帰ってもらおうと考えています。

**「Bắt chước」 và 「Manabou!」** YSAFE-C通信 0003号

竹中工務店  
Các công ty khác đang thực hiện các biện pháp sáng tạo để đảm bảo an toàn cho người lao động nước ngoài. Tại sao không sử dụng nó như một tài liệu tham khảo?

YSAFE-C通信 0003号  
外国人就労者の就業状況見える化

【まねる】から【まなぶ】ポイント  
Điểm [học] từ việc [bắt chước]  
借鉴して母国語で確認させてから、日本語でも確認させてはじめて下さい。Tại sao họ không chỉ vào nó và xác nhận nó bằng ngôn ngữ mẹ đẻ của họ, sau đó báo họ hát theo bằng tiếng Nhật?  
ベトナム語で「Dây đeo cảm Yoshi!」[Giữ an toàn!]  
インドネシア語で「Tali Dagu Yoshi!」[Jaga keselamatan!]  
そして母国語で「戴いてね、ヨシ!」に訳さない!

2024/10/21

YSAFE-C通信による安全情報の水平展開



## フォークリフト事故0をめざして！ フォークリフトに関するアンケートを実施！

事業者名：株式会社トーコン  
業界・業種：物流サービス  
従業員規模：約240名  
地域：関東/神奈川県

### 背景（課題・ニーズ）

当社ではフォークリフトによる事故が増加傾向にあり、調査したところ、入社3年目までの社員の事故率が高いということが判明した。また外国籍社員の安全ルールや教育に対する理解度に懸念が感じられたため、入社3年目までの社員及び外国籍社員を対象にフォークリフトに関する知識やルールがどこまで浸透しているのか調査するためアンケートを日本語版と英語版を作成し実施した。

### プロジェクト内容

#### フォークリフトの危険性についてのアンケートを実施

アンケート調査（1回目）  
Googleフォームで日本語版  
と英語版を用意して実施



アンケートの回答の集計後  
解説とフィードバック配布  
こちらも日本語版と英語版  
を用意し配布した



アンケートのQRコード



アンケートの回答の集計後  
フィードバック送信 1回目・  
2回目の比較グラフも追加して  
日本語版、英語版を配布した



アンケート調査（2回目）  
正答は同じだが、よりイメージ  
しやすい内容に変えて実施

### 実施結果



5.33%  
UP



1回目と比べて2回目は平均5.33%正解率UP

1回目のアンケート終了後、英語・日本語の解説を配布し各事業所で詳しく説明を行ったことで理解が深まったと考えられる。

### やってみての効果

当社ではフォークリフトに普段乗っている人への対策は数多あるが、乗っていない人への対策は行っていなかった。今回免許の有無に関わらずアンケートを行ったことで、普段乗っている人だけでなく乗っていない人も危険の存在に気づくことができた。

解説を挟みながら2回アンケートを実施したことでアンケート2回と解説2回の計4回フォークリフトの危険性について知る機会を作ることができた。各事業所からもこのアンケートがきっかけで、危険性を知る事ができたとの声が多く寄せられている。

### 今後の展望

今後は引き続きフォークリフト事故0をめざして、社員教育資料として新入社員研修で配布。安全に対する意識向上に役立てていけるよう推進していく、時勢に合わせて更新し、また英語以外の言語への翻訳も検討する。



# 労働安全部発足！ ～本社による組織的な安全衛生管理～

事業者名：フジパングループ本社 株式会社  
 業界・業種：製造業  
 従業員規模：約16,000名  
 地域：全国（沖縄を除く）

## 背景（課題・ニーズ）

労働災害をなくすための『統一性のある客観的な考え方と行動』が必要という考えから、令和6年7月に労働安全部を発足。これまでの各工場、店舗が実施する安全衛生取り組みが中心の体制から、労働安全部が発足以降、全国にある43工場の**工場長などの管理者に対して、安全衛生教育（リスクの見方、原因・対策の考え方等）のポイントを指示、各工場が実施する好事例の教育を展開、教育の実施状況の管理などを通して、組織的な安全衛生管理、労災防止対策に取り組んでいる。**

## 取り組んだプロジェクト内容

- 各工場の労災について分析
- 経営トップによる安全衛生方針の表明
- 各工場にISO45001に準じた教育を実施

（4日以上休業労災分布）



**まずは  
挟まれ・  
巻き込まれ  
を無くす！**

⇒本社報告資料をデータ分析できるようにシステム化（1～10月）

**フジパングループ労働安全方針**

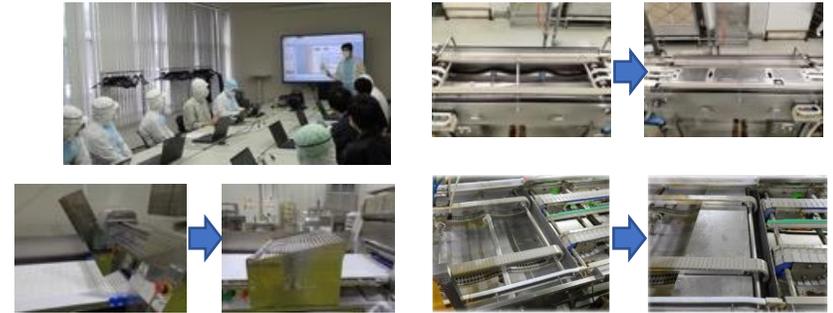
**基本理念**  
 フジパングループは、「安全第一を最優先」との基本理念のもと、全従業員および敷地内で働くすべての人の安全確保に努めます。

**労働安全方針**

- 法令遵守：労働安全関連法規制を遵守します。
- 重症度労働災害の撲滅：死亡、および身体の一部を失うような重症労災、4日以上休業（職場離脱）となる労災の撲滅「0」に優先的に取り組みます。
- 安全管理水準の向上：リスクアセスメントと委員会を軸とした全員参加型の取り組みを推進します。リスクアセスメントと委員会を軸とした全員参加型の取り組みを推進します。
- 継続的改善：日々の業務を通じて現状を把握し、改善を継続します。
- 労働安全文化の醸成：グループの全従業員ならびに敷地内で働くすべての人に当社グループの労働安全方針を周知し、一人ひとりが労働安全への関心と意識を高めます。

2024年8月1日 フジパングループ本社株式会社 労働安全部

⇒これまで各々で取り組んでいた労災対策をより効果的な対策とするため、社長が各工場長に対し意思を表明。



⇒ISO45001からリスクアセスメントと全員参加型の取り組みの重要性を**各工場長**に教育。挟まれリスクのある危険源にカバー設置や変更を展開。

## やってみての効果

グループ全体で同じベクトルで活動できるようになっている。労働安全に対して表立った活動がしやすくなっている。

## 今後の目標や展望

新人教育内容の統一化、世代別教育の充実、組織を拡大しパトロールと現地指導のスピードアップ、全員参加型の取り組みで労働安全文化の醸成。



# 職場巡視と自主保全活動の融合による 全員参加型のゴム練り工場安全化活動 3K(危険・汚い・キツイ)を (綺麗・快適・希望) へ

事業者名：株式会社フコク 群馬工場  
業界・業種：製造業  
従業員規模：1,150名（国内全拠点）  
地域：関東（群馬）

## 背景（課題・ニーズ）

ゴムの混練り工程は設備や作業環境の3K色が強く、若手の採用や技能伝承の為にも職場の安全化や作業環境の改善が永遠の重要課題でした。管理者、安全衛生課の気付いた危険箇所と現場サイドの感じる危険対策の優先順位乖離や、現場の汚れが著しい為に巡視での細部確認や保全活動、設備改善が進み辛いといった問題により安全化対策の遅れが見られ、『ゼロ災』に向けた危険源対策活動を一丸となって加速する必要に迫られた。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①1回/週の清掃・保全活動と定期巡視 活動ボードで計画・実績を情報共有

全員清掃・保全活動

管理者・技術の巡視



活動ボードで計画、実績を情報共有



### ②巡視時のリスクアセスメントと 現場からの提案を合わせ対策検討

リスクアセスメント

現場の安全化提案

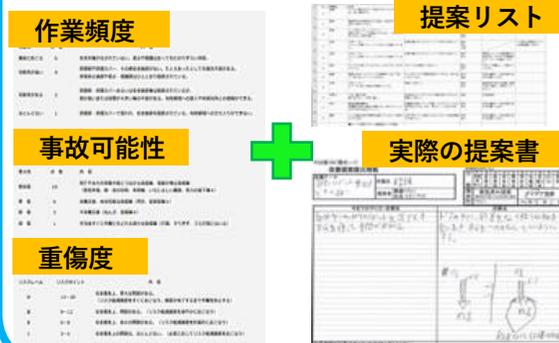
作業頻度

提案リスト

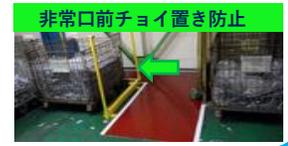
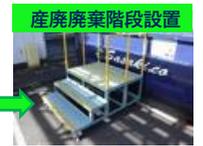
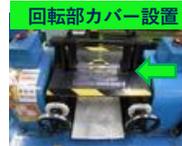
事故可能性

実際の提案書

重傷度



### ③各部署が協力し様々な安全対策を実施



## やってみての効果

管理職、技術、保全、作業者が一丸となって4Sや安全点検、安全対策を推進する体制構築、情報共有と協業で以前より相互補完体質が飛躍的に高まった事で活動も大きく加速した。現場からの安全に関するアイデア提案も活発化し、関係者の意識も向上。ゼロ災継続中。

## 今後の目標や展望

参加者のレベルを底上げし、指導役を育成、活動が将来に渡り継続出来る様にした上で、関係子会社や仕入先にも紹介、展開していきたい。



お客様に新しい価値ある体験を提供します  
寿精版印刷株式会社

「安全な職場づくり部門」

## 健康・安全についての全社員教育の実施 ～安全な作業遂行力のためには健康な体が不可欠！～

チーム名；SAFE KOTOBUKI  
事業者名；寿精版印刷株式会社  
業界・業種；製造業  
従業員規模；496人  
地域；東京 / 大阪

### 背景（課題・ニーズ）

社員が日常的に健康に気をつけてもらうことで健康保持増進。  
また労働災害ゼロ化に向けて、安全に関わる内容の教育を実施したい

### 取り組んだプロジェクト内容

全社員496人を対象に病気のリスク等の健康に関わる内容や、ヒヤリはっと活動の進め方等の安全に関わる内容の社員教育の実施（年7回実施）

▼各部署の教育の様子（オンラインで資料を共有し、教育している）



### 健康に関する教育内容

- メンタルヘルス
- 肝臓病
- 脂質異常症
- コロナウイルス対策
- 感染症対策
- 休養について
- ロコモティブシンドローム
- スマートライフプロジェクト

2017年～  
継続的に実施

### やってみての効果

- 社員教育を通して、健康・安全に対する意識向上につながった。
- 「健康経営プライト500」認定取得にもつながり、対外的にも健康・安全に対する姿勢が認められた。



### 今後の目標や展望

- 新たな内容で社員教育を行う
- 教育を繰り返し行うことで、労働災害ゼロ化を目指す
- 動画形式での社員教育を実施することで、更に分かりやすく社員教育を行う。



# ケーブル伸ばし用平台車により 背面歩行廃止・転倒リスク低減・作業負荷軽減！

事業者名：株式会社ササキ  
業界・業種：製造  
従業員規模：約230名  
地域：北海道・東北/宮城

## 背景（課題・ニーズ）

ケーブルを背面歩行で後退しながら長台の上に伸ばしていたため、視界が効かず転倒リスクがあり、さらに重いケーブルの持ち運びは体に負荷となっていた

## 目的

背面歩行の廃止で転倒リスクを低減し、かつ作業負荷を軽減する

## 取り組んだ“KAIZEN”内容

**KAIZEN前**：巻いたケーブルを両手で支えながら、背面歩行で後退しながらケーブルを伸ばす



### ※危険ポイント

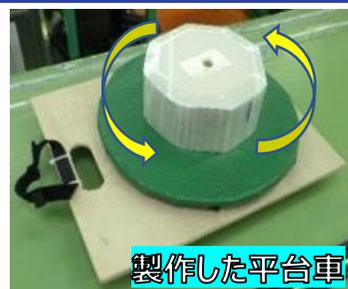
- ①背面歩行で後退⇒視界不良で転倒リスク大
- ②重いケーブルの持ち運び⇒身体への負荷蓄積

**KAIZEN後**：回転盤をつけた運搬用平台車の開発により、前向き歩行でケーブルが自動的に伸びる



### ※改善のフポイント

- ①平台車を使用  
⇒前向き歩行が可能に、負荷も軽減
- ②平台車に回転盤をつける  
⇒平台車を引くだけでケーブルが伸びる



## 実施効果

- ◎背面歩行の廃止⇒転倒リスクの低減
- ◎約7kg(20m)のケーブル持ち運び廃止  
⇒体への負荷軽減
- ◎平台車に回転盤をつけ使用  
⇒作業の簡易化・効率化にも寄与

## 今後の目標や展望

労働災害で最も多い「転倒災害」の不安全行動を抽出し、リスク低減できるよう、「KAIZEN」を他工程でも行う

# 台車専用運搬台車で腰痛防止！

事業者名：株式会社ササキ  
業界・業種：製造  
従業員規模：約175人  
地域：東北・北陸/山梨

## 背景（課題・ニーズ）

株式会社 ササキでは“**ゼロ災で行こう**”をモットーに日々業務を行っている。  
現場では台車を使用することが多く、体に負担となっている側面を持っている。そこで負担軽減と安全性を考慮し台車専用運搬台車を導入した。

## 改善前

肩腰への負担  
大



台車  
1個：  
4kg

手持ち運搬だと体への負担と両手が塞がるため危険。

台車が崩れる危険  
性

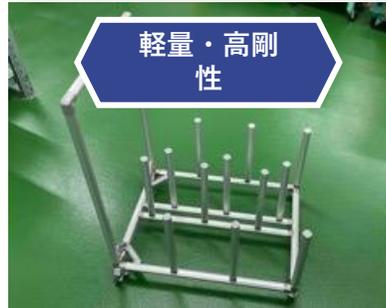


荷崩れによるケガ  
周辺に2次災害

積み上げでの移動や保管は危険が伴う（不安全行動）

## 改善後

台車専用運搬台車を導入



軽量・高剛性

運搬時の安全性を確保、1回で複数台同時運搬。

安全かつ体への負担軽減



大量運搬・少ない力で操作性も抜群

格納場所としても機能するため保管時も台車が崩れる心配がない、移動時の負荷も軽減された。

## やってみての感想

台車を移動する際、体に負担になったり、不安定な作業で危険な状態もありましたが、運搬時の体への負荷および危険度を低減し、1回で複数個の台車を運搬することができ業務の効率を上げることができた。  
運搬目的だったが格納場所としても機能することがわかり改善度はとても高い効果を得ることができた。

【安全な職場づくり部門】



# 物の落下による、 人に当たるリスクの減少

事業所名：(株)日本ネットワーク  
サポート播磨工場  
業界・業種：製造業  
従業員数：85人  
地域：近畿/兵庫

## 背景（課題・ニーズ）

物の落下により、下方にいる人へ当たるリスクを減少させる。

## 取り組んだプロジェクト内容

踊り場の足元に高さ10cm程度のつま先止め板を取付けることにより、物の落下リスクを減少させた。



## やってみての効果

人が歩く上部に踊り場や通路等がある場合は、つま先止めを設置することで、安全性をより担保できる。

## 組立ライン表示灯による安全確保

事業者名：株式会社日本ネットワーク  
サポート佐野工場

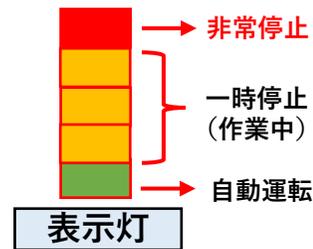
業界・業種：製造業  
従業員規模：77名  
地域：近畿/大阪

### 背景（課題・ニーズ）

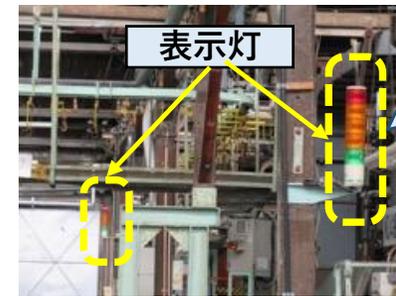
当社佐野工場では製品組立作業においては、同一ライン上の異なる場所において複数人での作業となるが、それぞれの場所からは他の者の作業状態が確認できず、どのような状態となっているのか判断ができない。通常は自動運転でラインを稼働させているが、ラインを一時的に停止させ製品の確認等が必要となる場合があるため、ライン上の何処の箇所で停止して作業を行っているのかが分かりづらいとの声が現場作業員から挙げられた。

### 取組んだプロジェクト内容

ラインの何処の箇所で一時停止させて作業を行っているのかが一目で判断できるように表示灯を設置した。



点灯場所によって何処で一時停止して作業しているか分かる。



組立ライン上の作業員全員から見える場所に設置

### やってみての効果

ライン上の何処で一時停止しているか「一目瞭然」であり、各作業場所間での応援がやり易くなった。

### 今後の目標や展望

製品組立については、同一ライン上での作業が多く各人の意思疎通が必要であるため、安心安全に作業できるように今後も取り組んでいきたい。

株式会社 日本ネットワークサポート

# 自然災害や労働災害等の緊急時における「応急措置」への備え

事業者名：(株)日本ネットワーク  
 サポート 滋賀工場  
 業界・業種：金属製品製造業  
 従業員規模：94名  
 地域：近畿/滋賀

背景（課題・ニーズ）

<課題>

自然災害や著しい積雪等により「救急車両を要請しても直ちに到着が困難」な状況のなかで、従業員が負傷したとき、他の従業員がとるべき行動について検討する必要がある。

<ニーズ>

どんな状況下においても「直ちに応急措置」を施すための知識と備えが必要！！

概要

以下のセットを各建屋入口に設置した

種類	使用用途	備品	写真
救急セット	「直接圧迫止血法」 および 「止血帯法」 の止血措置が行える。	タオル 滅菌ガーゼ 滅菌救急三角巾 オキシドール 布切はさみ 使い捨て手袋 エレバン（絆創膏） 止血方法の手順書	
搬送セット	切断してしまった部位を保冷した状態で病院へ搬送し、再接着を目指す。	滅菌ガーゼ 瞬間冷却材 ジップロック 使い捨て手袋 ビニール袋 搬送方法の手順書	



<その他の取組み>

- 地震に備えた教育
- 心肺蘇生法(AED)
- 骨折時の措置法
- 簡易担架の作り方



従業員とご家族の「安心」に向けて



## 遊休装置を活用した 包装作業の省力化・安全化

事業者名：オリエント化学工業(株)  
業界・業種：化学工業・製造業  
従業員規模：230名  
地域：関西/大阪府

### 背景（課題・ニーズ）

当社では現場で作業を行う一人ひとりが、日々の作業を“安全に”、“ラクに”、“早く”できる様に考えて作業を行うよう心掛けている。その為、ボトムアップ型の改善提案活動推進に積極的に取り組んでいる。各職場には改善活動を推進する改善委員が任命され、定期的開催される改善委員会では、各職場の優秀な改善事例が持ち寄られ、改善の社内共有が図られている。近年、60歳以降も現場で活躍する社員の増加に応じて、“ラクに”できる作業の省力化改善が多く寄せられている。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 包装作業の省力化

従来の包装作業では、製品10kgの入ったポリ袋を片手で持ち上げ、もう片方の手で外装にするクラフト袋の口を広げながら、その10kg入りポリ袋をクラフト袋に収める作業（写真①）を行っていた。そこで、遊休品の治具（写真②）を活用して、クラフト袋の口を広げて袋が自立できる（写真③）ようにした。これにより、両手で10kg入りポリ袋を持ち上げて、そのクラフト袋に収めることができる（写真④）ようになった。



写真①



写真②



写真③ 治具の口元を切断、クラフト袋が大きく開口する様にした。



写真④

### やってみての効果

- 腕力に任せた従来の包装作業は、片腕に10kgの負荷がかかり、疲労が蓄積すると腕や肩、腰を痛める恐れがあった。遊休品治具を活用した省力化改善後の包装作業では、両腕を使って大きく開口する自立したクラフト袋に収めることができ、ラクに作業ができる。
- 従来の包装作業は、一回でクラフト袋に収まらなければ、何回か試みるうちに袋がしわくちゃになる事もあった。早くきれいに作業ができる。



## 部品台車の運搬作業が、前傾姿勢で辛い 放置されていた腰痛リスクを改善し排除！！

事業者名： 株式会社 ジェイジェイ  
 業界・業種： 宇宙航空・製造業  
 従業員規模： 75名  
 地域： 中国・四国/広島県

### 背景（課題・ニーズ）

当社では航空機胴体の一部の製造に携わっており従業員それぞれが、様々な形状で膨大な数の航空機部品を取扱っています。小部品などは、自製のパイプ台車を使用し運搬をしていましたが、長年の使用で台車の取っ手が取れてしまったものや、取手の長さが不十分でかなりの前傾姿勢で運搬をしなければならず、腰痛障害発生を危惧する従業員が増えていました。改善キーワードは運搬を今よりも『ラクに』。。。

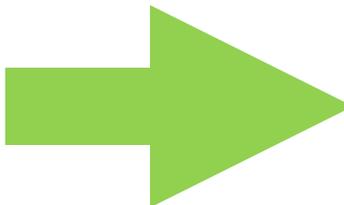


部品台車の取手が短かく前傾移動が必須だった



小柄な女性でも前傾姿勢で一苦労

# 改善！



取手の改善で運搬姿勢がラクに！



身長関係なく姿勢が伸ばせる様に

部品運搬時の前傾姿勢による腰痛リスクが放置されていた

余剰パイプを使用し台車取手を延長し運搬しやすく！  
 コストを掛けずにリスクヘッジ完了！

### やってみての効果

#### 従業員の声（一例）

- Aさん** : 前傾姿勢だと身体負担も大きいし周囲が見えませんでした。姿勢がラクになり周囲もよく見ながら移動できるので、安全度も増したと感じます。
- Bさん** : 取手を改善したことで、台車の方向も変えやすくなり腰もラクになったので、仕事が捗る様な気がします！

など、従業員からは概ね高評価を得ることが出来た。腰痛災害発生の不安も減少し、安全で働きやすい職場として進化出来たと感じています。



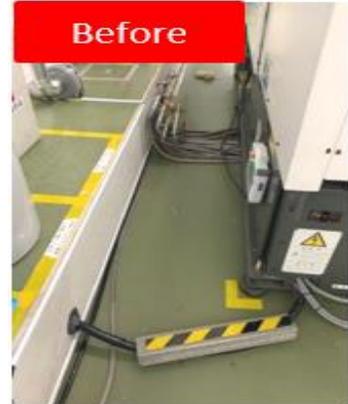
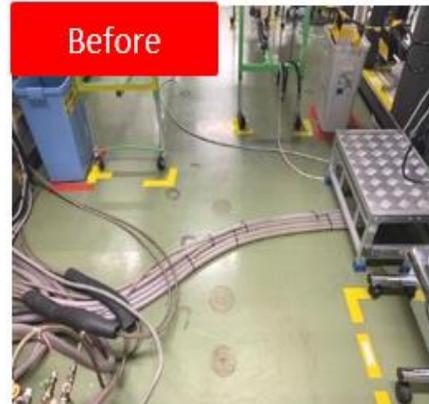
高身長でもラクな姿勢で取手に手が届く様に改善実施！

## 作業場の転倒災害防止対策

ゼオンオプトバイオラボ株式会社

生産工程の成形機移設、レイアウト変更を行いました。設備機器の配管や配線、ホースが床の上を張っていて、通行の際に躓いて転倒する可能性があり、危険な状態となっていた。

不要な配線、配管の撤去と配管位置（壁面へ）変更し通路をすっきりさせた。



◆床の上を張っていた、配管、配線、ホースが無くなったことで、躓き転倒が改善され安全な職場が確立できました。また、作業性も向上して、ストレス無く作業が行える様になりました。



# 安全の見える化推進パトロール 「災害ゼロ」から「危険ゼロ」へ



事業者名：東亜建設工業(株) 大阪支店  
 業界・業種：総合建設業  
 従業員規模：約150人（全社約1700人）  
 地域：近畿、四国を管轄

## 背景（課題・ニーズ）

## 取り組んだプロジェクト内容

大阪支店安全衛生協力会では、自主的安全衛生活動をより積極的に推進する方策の一つに、協力会正会員メンバーから**見える化チーム**を編成し、**安全や危険の見える化に特化した現場点検**を行い、現場の労働災害防止に繋がる「見える化」を実現し、「ゼロ災」に取り組んでいる。6人で**見える化推進**のトラチョッキを着用、熊よけ鈴を腰にぶら下げて現場を巡視する。

## 見える化推進の活動状況



### 【見える化アドバイス】

詰所ドア開閉時の通行者との接触防止対策として警報音や明示を検討



### 【見える化アドバイス】

アトリガ-設置位置をスラブ面上にテープ、石灰等のライン明示を



### 【見える化アドバイス】

生コン車の誘導・停車位置を白線あるいはバタ角で視認向上



## やってみての効果

通常の指摘事項や良好事項の抽出するパトロールにかわり、**協力会の会員企業の多角的な視点**で、様々な見える化のアイデアを挙げ、現場職員と一緒に有効な見える化事案を考えることで、現場全体の**見える化意識**が高まる。

## 今後の目標や展望

視覚に訴える**見える化**、聴覚に訴える**聞こえる化**等、現場に潜むあらゆる危険要因を可視化することで、「**危険ゼロ**」の徹底で**ゼロ災**を目指す。協力会正会員会社の**全員参加活動**として**一体感**を醸成する



# クラウドカメラで現場を安全管理 ～遠隔地の現場をリモート確認～

事業者名：東亜建設工業(株)  
白石工事事務所  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約50人  
地域：関東/神奈川

## 背景



往復1時間。。。

海上工事を得意とする当社の現場では、事務所から現場までの移動に船舶が必要となる場合があります。陸上工事においても遠隔地の現場も多く、海上・陸上ともに現場までの移動に多くの時間を要するという課題があります。

一方で、働き方改革の実現に向けて建設業全体が取組む中で、いかに**効率良く働き**、かつ**安全に現場を管理する**かが各企業に求められています。

## 内容

当社の一部現場ではクラウドカメラを設置し、PC、スマートフォン、タブレット端末等を使用して**現場状況をリアルタイムに確認しています。**

また、当社では現場担当と内業担当に分かれて業務を行うことがあります。カメラの設置により遠隔地(内業担当者)からでも、**移動時間をかけずに現場状況を把握**し指示が出せるため、多方面から現場を管理することができます。



撮影した映像データは常時録画保存しています。データを見返すことで作業状況の振り返りをしたり、今後の作業方法の打合せとして利用できるため、有効に活用することができます。

作業方法の打合せは、実際の映像を確認しながら行うので、メンバー全員で共通認識を明確に持ち、**より現場に即した内容で実施することができます。**

また、カメラの電源にはソーラーパネルを使用しており、日中に充電した電力で作業時間外や夜間帯も撮影し続けることができるため、クラウドカメラが防犯対策や非常時の確認としても役立っています。



## やってみての効果・感想

- 移動に要する時間を書類作成などの業務に当てられたので効率よく仕事ことができました。残業時間を減らし、プライベート時間を確保することができたので精神的にも健康でいることができました。・・・Y職員
- 現場作業を行う前に、現場状況や作業方法を映像で確認できたので状況整理がしやすかったです。・・・K作業員



## 今後の目標

建設業で発生する災害は、発生件数こそ年々減少傾向にありますが、一度災害が発生すると重大災害につながる可能性が高いという特徴があります。当社で導入しているクラウドカメラを最大限活用し、現場に潜む災害につながる危険の芽を一つ一つ摘んでいこうと思います。

【安全な職場づくり部門】



# 安全な照度を確保した職場づくり

事業者名：東亜建設工業(株)東京支店  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約150人  
 地域：関東ブロック

背景（課題・ニーズ）

建設工事の現場では、作業場所や作業環境に応じた照明器具が必要となる。従来の物では照度が不足していたり、持ち運び・取り回しに不具合があるなど、改良の余地があるため、より良い照明器具が求められている。

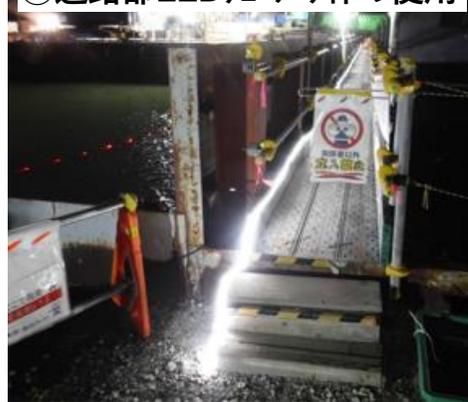
取り組んだプロジェクト内容

新たな器具の導入・試用・使用

①足場内LEDテープライトの使用



②通路部LEDチューブライトの使用



③バッテリー式バルブライトの使用



排ガス・騒音無し

④高照度ヘッドライトの使用



やってみての効果

安全な照度を確保することにより、移動・作業の効率化、つまづき・転倒の防止につながられた。特にLEDテープ・チューブは従来の電球の物よりも、明るく、割れず、長持ちし、少消費電力、かつ、全体が光り自在に曲げられ設置場所を選ばず照らせるということで有効であった。今後も新たな照明器具等を導入・試用し、より良い物の活用を社内・関連会社に水平展開し、安全な職場づくりを進めていきます。

## 災害の再発防止対策 (過去の災害事例の活用等)

事業者名：東亜建設工業(株)北陸支店  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約30人  
 地域：北陸地方(新潟県・富山県・石川県・福井県)

### 背景 (課題・ニーズ)

建設業の死傷病災害件数は、労働安全衛生法制定等を契機に減少してきたが、ここ最近では停滞し(下げ止まりし)ている状況です。更なる災害減少を達成させるため、現場トップの決意と過去の災害の再発防止と危険感受性を高める対策が必要である。

### 取り組んだ活動の内容

#### ① 所長方針の表明

- 所長方針として『ゼロ災』を表明



#### ② 災害事例の周知

- 安全教育訓練で、類似工種で発生した過去の災害と再発防止対策を周知
- 作業員休憩所や喫煙所等に、過去の災害事例を掲示



#### ③ つまづき転倒の再発防止

- 過去のつまづき転倒の再発防止対策として、作業通路の段差箇所を明示し、指差呼称を実施



#### ④ 巻込まれの再発防止

- 巻込まれの再発防止対策として、ミキサーに現場作成した蓋を設置 (機械付帯の蓋は鉄板製であり、ミキサー内部)が確認できず、蓋を開けたままだと、とっさに手等を入れてしまい巻込まれの危険



【取組み例として、国土交通省発注 新潟港(東港地区)岸壁(-12m)地盤改良工事(その1)の取組】

### 取組みの効果と今後の目標

類似工種で過去に発生した災害の再発防止対策を行う取組みで、建設現場の安全性を向上させることができる。更に過去の災害発生要因や再発防止対策の情報共有により、工事に従事する技術者や作業員の危険感受性を高める効果が期待できると考えている。

これらの活動を活性化させ、作業時に行う危険予知等もより効果が高い活動にして、建設現場の安全水準を向上させていきたい。

# 鏡の自分に誓おう 安全意識の向上

事業者名：東亜建設工業(株)西日本建築支店  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約150人  
地域：東海・近畿・中国・四国・九州ブロック

## 背景（課題・ニーズ）

1. 現場に鏡を設置し、職員・作業員とも毎朝作業開始前に鏡の前に立ち、「私は絶対に災害を起こさない」と鏡の中の自分に誓ってから作業場へ移動するルールを定めている。

## 取り組んだプロジェクト内容



TBM終了後に鏡の中の自分に「私は絶対に災害を起こさない」を声に出して誓い配置につくことで、安全意識の高揚を図った。

## やってみての効果

各々が作業前に安全に対する思いを込めることにより、安全意識の向上と指差呼称運動の啓蒙にも繋がった。

鏡の自分に誓おう！  
私は絶対にヨシ！  
災害を起こさない



# 新規入場者・若手労働者への対応

事業者名：東亜建設工業株式会社  
 横浜支店横須賀工事事務所  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：27名  
 地域：全国：関東/神奈川



## 背景（課題・ニーズ）

建設業界全体の労働災害は長期的に減少傾向にあり、当社における休業4日以上<sup>※</sup>の災害発生件数も同様の傾向が見られます。しかし、躓き転倒災害や小型電動工具による災害などの軽微な災害があとを絶たず、その発生災害の多くは、危険軽視や危険感受性の低下に加え、新規入場者や経験の少ない労働者による安易な間違っ<sup>※</sup>た判断および安全意識・知識の低下が要因として挙げられました。

そこで、工事現場への新規入場者や経験の少ない若手労働者への教育、安全な工事現場づくりがより一層求められている。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①新規入場者教育の充実

現場への新規入場時に行う安全教育において、現場の注意点に加え、作業手順のシミュレーション動画を作成し、イメージしやすくした。



作業手順シミュレーション動画

教育終了後、ヘルメットに貼付できるシールを配布し、新規入場者をいち早く現場全員でサポートする体制を整えた。



新規入場者シール

### ②現場内のカラー化・見える化

安全通路を緑色、段差危険箇所を黄色と現場ルールとして色分けを統一した。



安全通路 = 緑色

現場内での注意事項や危険箇所を掲示物などで明示し、見える化を行った。



段差注意喚起 = 黄色

### ③作業員みまもりサービスの導入

新規入場者に『作業員みまもりサービス』を貸与し、万が一災害発生してしまった後すぐに対応できるように作業状況を遠隔管理した。



作業員みまもりサービス

【作業員みまもりサービス】とは  
 GPS搭載の小型機械を身につけることで、作業員一人一人の位置や体調を遠隔でリアルタイムで確認することができる。

## やってみての効果

誰でも初めての場所や経験のない仕事には戸惑いを感じますが、文章や図面だけでなく、シミュレーション動画の活用や現場を見える化することで、誰でもわかりやすく安全な現場づくりができました。また、日頃からコミュニケーションをとりあい、不安全行動を見かけた際にお互いに「危ないよ」と声を掛けられる関係性を築くことで、現場一丸となって安全第一で作業を進めることができました。

安全な工事現場づくり！

会社を問わず積極的にコミュニケーション！

不安全行動をみたらすぐ声掛け！





# 安全確認・指差し呼称の定着にむけて ～指差し呼称事例の掲示と実践場所の「見える化」～

事業者名：東亜建設工業株式会社  
 横浜支店川崎工事事務所  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：20人  
 地域：関東/神奈川

## 背景（課題・ニーズ）

災害の発生において、その原因の8割を占めると言われるヒューマンエラーを効果的に減少させる「指差し呼称」についての安全教育を行っていましたが、後のヒアリングで「どうやったらよいか分からない」「どの場面でやればいいのか?」「つい忘れてしまう」というような声がありました。作業員の方々は「指差し呼称」の重要性は理解しているが、そういった理由で実践していない事も多いという状況があり、「指差し呼称」の定着に向けそれぞれの**作業場所に合わせたマニュアルや実践する場所の「見える化」**をすれば効果があるのでは?という考えから行ったものです。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①周知教育の実施

各作業場所における実践例を使用した周知教育の実施



### ②作業場所への掲示

毎日目に入る場所に実践例を掲示  
 ・安全朝礼場所の掲示板  
 ・現場休憩所 など複数掲示



### ③実践場所の「見える化」

現場内の他と色違いのカラーコーンおよび文字にて実践場所の「見える化」



## やってみての効果

実践例の掲示と実践場所を「見える化」した事により、数値化はできないが道路横断時など「指差し呼称」の実践が増えていることを実感できた。  
 また、作業員から**自然と目に入るので実践しやすくなった**という声も多かった。

## 今後の目標

変化する作業状況のなかで各々が自発的に「指差し呼称」を実践できるように今後もアイデアを出し合い実行し、ヒューマンエラーによる災害ゼロを継続していくことを目標としています。



# オリジナルポスターで 安全意識向上!



事業者名：菱和建设株式会社  
 業界・業種：総合建設業  
 従業員規模：100人  
 地域：東北/岩手県

イメージキャラクター  
りょわん

## 背景 (課題・ニーズ)

2022年に労働災害が発生。社内や各現場事務所の目に見える位置にポスターを掲示し、日常的に安全意識を高めるためオリジナルのポスターを作成し掲示した。

## ポスター例

### グーパー運動



新ヒヤリハット報告

### エイジフレンドリー



声掛けヨシ!運動

## 掲示の様子



年に2回のデザイン変更により  
恒常化を防止。

全現場、全事業所に掲示。安全意識の向上により、労働災害ゼロ1000日を達成。継続した安全活動をおこなっていききたい。



# 危険感受性向上 危険体感VRトレーニングの取り組み

事業者名：栗田工業株式会社  
 業界・業種：建設業（水処理装置/薬品）  
 従業員規模：約8,000人（連結）  
 地域：東京都

## 背景（課題・ニーズ）

クリタグループは、2020年以降、労働災害が増加し、特に経験の浅い従業員の被災が多いという課題に直面。

## 目的

クリタグループではこの問題に対応するため、VRによる安全体感を導入。この取り組みにより、従業員は経験不足を補い、危険感受性の向上と安全意識を高めることができます。また、このVR体験を国内外のグループ従業員やパートナー企業に広めることで、各拠点での自律的な安全意識向上の促進を目的としています。

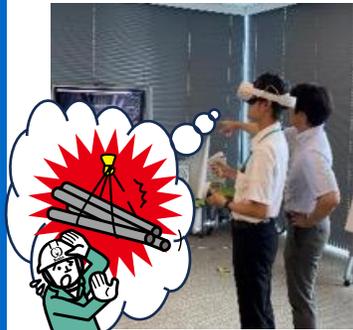
## 取り組んだプロジェクト内容

### VR体感トレーニング

- ・クリタGr及び各拠点での安全大会 ・新入社員研修 ・フルハーネス特別教育
- ・国内外の事業所でのVR体験キャラバン ・プラント建設現場事務所

### VRコンテンツ（一例）

- ・仮設足場、開口部、脚立からの墜落/転落 ・感電 ・回転体への挟まれ/巻き込まれ ・吊荷の飛来落下



栗田工業での体感の様子



現場事務所での体感の様子



海外グループ会社での体感の様子

## やってみての効果

2024年度に始まったこのプログラムは、半年間で約300人の受講者を迎えました。受講者からのフィードバックによると、96%がトレーニングを受けたことで危険感受性が「非常に高まった」または「ある程度高まった」と回答しており、「実際の労働災害を経験することなく現場の危険性を体感できた」との声も寄せられています。これは社員の危険感受性向上、安全意識向上へのきっかけとなっています。



今後は、より記憶に残る体験機会となるような工夫を重ね、関係者全員の安全意識向上により労災ゼロを目指します。



# マネキン展示による 正しい保護具着用の啓蒙活動

事業者名：栗田工業株式会社  
 業界・業種：建設業（水処理装置/薬品）  
 従業員規模：約8,000人（連結）  
 地域：東京都

## 背景（課題・ニーズ）

- 当グループでは薬品を使用する作業が多く存在していることから、薬傷災害が毎年発生しており、その防止が課題
- 薬傷災害の原因の1つは「個人用保護具を正しく着用できていない」
- 毎日同じ薬品を取り扱う作業を続けていると、次第に慣れが生じて薬品の危険性に対する意識が薄れ、規則を守る意識が低下してしまいがち

## 目的

薬品から身を守る『最後の砦』である個人用保護具の正しい着用方法・ルールを、マネキンを使用して啓蒙活動し、作業者の**危険感受性**を向上させる

## 取り組んだプロジェクト内容

### 共通スローガン

### 『マネキンを観て真似て 我が振り直そう 保護具の着

週ごとにテーマを設け、薬品取扱者に似せた保護具着用の“まちがいさがし”マネキンを展示

### 第一週

#### 事業所で見かけるちょっと違う事例 ～ぱつと見よいけど、なんか変だよ？展示～



一見正しい保護具を着用しているように見えるが、着用方法に間違いがある例を展示。  
「フェイスシールドの顎ひもを締めない」などの間違いが3つ用意されている。

### 第二週

#### ルール違反？怪我する事例 ～危ないよ！すぐに直そう間違い探し！展示～



正しい保護具を着用していない例を展示。本来つけるべきであるフェイスシールドや防毒マスクを着用していないなど、同じく間違いが3つ用意されている。

### 第三週

#### 事業所の模範！皆で真似しよう正しい事例 ～素敵だね！見習って真似てみよう、展示～



正しい保護具着用例を展示。第一、二週で間違った保護具、着用方法に対して、本来の正しい姿を最後に確認できる『まとめ』となっている。

## やってみての効果

### まちがいさがし体験者の声

- 展示を見た作業者が実作業に照らし合わせ、自分事のように捉えることができた
- 写真の掲示物よりも目にやりやすく、職場全体で話題となり同僚同士での声掛けのきっかけとなった
- 作業未熟者にもイメージしやすく、保護具着用の正しいルールを「楽しみながら学ぶ」ことができた
- 来訪者に「マネキンと同じ格好ですね！」と声をかけられ、普段作業をしていない人にも正しいルールを理解してもらえた
- 第二週の間違った保護具の着装状態を見て「ゾツとした」・・・危険感受性の向上に寄与

## 今後の予定

事業所毎の作業特性・ルールを反映し、グループ会社 他3事業所でも順次展開中

※2024年10月末時点  
6事業所中3事業所に展開済み

**TOSHIBA**

# 安全協議会として取組む「腰痛防止」

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
 社会システム事業部  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約2,000人  
 地域：全国（東北）

## ・ 背景（課題・ニーズ）

浄化センター内工事の安全協議会（工事関係2社、維持管理会社、監督員で構成）の幹事会社として**全社無事故無災害での工事完成**を目指した。全社の**共通作業**として「しゃがみ作業」「持ち上げ作業」があり、「腰痛予防」を活動テーマの一つとして取組んだ。

## ・ 取り組んだプロジェクト内容

「厚生労働省の職場における腰痛予防対策指針」に沿って腰痛予防体操の実施を計画した。

**職場での腰痛を予防しましょう！**  
 「腰痛予防対策指針」による予防のポイント



外部講師による出前健康づくり講座「腰痛予防」を安全協議会15名が受講した。



15:00の休憩の際に動画を自動で放映し体操を続けた。



開設している全サイトにも動画を配布し実施を拡大している。



## ・ やってみたいの効果

講座受講後の感想は異口同音に「講師と対話をしながら和やかに楽しく学ぶことができた。体操を継続して腰痛防止に役立てる。」だった。会の連帯感も増し安全協議会として無事故無災害を継続できた。

## ・ 今後の目標や展望

社内で開設する全サイトに動画を配布した。体操を拡大展開して腰痛防止の定着を推進している。

東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部

**TOSHIBA**

# 「危険・有害要因の特定」による躓き・転倒防止

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
 社会システム事業部  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約2,000人  
 地域：全国（東北）

## ・ 背景（課題・ニーズ）

施工計画の際「危険・有害要因の特定」を行い、施工業者と着手前にリスクの解消策を立案している。本特定では「転倒する」が際立っていた。

## ・ 取り組んだプロジェクト内容

躓き・転倒のリスク改善を（1）段差の解消 （2）膝への衝撃緩和 （3）「角」の見える化 （4）雨天時の滑り止め （5）有効視野の範囲確保 の5つのアイテムに焦点を合わせて推進した。改善事例は、工事中のサイトで進んでいる類似内容から選抜した。

<p><b>「危険・有害要因の特定」</b></p> <p>「転倒する」</p>	<p>1. 段差の解消</p> <p>スロープを設置</p>	<p>2. 膝への衝撃緩和</p> <p>ステップを追加</p>	<p>3. 「角」の見える化</p> <p>トラクションを貼付</p>	<p>4. 雨天時の滑り止め</p> <p>防滑人工芝を敷設</p>	<p>5. 有効視野の範囲確保</p> <p>足元注意</p> <p>クッション材を使用 反射テープを貼付</p>
--	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	---

## ・ やってみたいの効果

施工前の「危険・有害要因の特定」は災害リスクを確認する手段として有効であり、改善すべき点も明確で「自分達のための安全改善！」に創意を結集できた。

## ・ 今後の目標や展望

維持管理における動線上の足元にも改善視点が拡大している。活動アイテムに加えて展開する。



東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部

TOSHIBA

## 安全カレンダーの作成・掲示による 安全意識の高揚

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
社会システム事業部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約2,000人  
地域：関東ブロック

### 背景（課題・ニーズ）

現場では、忘れた頃に類似災害が発生している。  
継続的に安全意識の維持向上を図りたい。

### 目的

重点実施事項にかかわるイラストを日々目にするカレンダーに掲載。  
安全意識の維持・高揚を図る。

### 取り組んだプロジェクト内容



A 2 壁掛け版



A 5 卓上版（英語版）



壁掛け版と卓上版（国内用）

弊社建設部門では毎月重点実施事項を定め現場の安全管理に活かしている。各月の重点実施事項にそった安全スローガンを社員から募集し、それに関するイラストを建設部門イメージキャラクターを使用して作成、日々目にするカレンダー（A 2サイズおよびA 5卓上版）に掲載し、国内外の建設現場作業所や協力会社に配付。安全意識の維持・高揚につなげる。

### やってみての効果

配布先を対象にアンケートを実施したところ、ほとんどの方が「安全（意識高揚）に役立ちそう」「この取り組みを続けてもらいたい」との意見をいただいた。また、使用後のイラスト部分を現場に掲示し、注意標示として使用する例もあった。

【安全な職場づくり部門】

# SAFE-C導入の第一歩として 「まねる」から「まなぶ」で 安全の「見える化」を推進



ヤマダイインフラテクノス(株)

事業所名：技術開発部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約160名  
地域：中部/愛知県

## 課題・背景

当社はこの5年間で社員数は85名から162名へと1.9倍に倍増し、急成長を遂げている塗装会社です。今年度4月にSAFE-Cに加入させていただき、まだ見よう見まねで活動しているところです。どんな活動をしたらいいのか？がまだ見えていない状況です。

## 取組んだ運動

SAFE-Cの活動として「まねる」から「まなぶ」を合言葉に安全活動を進めることしました。そこで、小さな気づきを報告してもらうために報告フォーマットを作成し水平展開しました。

SAFE-C 現場改善シート【安全の「見える化」】													
<p>課題：「足場階段で足が滑る転倒災害を削減」 きっかけ：〇/〇（ヤリハット） 気かり・ケガ・赤ちん・その他（ P: 現状：雨天時に新入社員Aさんが足場の階段で泥の付いた安全靴で踏板に足を掛けたときに滑って転倒しそうになった。</p> <p>発生日：2024.04.10</p> <p>原因の想定：泥の付いた安全靴&amp;つま先で足を掛けたケガの想定：転倒し足を骨折する可能性があった。 類似の体験等：作業員の〇〇さんが荷物を両手に持って移動中足が滑って転倒した。</p> <p>D: 対策の検討：4/20 ・SAFE-Cの類似事例から●●建設の対策をベースに自社に合う対策を検討した。</p> <p>対策の実施：5/10 ・足場の階段下に網目の泥落としマットを設置した。また、靴底ハードブラシの使用検討も行った。</p> <p>C: 対策の検証：6/10 ・メンバー全員で導入品を扱い、効果を確認した。⇒泥落としマットの場合、そのまま歩くだけで踏んで立ち入る事が多く機能を発揮しない。ハードブラシの場合靴底を擦って立ち入る。 ・他現場に水平展開を行った。</p> <p>登録時記入</p>	<p>実施期間： 4/10~6/10 現場名：〇〇横りよう現場</p> <p>現状写真 4/10</p> <p>改善写真 5/10</p> <p>A: 再発防止の防止（ルール化）：〇/〇</p> <p>結果回報</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>担当責任者</th> <th>現場作業員</th> <th>主任技術者</th> <th>班長</th> <th>協力会社</th> <th>協力会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山田</td> <td>伊藤</td> <td>佐藤</td> <td>岸</td> <td>井上</td> <td>後藤</td> </tr> </tbody> </table>	担当責任者	現場作業員	主任技術者	班長	協力会社	協力会社	山田	伊藤	佐藤	岸	井上	後藤
担当責任者	現場作業員	主任技術者	班長	協力会社	協力会社								
山田	伊藤	佐藤	岸	井上	後藤								

## 今後の展開と展望

- ①まだ報告数も少ないため「まねる」から「まなぶ」を定着させていきます。
- ②他職場の改善報告が見える活動を進めます。
- ③改善の「水平展開」を目指します。

【展望】 その結果小さな気がかりを黙認しない安全職場を実現させていきます。

SAFE-C活動報告フォーマット安全の「見える化」

## 安全な職場づくり 安全標識を自ら考え作成する風土づくり ～ 全員で「見える化」を考える ～

事業者名：株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：110名  
地域：新潟県

### 背景（課題・ニーズ）

“危険に気づかず被災してしまう” 転倒や挟まれなどの災害を防止するため「見える化」の工夫を進めたいが、既存の標識に無いものは自主的に作成するほかなく、ゼロから作ることへのハードルがあった。

同時期、  
企業キャラクター「しばけん君」が  
新入社員のデザインにより誕生



しばけん君®

### 取り組んだプロジェクト内容

#### ① 「しばけん君」を標識制作用テンプレートに採用!

安全管理者監修のもと、安全標識を制作するためのキャラクター画像素材や標識テンプレートを配布し、**工事担当職員がいつでも必要に応じて自主的に安全標識を制作**できるようにした。

また、社員同士の相互活用を促進するため、社内 IT 基盤を活用して安全標識を共有するポータルサイトも構築。

この場所の危険を知らせるには、  
どんな風に「見える化」すればいいかな…

テンプレートの例



#### ② より具体的に伝えるための標識づくり

テンプレートがあることにより、工事担当者が必要に応じて**注意事項を容易に標識として作成**する環境が出来てきた。

しばけん君＝”注意を促すアイコン”  
として周知することで、  
統一感とメッセージの明確化を促進  
し伝える効果を高める



### 得られた効果

主たる効果 ①工事担当職員が安全標識を自主的に制作し共有することで「見える化」を **お互いに工夫しあう習慣** が形成された

副次的効果 ②企業キャラクターが記載された標識で注意喚起を行うことにより、**誰が誰に対して注意を促しているのか伝わりやすい効果**を生んだ ⇒導入前に比較し転倒や挟まれなどの災害が減少



危険を  
気づかせよう

しばけん君を見かけたら  
気づいてください

しばけん君があなたに  
**危険**を伝えようとしています

気づく 気づかせる 環境づくり  
お互い築いていきましょう



## トンネル工事現場における立入禁止エリアの明示 (LED光線照射を活用した見える化)

事業者名：寿建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：96人  
地域：東北/福島県

### 背景（課題・ニーズ）

トンネル掘削作業時の立入禁止エリアをその都度、カラーチェーンやカラーコーンで区別していたが、移動の手間、また設置忘れなどがみられた。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 支保工建込時、切羽立入禁止区域の見える化



#### ずり出し中の立入禁止区域の見える化

看板照射するように設置



### やってみての効果

カラーコーンの設置手間がなくなり常に立入禁止エリアが見えることで働く人にも危険個所の意識付けができた。

### 今後の目標や展望

今後も「見える化」に特化した現場づくりを目指したい。



## 作業中の合図や指示の音声を拡声器で作業場全体に共有 (情報の共有によるリスク回避)

事業者名：寿建設株式会社  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：96人  
 地域：東北/福島県

### 背景 (課題・ニーズ)

重機を使用して大型ブロックの積込などを行っている際に、大型ブロックは重量物なので作業中に大型ブロックが落下するリスクがあり、**重機オペレーターと合図者には意思疎通があり作業状況がわかっているが、周囲で他の作業をしている作業者は作業状況が分からないので、万一落下等があった場合に危険回避行動の遅れが危惧された。**

### 取り組んだプロジェクト内容



作業場所に拡声スピーカーを設置し、**重機オペレーターと合図者の会話が拡声スピーカーを通して作業場全体に放送され、現場にいる誰もが作業の状況をリアルタイムで把握できるようにした。**



### やってみての効果

**作業場所付近で他の作業をしている作業者にも危険作業の情報が常に聞こえているので安心して作業が出来るようになった。**

### 今後の目標や展望

**今後も安全を具現化した取り組みを推進していきます。**



## 機械設備の改良で高所からの転落防止 (既成概念からの発想の転換)

事業者名：寿建設株式会社  
業界・業種：建設業  
従業員規模：96人  
地域：東北/福島県

### 背景 (課題・ニーズ)

トンネル工事のコンクリート積替え作業時に、アジテーター(生コンクリートを攪拌する機械)の上部に上がる必要があり、転落防止用のセーフティブロックは毎回使用していたが、根本的な改善対策は無いか検討していた。

### 取り組んだプロジェクト内容



側面に「折りたたみ式足場」を作成し設置した。



### やってみての効果

アジテーターに昇らずに、本体の側面から作業が出来るようになったので、転落リスクは解消された。

### 今後の目標や展望

今後も「昔から当たり前」に疑問を持って改善していきます。

【安全な職場づくり部門】



# 熱中症を予防するための見える化 ～作業環境の把握と改善～

事業者名：設楽ダム5号橋作業所  
業界・業種：建設業  
従業員規模：40名  
地域：中部/愛知県

## 背景（課題・ニーズ）

昨今の異常気象により、作業場所の外気温は連日30℃以上であり、建設業にとっては**熱中症をいかに防ぐかが毎夏の課題**である。本工事は橋脚高さが非常に高い(70m)橋梁上部工事である。作業場所から地上に設置した休憩所までは10分程度の時間を有すること、技能実習生も多いことから、「誰でも、すぐに休憩できる設備」を整備することが熱中症を防ぐためには重要と考える。

## 取り組んだプロジェクト内容

### ①作業環境の把握と周知



作業場所のWBGT値を常時測定するとともに、**31℃を超える場合は、自動メール配信により環境を把握。**その後、ネットワークスピーカーにて作業員に直接休憩の指示をし、ネットワークカメラで休憩の実施状況を確認。



### ②誰でも休憩できる設備



誰もが気軽に休憩できるように、**ベンチ、スポットクーラー、扇風機、ウォーターサーバー、熱中飴等を常備し、誰もが気軽に水分・塩分補給、休憩ができるよう**に作業環境を整備。



## やってみての効果

今夏のWBGT値の測定結果 (R6.6～R6.9) は以下の通り。  
WBGT値**28℃以上**・・・**65日**  
(65日/122日 = **53%**)  
WBGT値**31℃以上**・・・**18日**  
(18日/122日 = **15%**)

作業環境を確実に把握し、必要なタイミングで休憩を促し、水分・塩分補給等、休憩の状況を確認することで、**熱中症の発生ゼロを達成**できた。

## 今後の目標や展望

今夏の熱中症の発生ゼロは達成できたが、来夏も同じ現場で迎える。熱中症に限らず、「**状況に応じた最適な安全対策を考案→実施→確認→改善**」し、**全工期内の無事故・無災害を達成**する。



## ゼロ災の日

事業者名：東野建設工業株式会社  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約40名  
 地域：岩手県、宮城県

### 背景（課題・ニーズ）

建設業における安全は、何よりも優先されるものだからこそ、その取り組みには天井がない。それ故に、取り組み自体が停滞し、単調になってしまう。そこで安全意識向上のため、月に一回、全社員が集う会議の日を「ゼロ災の日」として制定した。この日は各現場が「見える化」の活動を行う。その活動内容は、社内掲示板(インターネット)で、全社員に共有される。

### 取り組んだプロジェクト内容

技術委員会より  
 11/8（金）の現場状況報告において「0災の日・現場のナッジを活用した見える化についての活動」の写真をお願いします。  
 そろそろタイヤ交換のシーズンです。計画的な交換と安全運転の心がけをお願いします。

忘れないように社内掲示板(インターネット)で呼びかけ！！



①手や足を掛ける所に赤マーク表示

②重機の作業半径表示



③ダンプに積載ライン表示

### やってみての効果

「ゼロ災の日」に行く「見える化」活動を全社に共有することで、良い事例を学び、各現場で活かされている。安全な活動が積み重なることで、安全意識が刺激され、安全への取り組みの単調さが取り除かれている。



## 見える化の共有

事業者名：東野建設工業株式会社  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約40名  
 地域：岩手県、宮城県

### 背景（課題・ニーズ）

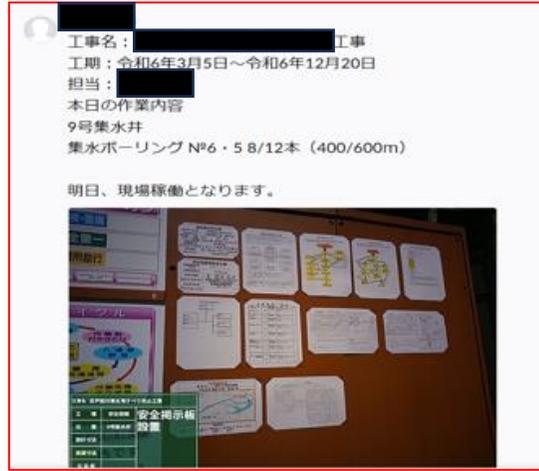
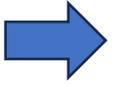
建設業は、「安全第一」のもと現場運営をしている。しかし各現場が離れており、安全に対する取り組みが実施されているかどうか掴みにくい。また、現場同士で良い事例を共有しにくい。そこで、毎週、ある課題に対しての取り組みを、社内掲示板(インターネット)で共有・把握を行っている。なお社内掲示板(インターネット)は、毎日、現場状況報告をする場でもあるので、全社員が欠かさずチェックする環境である。

### 取り組んだプロジェクト内容

〇さんが、会話を開始しました。  
**技術委員会より**  
 今週の金曜は、各現場の安全掲示板の状況写真を共有してください。

各現場に対して、「お題」を提示。

今回は安全掲示板！不備がないか全社で確認！



### やってみての効果

お題(課題に対しての取り組み)は、現場の他にも現場事務所や車両に至るまでの5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)に関わるものから、現場の安全に関わるものまで。全社員の目に入るので、安全意識の向上につながった。



東北ターボ工業

## 社員が安心して働ける職場づくり

事業者名：株式会社東北ターボ工業  
 業界・業種：建設業・産廃処理  
 従業員規模：80名  
 地域：東北/岩手県

### 1. 背景

災害・事故防止、安全運転の向上、現場の意識向上と作業品質の向上、社員の健康促進のため

### 2. 取組内容

安全衛生委員会を毎月1回開催し、災害・事事故事例を共有し、再発防止を図っている  
 現場での事故を防ぐためにVR災害体感装置を導入し、社内で教育を実施 また、取引先にもVR装置を使用してもらい、安全意識向上に努めていく  
 全ての社有車にドライブレコーダーを搭載し、スピード超過やアルコールチェック未実施などを確認し、道路交通法の順守に努めている  
 社員が受診する健康診断だけでなく、必要なオプションを会社負担で実施し、管理職は人間ドックを受診し、健康管理の促進を行っている  
 自社のアスベスト対策工事の施工担当者と、取引先にも参加を募り、防塵マスクの正しい使い方講習を行い、安全意識の向上に努めている

### 3. 効果

全社員の安全意識、法令順守、健康管理の意識が高まった





背景 (課題・ニーズ)

# 安全なインフラ整備を追求

事業者名 : 大有建設株式会社  
 業界・業種 : 建設業・製造業  
 従業員規模 : 400人  
 地域 : 全国

当社は主に道路工事を請け負う施工業者であり、作業に合わせた下請業者を取り纏め、施工体制を編制し全国で施工管理を行っている。昨今の時代の変遷による新しい法規制の制定や、既存の法規制の更新に企業としても素早く柔軟に対応することが求められている。それに加え、道路工事特有の作業環境の狭さや昼間・夜間施工といった環境下において、労働者を守る為の安全管理が施工管理者として最優先業務となる。

取り組んだプロジェクト内容

労働安全衛生規則の一部改正に対応



推奨される3点支持の手すり付き昇降設備の現場配置

最新技術の活用



下請業者を集めた、自社講師によるテールゲートリフター係の特別教育開催



ICT技術を活用した道路規制を伴わない3D測量業務

頻発事故への対策



道路上の1車線内作業で発生する置き事故対策としてコードレス機材の使用

夜間現場への適応



重機と人の分離が見える化し、夜間施工を逆手に取った安全管理

やってみての効果

法規制の制定・更新に対して、当社及び下請業者と一丸となって対応し、最新技術を活用することで、様々な作業環境にも適応が可能となった。その結果、公衆災害を含んだ労働災害は発生せず、現場に携わる全ての人とその家族へも安全と安心を提供できた。

今後の課題

「いま」という現在は未来への通過点であり、無事故・無災害は終わりの無い長期的目標となる。それ故、施工管理者として、企業として常に新しい課題の収集に努め、その対応・対策を熟考し、当社を取り巻く全てと共にゼロ災を継続していくことが必要である。



# 高速道路の規制内の安全確保

～第3者から作業員を守るために～

事業者名：大有建設株式会社  
 社 界・業種：建設業・製造業  
 従業員規模：400人  
 地 域：愛知他

## 背景（課題・ニーズ）

本工事では高速道路の舗装補修工事を行いました。供用車線を通過する一般車両は時速70km/h以上で走行するため規制内への誤進入や規制突入事故は被害が大きな事故につながります。

そこで、**第3者への注意喚起**と**作業員への周知方法**について対策を行い、事故防止の取り組みに努めてきました。

## 取り組んだプロジェクト内容



LEDテープライトによる  
施工箇所の視認性確保



規制テープ一部にオリジナルバルーンの設定  
車線規制材の視認性確保



施工機械の直近で出入りを  
周知する看板の設置



緊急時は監視員が誘導棒の緊急ボタンを  
押すと全誘導員に警報が鳴り、  
作業員に伝えるようになっている

## やってみての効果

第3者からの視認性を確保することで注意喚起に繋がり施工箇所付近では走行速度を落としてくれる車両などもあり、リスクの低減ができた。また、同時に作業箇所の照度の確保もでき、夜間作業時のリスク低減にもつながった。緊急時ボタン等の緊急対策は実際には使用する機会はなかったが、朝礼時などで定期的に緊急時の対応を周知することで安全意識の向上が図れたと感じている。



## ～安全な作業環境の確保～

### 安全対策の「多重化」によりヒューマンエラー防止を図る

事業者名：大有建設株式会社  
 業界・業種：建設業・製造業  
 従業員規模：400人  
 地域：愛知他

## 1. 重機の稼働範囲内における作業者の接触・挟まれ事故防止の為、立入禁止措置と緊急停止装置の2重対策を設け、事故防止効果の向上を図った

【背景】

建設機械が作業をしている周辺においては、機械操作者からの**死角**や**急な方向転換(旋回)**があり**危ない!!**。建設業に従事する者でなくともわかりそうなことであり、このことを全く知らずに建設現場に従事している者はほとんどいないだろう、しかしながら重機が稼働している範囲内での**接触事故**や**挟まれ事故**は**毎年のように発生**している。

なぜだろうと考えると、その要因の一つには**ヒューマンエラー**によるものがある。

『**考え事**をしていた、**作業範囲内だと気づかなかった**、**重機からは十分離れているつもりだった**』などの原因を作り出す要素は《**忙しさ**や**経験不足**、**目測誤り**》などがあり、複数の人間が作業する以上、全てを取り除くというのは難しいと言える。

では、ヒューマンエラーによる事故は防ぐことができないのか？そんなことは無い、人間が間違えてしまう部分、気づけない部分は**機械的に補ってあげれば良い**、そう考え、本対策の導入に至った。

## 2. 実施写真



対策① 作業範囲内への立入禁止措置  
 作業箇所を物理的に封鎖することで気づかず立入ってしまう**ヒューマンエラー**を防止



対策② 緊急停止装置付建設機械の活用  
 作業半径内に写真タグを携帯した作業員が侵入すると機械が検知、自動的に操作を停止する為、目測不足による機械離隔不足の**ヒューマンエラー**を防止

## 3. やってみての効果

建設機械と作業員の接触に関わるヒヤリハット報告が、導入前と比べ圧倒的に減っており、ヒューマンエラーによる事故発生リスク低減効果があると感じている



## 建設機械による労働災害をなくすために 私たちに何ができるか

事業者名：大有建設株式会社  
業界・業種：建設業・製造業  
従業員規模：400人  
地域：愛知県他

### 1. 建設機械による災害を防ぐため、死角の多い大型建設機械について作業員接近監視装置を使用し、機械と作業員のはさまれ・巻込まれ事故防止の向上を図った

#### 背景【課題・ニーズ】

建設機械の事故発生状況として上位に来るのが、はさまれ・巻込まれ事故である。左記の事故が発生してしまうと怪我では済まないことが多く被災者の未来を奪ってしまうことが多くなる傾向がある。事故発生の原因として考えられるのは慣れからくる油断、工事進捗による焦りが要因として挙げられる。作業員・オペレータも一人の人間であるため、すべてを完璧に安全対策をするのは不可能であるため、AI機能等の技術を用いて人間では配慮しきれない部分を補ってもらい、重大事故を防止するため下記の対策を行った。

### 2. 建設機械事故防止対策実施写真

#### 重機取付型セーフティカメラシステム使用

作業員の接近をAI機能による映像とアラート音で注意喚起を行う



#### 作業員接近感知装置使用

ICタグを所持した作業員の接近をアラート音・警告灯で注意喚起を行う



### 3. やってみたいの効果

今回対策を実施し、約4か月間の大型建設機械を用いての工事を行っていたが、無事故・無災害で工事を終わることが出来た。オペレータにも感想を聞いてみたが特にAI感知による映像確認は非常にわかりやすく好評であった。



安全と健康と両方をもって、  
安心・快適な職場環境づくりに貢献する  
大有建設株式会社

## ～安全な現場環境の構築～

現場内の**接触事故に繋がる事項**を**見える化**して安全を守る！

事業者名 : 大有建設株式会社  
 業界・業種 : 建設業・製造業  
 従業員規模 : 400人  
 地域 : 愛知他

### 1. 安全装置機器を活用して、機械と作業員の接触事故防止を図る

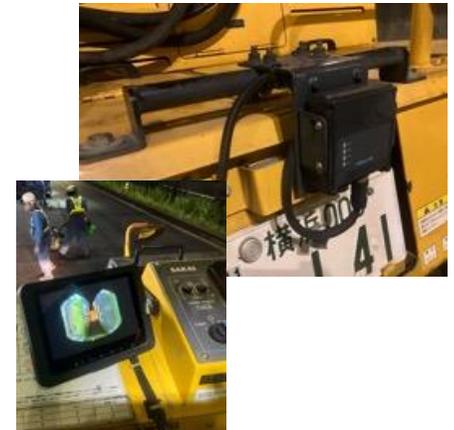
昨今現場では**外国人労働者**も増えているため、**視覚化**することで言葉の壁を越えて事故を防ぐ

1. 機械の作業範囲を**見える化**して、注意喚起を図る
2. オペレータが目視確認できない死角を、**映像化**と**音響化**により無くす

#### 機械稼働範囲の見える化



#### 死角の見える化・



### 2. やってみたいの成果

稼働範囲の見える化により、重機と人との接触範囲への立ち入り機会が少なくなった

### 2. やってみたいの成果

新技術の安全機器を情報収集をしどんどん取り入れ「ゼロ災」活動を継続していきます



# 藤原工業の『たてもの』づくり 基礎は『安全な身体』づくり

事業者名：藤原工業株式会社  
業界・業種：建築設備業  
従業員規模：28人  
地域：三重県四日市市

## 背景（課題・ニーズ）

当社では、現場においてヒヤリハット事例を収集し蓄積しているが、昨年は「不注意やうっかり」「睡眠不足によるストレス」といったメンタルヘルスを含めた不注意災害についてのものが多くあった。また、自分の健康状態を客観的に知る機会がなかなかないという背景があり、安全管理の第一歩は健康管理からということを理解しているが実践するハードルが高いという課題があった。また、当社の従業員だけでなく協力会社も巻き込んだ取り組みが必要だという意見があがった。

肌年齢・血圧・腹囲  
ストレスチェック測定会実施

自分の睡眠時間や心身の健康について  
見つめなおす講義を受講

現場の安全管理  
を強化



## プロジェクト内容とその効果

当社の協力会社を含めて約130名が参加する安全大会にて、ストレスチェック装置・肌年齢計測器・血圧計やメタボメジャーを使って、一人ひとりの数値を測定する機会を設けた。楽しみながらお互いにヘルスチェックすることによって、普段の健康習慣を共有しながら交流を深めるだけでなく「どんな時にミスをしやすいか」「メンタルが安全管理に与える影響」などについて、協力会社の職人なども含めてコミュニケーションをとることができた。また、このヘルスチェックをきっかけにお互いの健康について気遣いあい・声を掛け合いながら仕事を進めるだけでなく、乳酸菌飲料のヤクルトを飲んで睡眠の質を高めるなどの健康意識を高めることができた。「安全をすべてに優先する」という当社方針のなかで、心身の健康は安全への第一歩であるという考えに基づき、今後も楽しく「安全な身体づくり」をしながら「安全なたてものづくり」をしていきたいと考えている。

## 5. 製造業、建設業、運輸業等×エイジフレンドリー部門



ゴールド賞

TOSHIBA

# 『転ばぬ先の改善マップ』 繋がる 広がる エイジフレンドリー

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
社会システム事業部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約2,000人  
地域：全国（東北）

**・背景（課題・ニーズ）** 機器の更新工事では、建屋内外の経年劣化があるため、躓きや転倒へのリスクが散見される。現場では作業員や維持管理者に**高齢者が含まれており**、安全な工事を進めるために**“着手前のリスクの解消”がプライオリティが高い**と考えた。

**・取り組んだプロジェクト内容** 着手前にリスク箇所を撮影し**「転ばぬ先の改善マップ」**を作成して改善活動を**協力会社4社と**共に推進した。改善の方向や内容は、工事中の安全に加えて、**完成後の維持管理上の安全も考慮**した。活動中に**「視認性の向上」や「維持管理作業の容易性追求」「腰への負担を軽減」**などの対策へと**展開が拡大**した。

**“転ばぬ先の改善”マップ** **改善活動完了**

**(1) 躓き転倒防止**  
・床板の剥離を貼付補修  
・現場前道路や通路の「苔」を清掃

**(2) 照度の確保**  
・器具や窓の清掃

**(4) 維持管理作業の容易性追求**  
・注油ホースの「収納ケース」を考案  
・付属品を「絵姿」納品

**(3) 視認性の向上と接触時の衝撃緩和**  
・高輝度反射テープの活用  
・クッション材の活用

**(5) 腰への負担を軽減**  
・「直置き」を削減

**・やってみての効果**  
(1) 「“転ばぬ先の改善”マップ」は、**改善時期や活動方向、進捗が明確**であり、関係者が**容易に一体となって**、リスクの解消を完了した。副次効果として同時進行している**複数の他現場でもノウハウを共有**し、盤内の白熱電球をLED電球に変更し照度を上げるなど**輪が広がった**。

(2) 現場前の道路は、隣接する**保育園の園児や地域の方々**の散歩ルートにもなっており**「苔の清掃」に『躓き無く歩行できる』と感謝**された。

**・今後の目標や展望**  
「視力・脚力の低下」「腰痛防止」に**エイジング対策を可視化**して**協力会社と英知を出し合い安全な現場を創造**する。

東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部

## ポイント

シニア労働者に多い転倒災害の防止のため、作業に入る前の予防的な環境改善を徹底している取組です。<sup>114</sup>



## 無人搬送車やからくり改善による 重筋作業レス取組みで 誰でも働ける職場づくり

事業者名：ダイキン工業株式会社 堺製作所  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約2,200人  
地域：関西/大阪

### 背景（課題・ニーズ）

当事業場では、近年 高齢の方や女性の従業員の方が増えており、また2024年4月より、全社での定年延長（65歳引き上げ）に伴い、今後も従業員の高齢化が予想されます。生産ラインで年齢・性別に関係なく、働く全ての従業員が「安全に、正確に、楽に」作業ができる環境づくりを実現するため、重労働を無くし、更に良くする観点で「腰の曲げ伸ばしの繰り返し・持ちにくい」など、些細なことでも良くしていこうといった改善文化で、女性や高齢の方にも優しい職場であり、結果的に誰もが働きやすい職場づくりに努めています。（ベテラン層の活躍、女性活躍推進にも寄与）

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 事例①：無人搬送車(AGV)導入による重筋作業レス

<Before>



作業者が熱交換器（5kg）を手で持上げてコンベアへ投入。

<After>



AGVで運ばれた熱交換器をジップチェーンアクチュエータで押し出し、自動でコンベアへ投入。

#### 事例②：からくりを用いた重筋作業レス

<Before>

バグフィルターを両手で抱えて階段を昇降していた。



困りごと手がふさがった状態で階段を昇降していた  
非常にリスクが高い（リスクレベル高）

<After>

ワイヤーでバグフィルターを昇降させる機構を考案し、新規導入した。



ワイヤーでバグフィルターを昇降させる機構の導入による  
階段の昇降レス化（リスクレベル低）

#### 事例③：空気圧を用いた重筋作業レス

ス<Before>



排出・投入作業において腰痛のリスク大

<After>



バキュームにて吸引

### やってみての効果

人で行っていた作業の一部を電動化・簡易化（ロボット・設備・コンベア等）に置き換え、知恵と工夫を出し合い、低コストでスピードある改善（全て内作）を実行することで、作業員からは「楽に安全に作業ができる」と実感の声が多い。

### 今後の展望

重筋作業改善をきっかけにして、年齢・性別にかかわらず「誰もが安全に、正確に、楽に」働ける職場づくりを目指す。

### ポイント

シニア労働者が安全に働くことができるよう、「からくり」など工夫を凝らした様々な方法によって作業環境を改善する取組です。

# 「みんなで参加しよう体力測定会」

～運動不足の解消・運動の習慣化でエイジフレンドリーな職場づくりとゼロ災へ～

事業者名：花王(株) 川崎工場  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約300名  
地域：関東/神奈川県

## 背景 (課題・ニーズ)

## 楽しく+簡単に+自分自身で体力測定

【背景】当事業所の健康課題は**全社員の生活型災害予防(ゼロ災害)の維持・強化**であり、**BMI25以上率の改善、ほとんど運動しない率の改善**を目指し、**若いうちから運動を習慣化**することに着目した。以前から健康相談室より健康づくりイベント(運動教室・体力測定)を提供してきたが、興味のある社員だけが参加する傾向にあった。本来、全社員自らが体力を把握し、**若いうちから健康改善意識**を高め、健康を維持・増進し働けることが大切であり(**社員のヘルスリテラシー向上**)、**全職場の安全衛生委員・環境安全グループ・人事総務グループ・健康相談室(産業医・看護職)**の4者で連携・協働し健康課題改善、ゼロ災達成に向けて取り組み始めた。**4者の協力体制が当事業所の強みである。**

## 取り組んだプロジェクト内容



<特に意識した点>  
**各職場の安全衛生委員を中心に実施**  
**楽しく+簡単に+自分自身で測定**  
 ●交替勤務者が約100名(全体の1/3)の事業所であり健康づくりイベントに参加しづらい状況だが、**各職場の安全衛生委員からも働きかけ全員参加目標として実施。**  
 ●各職場の安全衛生委員へ順番に体力測定機器セット(おかえりブロックで作った台)を貸し出し**夜勤時でも実施しやすい環境を整備・提供**  
 ●**簡単・短時間かつ効果がわかりやすい6項目で体力測定を実施(所要時間10分程度)し、毎年継続していく。**

①安全衛生委員への説明会  
 ●産業医から(4月)安全衛生委員会にて講話「安全衛生委員会及び安全衛生委員の役割」  
 ●体力測定会事前勉強会(6月)中心となる安全衛生委員への教育および意見交換・「体力測定会の目的」「災害対策の必要性」

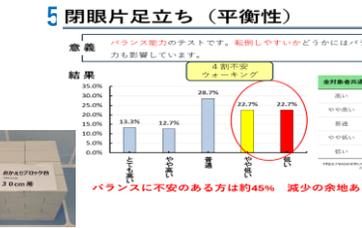
②第1回体力測定会  
 ●職場上司への協力要請(6月)  
 ●おかえりブロックで台を作成  
 ●体力測定機器セットを巡回  
 ●第1回体力測定会実施(7/18~8/20)  
 ・女性が参加しやすいよう**女性の会(かわさきハミングルーム)**で測定会を実施。  
 ・測定結果は**FORMS回答**  
 ・和気あいあいとした雰囲気  
**職場のコミュニケーション向上**

③測定結果返却と結果報告及び各自で個別運動の実施  
 ●各個人へ結果返却  
**安全衛生委員から返却(9月)**  
 ●安全衛生委員会で結果報告の実施(10月)  
 ・参加者**第1回体力測定会150名**  
 うち交替参加者：**49名**  
 ●分析結果  
 ・**転倒リスク：45%**  
 ・**腰の違和感あり：5**  
**閉眼片足立ち(平衡性)**

④第2回体力測定会の実施及び効果検証  
 ●参加率が少ない職場を**優先職場**として体力測定機器セットを貸し出し安全衛生委員に周知職場上司にも協力要請(10月、11月)  
 ●第2回体力測定会開始(11/18~12/20)  
 ・前回との結果比較表を作成  
 ・2回実施の結果報告を分析(2025年1月)  
 次年度も継続実施する改  
 点を検討  
 全員参加に向けた検討  
 ・健診問診結果との突合



※かわさきハミングルームとは月1回、対象者を女性社員に限定して開催。  
 このブロックで台を作りました



【測定項目】①片足立ち上がり②10回座位立ち上がり③座位ステップ④閉眼片足立ち

**効果**  
 安全衛生委員へ実施目的や労災対策の必要性を教育し、4者協力による実施で交替勤務参加者(0人⇒49人)の参加率増加を果たし、また**2025年以降の高さを川崎事業所の課題として浮き彫りにできた。**体力測定会を通じて、約半数の社員に対し運動不足解消と運動習慣化のきっかけとなる機会を提供できた。対面・対話の場にもなり、職場内コミュニケーションの良い機会にもなった。

おかえりブロックとは、詰め替え用パックの再利用で作られたブロックです



## ポイント

働く方の転倒や腰痛の予防のため、社内の関係組織が連携して、各自が体力チェック等に意欲的に対策に取り組めるような環境づくりを進めています



## 全従業員による体力測定の実施 ～健康で快適な職場づくりの推進と 一人ひとりの健康増進にむけた取り組み～

事業者名：ダイキン工業株式会社 堺製作所  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約2,200人  
地域：関西/大阪

### 背景（課題・ニーズ）

当事業場では、近年 従業員の高年齢層が増加傾向（40歳以上54%）にあり、また2024年4月より、全社での定年延長（65歳引き上げ）が実施されました。一方、全国の中高齢者の労災内容は「転倒」が最も多くなっている状況の中、当事業場では、働く全ての従業員が、労働災害を発生させることなく、元気で健康に働き続けられるよう、毎年10月を衛生月間とし、体力測定を実施。自身の体力や運動機能を認識し、今後の体力・健康づくりにつなげていただく機会として、定期で取組んでいます。

### 取り組んだプロジェクト内容

1. 体力測定の実施 [実施期間：10月（1ヶ月）]  
①下肢筋力（30秒座り立ち） ②敏捷性（座位ステップ）  
③バランス力（閉眼片足立ち） ④ロコモ度2STEPテスト（下肢筋力、柔軟性等）
2. 体力測定後の対策メニューの紹介  
①～④各々の強化を図るためのトレーニングメニューを紹介
3. 体力測定結果からの職場単位での健康増進（運動等）に向けた取組み  
例）朝のラジオ体操後の筋力トレーニング、部門ウォーキング活動の実施等



結果からの職場独自取組み

### やってみての効果

毎年定期に実施している測定ではあるが、自身の体力年齢が年相応かどうかの判定結果への関心度は高く、参加者からも運動等の必要性を考える良い機会となっているとの声が多数ある。また運動を習慣化している人の割合が、ここ数年増加しており、事業場全体の健康意識の向上に寄与している。

### 【体力測定実施事例】

①30秒座り立ち

②座位ステップ

③閉眼片足立ち

④ロコモ度2STEPテスト

〈体力測定結果シート〉

年相応かどうかを結果シートで確認

### その他の効果

体力測定を職場単位で実施することで、日常のコミュニケーションUpにも寄与。また職場の測定結果から、各職場では、健康増進に向けた自主的な取組みも展開されている。（PDCAサイクルの確立）



# エイジフレンドリー対象者の体力 チェック簡素化と客観的把握について

事業者名：株式会社 LIXIL 有明工場  
 業界・業種：製造業  
 従業員規模：820名  
 地域：九州/熊本

## 背景（課題・ニーズ）

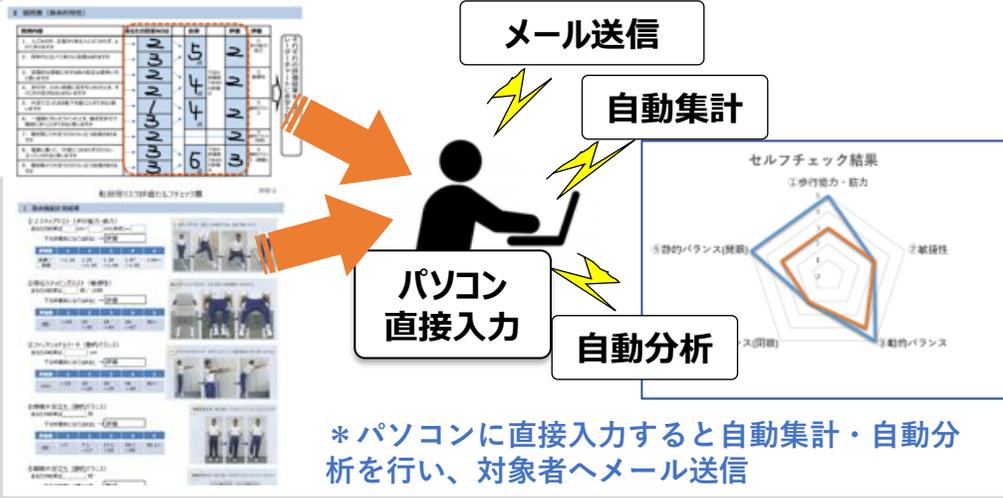
・エイジフレンドリー活動対象者(476名)の体力チェックを継続的に行うため「転倒等リスク評価セルフチェック票」を活用するが、記入時間増と個人の主観によるレーダーチャートのパターンにバラツキが懸念される

## 目的（狙い）

事業所と対象者双方が体力の状況を客観的に把握するとともに、自らの身体機能の維持向上に取り組めるようセルフチェック票記入時間の短縮と測定結果を客観的に分析する必要がある

## 取り組んだプロジェクト内容

「転倒等リスク評価セルフチェック票」への記入時間の短縮と対象者全員の測定結果を客観的に分析するため、**Excelシートにマクロを組みデータ集計の短縮と対象者全員の測定結果を客観的に分析する。**

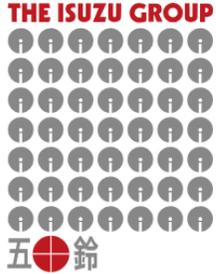


## やってみての効果

・パソコン上で自動集計・自動分析を行うことで、「転倒等リスク評価セルフチェック票」への手書き入力より約10分/人の時間短縮が図れた。**対象者：476名×10分＝79hr削減**  
 ・レーダーチャートのパターンを客観的に自動分析出来たことで、**パターン分析を正確に行うことが出来、どの工程に転倒等リスクが高い従業員が多いかを判断できる。**

## 有明工場 全体の分析結果





## 安全パトロール(声掛け巡回) を活用した段差箇所の改善 【転倒事故撲滅】

事業者名：五十鈴関東株式会社  
太田サービスセンター  
業界・業種：専門商社（鉄鋼販売）  
従業員規模：36名  
地域：関東／群馬県

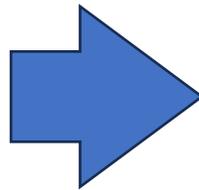
### 背景（課題・ニーズ）

当社では、お客様の要望する鋼板に仕上げる際、切断工程を伴います。工場にある設備には、設置上どうしても作業フロアとの段差が伴うので、転倒事故を防止するためにアイデアを出し合い「ゼロ災」に取り組んでいます。また、少子高齢化や労働人口の減少が進むに当たり雇用の幅も広げていかなければならないという問題意識のもと誰でも働ける職場づくりの推進として以下に取り組みました。

### 取り組んだプロジェクト内容

若手社員・ベテラン社員  
ペア安全パトロール

※それぞれの多様な視点から危険源を発見し改善



階段などは注意喚起  
のための色分け



作業フロアの段差を  
カバーを付けフラット化

躓きリスク0 職場



### やってみての効果

自分たちの職場の改善を自分たちでチェックし安全な職場に近づける改善につなげることで、メンバー達の改善意識が芽生え始め、改善の声、改善実施が増え始めている。



## 発掘現場での高齢者転倒防止対策

事業者名：大畑建設株式会社  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：155名  
 地域：中国/島根

### 背景（課題・ニーズ）

当社の従業員構成は約4割が50歳以上となっており、つまづきによる転倒災害は2人に1人が60歳以上です。発掘現場では、転倒のリスクが高い凹凸、開口部、傾斜がある中で、作業をこなすにはいけない。そこで、高齢者を中心として作業員の転びにくい身体づくりを目指すことにしました！



### 取り組んだプロジェクト内容

①「転倒等リスク評価セルフチェック」を実施！



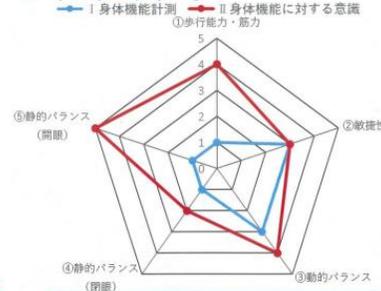
②測定結果を個人にフィードバックし、自身の転倒リスクを知ってもらう



Mさん 女性 68歳

転倒リスクが高い

#### Ⅲ レーダーチャート



#### 身体機能測定結果 < 質問票回答結果

あなたの身体機能（青線）は、自己認識（赤線）よりも低い状態が同くらいにあります。このことから、実際よりも自分の体力を高く評価している傾向にあり、自分で考えている以上にからだは反応していない場合があります。体力の維持向上を図り、自己認識まで体力を向上させる一方、体力等の衰えによる転倒等のリスクがあることを認識してください。日頃から、急な動作を避け、足元や周辺の安全を確認しながら行動するようにしましょう。また、枠の大きさが異なるほど、身体機能と自己認識の差が大きいことを示しており、さらに、青線が小さい場合（特に2以下）はすでに身体機能面で転倒等のリスクが高いことが考えられます。筋力やバランス能力等の向上に努めてください。

### やってみての効果

発掘現場の全員に実施してもらい、結果に基づき転倒リスクがそれぞれの作業員の気づきとなり、**転倒防止の意識を高めることができ、転倒災害を含め労災0件でした。**

高齢者が増加している中、個人も企業も思った以上に身体機能が低下していることに気付いてなく、**「リスクを可視化」する重要な取り組みができました。**

健康的に長く働いて欲しい！

# 「働く大人の体力測定」

で体力レベルを**可視化**！



事業所名：有限会社正木工業  
業界・業種：建設業  
従業員規模：13名  
地域：九州/熊本県

## 背景（課題・ニーズ）

腰痛をはじめ、身体の悩みを抱えながら働く従業員が多く見られました。会社の役員としては、若手社員も高齢社員も「より多くの従業員に長く健康的に働き続けて欲しい」という思いがありました。そこで理学療法士を招き、従業員の現在の健康状態と労働生産性について評価を行い、改善に向けた取り組みを開始しました。

## 取り組んだプロジェクト内容

### 半年に1回の体力測定会



握力(筋力)、長座体前屈(柔軟性)  
片足立ち(バランス能力)など  
全身の体力を評価

### 個別のストレッチ指導



体力測定の結果をもとに、  
ストレッチや運動を指導

### 健康に関わる講習



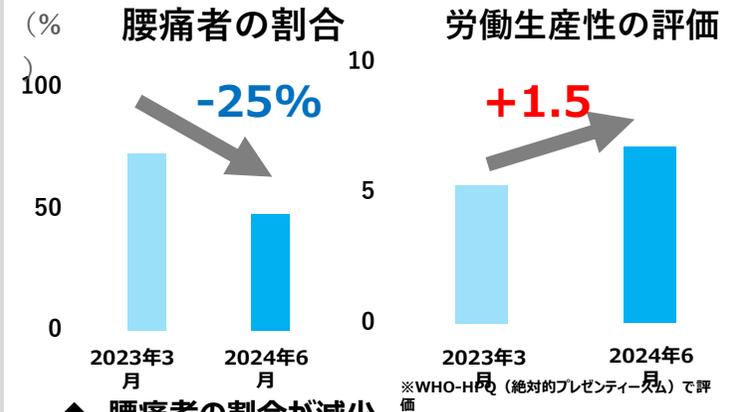
転倒、睡眠、熱中症に  
関する講習



体力優秀者は  
表彰！  
景品も準備！

- ◆ 健康経営アドバイザーの資格を持つ理学療法士と会社役員で月1回の健康経営のミーティング
- ◆ 毎月6名程度、理学療法士によるストレッチや運動指導
- ◆ 体力測定会と同時に健康に関わる講習やアンケートによる生活習慣や労働生産性を評価

## やってみての効果



- ◆ 腰痛者の割合が減少 **-25%**
- ◆ 労働生産性 (プレゼンティーズム) の改善 **+1.5**
- ◆ 従業員から「自分の体力を知ることができて良かった」、「みんなと運動できて楽しかった」と声があり、**満足度の高い取り組み**であった

## 今後の目標

職場環境改善にも取り組み、腰痛者の減少と転倒などの労働災害の予防に努めていく



# 事故0を目指して ～カラダの見える化～

事業者名 : 株式会社西行土木  
 業界・業種 : 建設・トンネル工事  
 従業員規模 : 約60人  
 地域 : 北陸・福井

## 背景（課題・ニーズ）

従業員の高齢化に伴い、体の柔軟性や反応が自覚のないうちに下がり、不意の怪我をするリスクが高まりつつあった。

## 取り組んだプロジェクト内容



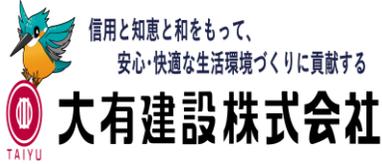
自社内で実施している安全大会に合わせて、柔軟性や反射速度を計測し、従業員各個人のデータを数値化し、自覚するとともに、簡易なトレーニングを紹介し、維持向上につなげるきっかけとしました。

## やってみての効果

安全講和で話を聞くだけでなく、実際にやってみることで、各個人が思っていたよりできなかったや意外にできたなどの感想があり、別の計測もやってみたいというポジティブな意見もあり、意識向上の一助になったと思います。

## 今後の目標や展望

今後も継続して、現場の見える化を進め、無事故無災害の継続を目指します！



## 現道交通規制時の事故防止対策

事業者名：大有建設株式会社  
 業界・業種：建設業  
 従業員規模：約400人  
 地域：東海／愛知県

### 背景（課題・ニーズ）

現道の交通規制を行っていると、もらい事故（突っ込まれ事故）により交通誘導員や作業員の命が奪われることがある。また、交通誘導員や作業員の高齢化（高齢者率 30.1%）が進んでいる為、現場を明るくすることや安全教育等での意識の向上を行っている。

### 取り組んだプロジェクト内容



①現場の照度確保  
 フレキシブル  
 LEDライトを現  
 場に設置し、照度  
 ほ確保した。



①安全意識の向上  
 安全教育訓練にて、事  
 故体験型VRを使用し  
 安全意識の向上を図っ  
 た。

### やってみての効果

現場を明るくすることにより、もらい事故防止に繋がった。安全意識が高まることにより、突っ込まれ時の事故防止対策となった。

## **6. 製造業、建設業、運輸業等 × 企業等間連携部門**



# ミズノとサミットの共同企画シューズ 「小売業向けワーク用スニーカー」



事業者名：ミズノ株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：300名以上  
地域：大阪

## 背景（課題・ニーズ）

第三次産業における転倒労災は社会的課題となっている。「令和4年の労働災害発生状況を公表」（厚生労働省）[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_33256.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_33256.html)  
小売業で転倒事故防止に向けた設備等のハード面での対策は進んでいるが、従業員に向けた対策があまり進んでいない状況であった。スポーツの知見で社会課題の解決を目指すミズノは小売業で働く人の多くが作業用途以外の運動靴等で業務していることに着目。積極的に労災事故防止に取り組む食品スーパーマーケットのサミットと共同企画するに至った。

## 取り組んだプロジェクト内容

複数のサミット店舗にて転倒労災が起きる現場の視察と従業員様へのヒヤリングを重ね、ミズノの持つ「滑り」「躓き」への知見を集めてサンプリング。それをサミット社員が履いて業務を行い、快適性を含めた安全性の評価を実施。約3年間の期間を要して調整を繰り返し、ミズノ初の小売業向けワーク用スニーカー「FREEROAD EU31L/LS II 11L」を完成させた。

## やってみての効果

サミットにて24年6月から200名規模での試験的導入。導入店舗での現在に至るまでの転倒労災は0件。※24年10月現在。従業員様からの評価も高く、サミット以外の第三次産業企業はじめ、様々な企業、行政からの引き合いが増えている。

## 今後の目標と展望

小売業では、制服のようにシューズを指定したり貸与することが少ない。今回の開発を機に、第三次産業における転倒事故を減少させ、従業員がより安全に働ける環境作りに寄与していきたい。また、更なる研究を進め、新たな製品開発を進めて行く。



硬質樹脂先芯を使用していません。(JSAA規格、JIS規格認定の安全靴ではありません)

## ポイント

働く方の転倒災害の防止のため、メーカーサイドとユーザーサイドとで連携し、製品開発から現場への導入に繋げた取組です



シルバー賞



## 働く社会人のための姿勢改善プログラム

## 足圧測定会の実施(連携企業：有限会社マスターピースコンソート)

事業者名:ANAホールディングス株式会社  
 業界・業種:運輸  
 従業員規模:連結従業員数 41,225名  
 (2024年3月31日現在)  
 地域:関東/東京

## 背景(課題・ニーズ)

フロントラインではアフターコロナの生産量回復に伴い、腰痛、転倒等の労災の件数が増加しており、昨年度はこれまでの体操やエクササイズに加えて、「怪我をしにくい身体の動かし方(仕事中の動作における正しい身体の動かし方)」の周知、浸透に取り組んできた。今年度は身体を支える肝となる足の特徴を知ったうえで姿勢を改善し、「怪我をしにくいバランスの良い身体づくり」を目指す取り組みに着手した。

## 取り組んだプロジェクト内容

## 上半期8回に分けて足圧測定会を実施

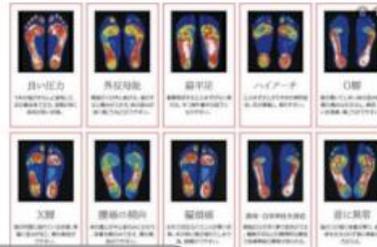
目的：足のバランスを視覚的にわかりやすい画像で解析することで、身体が抱える問題点(膝関節痛、腰痛等)を把握する。現状と改善策を知ることで日々の行動変容に繋げ健康な身体づくりとプレゼンティズムの良化を図った。

## ～専門家からのアドバイス～

◆多くの人は『足』に問題意識を持っていないので、状態が良くない(⇒心身の不調に繋がる)に関わらず、対策を何もやっていないというのが現状  
 ⇒何も対策をしていないので効果が出やすく、改善によって仕事のパフォーマンス向上に繋がるということが示されている

足圧測定会実施  
上半期計8回測定結果共有  
(足指の状態把握)

足圧測定結果から診断できる足のタイプ

専門家より足のセルフケア、  
足の動かし方 等レクチャー

## やってみての効果

健康的な足圧の社員 0名/221名(8回の測定会参加者総計)

足圧測定会の結果やアドバイスをきっかけに、健康への意識や行動の変化があったと回答した参加者78% (回答数156名)  
 社員からの声

- 自分の重心が偏っていること、足の指をしっかり付けて立っていないことがわかり、意識して歩ききっかけになった。
- 思った以上に足圧に差があり驚きました。まずは均等になるように普段から意識づけをしようと思いました。
- 業務中に足の運動や動きを気にするようになった。気にするだけでも疲れ具合が変わってくるため、継続していきたい

参加者全員が足になにかしらの問題を抱えていることが判明  
 (複合型) 25.3% (浮指)36.8%  
 (ローアーチ)28.9% (ハイアーチ)2.9% (偏平足)6.1%

## 今後の目標や展望

「怪我をしにくいバランスの良い身体づくり」を目指しどのような施策が社員に意識変容や行動変容を促し、習慣化に繋がるのかを今後も検討し、実行することでプレゼンティズムの改善を図っていく。

## ポイント

身体機能の測定サービスを働く方に提供することで、転倒や腰痛の予防に繋げる取組です



ブロンズ賞

TOSHIBA

## 大塚製薬株式会社殿による 熱中症対策出前講座の開催

### 【背景(課題・ニーズ)】

近年、建設工事現場において様々な熱中症対策が実施されているのにも関わらず、依然として死傷者発生件数が最も多い業種は建設業である。

当社の各建設工事現場においても、新たな熱中症対策が求められていた。

### 【取り組んだプロジェクト内容】

東芝グループの重要顧客でもある大塚製薬株式会社殿に依頼し、試行として神奈川県内の某公共工事現場にて当社職員および下請け作業員を対象に「熱中症対策出前講座」を開催した。

令和6年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」実施要綱にも記載されており、熱中症対策の新たな手法として認知され始めた「**プレクーリング**」※を中心とした講義内容とした。参加者には修了証代わりに『**ポカリスエットアイスラリー**』を配布し、熱中症対策を学んだ上で実際にプレクーリングを体感することにより、熱中症対策についての理解と実践がより深まるようなきっかけ作りを行なった。

### 【やってみての効果】

参加者へのヒアリングの結果、「プレクーリング」という言葉を初めて聞いた者が多いことが分かった。開催後しばらくの間、「プレクーリング」や「アイスラリー」が開催工事現場内でのホットワードとなり、熱中症対策の一つとして「プレクーリング」が習慣化された。

### 【今後の目標や展望】

現場規模に合わせた開催方法等を協議の上、開催工事現場の数を増やしていきたい。

※**プレクーリング**:あらかじめ作業前に一時的に深部体温を下げておく概念

東芝インフラシステムズ株式会社 社会システム事業部

事業者名：東芝インフラシステムズ（株）  
社会システム事業部  
業界・業種：建設業  
従業員規模：約2,000人  
地域：全国（関東）



## ポイント

熱中症予防のため、専門知識を有する企業から直接、現場で働く方へ、効果的な対策について講義等を行っている取組です



## ～エイジフレンドリーな職場環境に向かって～ METS・やまと監修 転倒防止や腰痛予防のための運動指導講座

事業者名：サカネテクノ株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：約200人  
地域：中国／広島

### 背景（課題・ニーズ）

弊社ではこの度、**健康経営優良法人2025(中小規模法人部門)**の申請をいたしました。60歳以上の社員数がかが社員全体の3割を超える現状があり、健康経営はもとより、重要な働き手であるシニア層(高度な能力・技能を持った方)には特に元気で長く勤めてもらい、これからも後進への継承を行っていただかなければなりません。

### 取り組んだプロジェクト内容

サカネテクノでは50年以上毎日ラジオ体操を続けてきました。2024年度より主に腰痛を持った方、60歳以上の方を対象に弊社の産業医でもありますMETSやまと様監修の「**転倒防止や腰痛予防のための運動指導講座**」の取組みを開始しました。若い方に比べ筋力や敏捷性などの運動能力や視力・聴力の低下、また高血圧や糖尿病などの病気を持つ割合も高くなってきております。まずは体力測定や体組成・姿勢チェック等を行って今の数値を直視してもらい、健康運動指導士や管理栄養士の方々によるセミナーやパーソナル指導を経て、自身の身体の状態を再確認してもらおう機会になればと全5回のプログラムを設定しました。

### やってみての効果

まずは毎回社員同士でワイワイ楽しくプログラムを行えた事が一番。健康への意識向上と自己管理の重要性が周りの社員と比較しながらも実施できたと思います。また我々の業界・業種では転倒や腰痛に関しては、毎年多くの方々が発働災害事故として報告されている事が多く、様々な事例が発生しております。この転倒防止や腰痛予防講座を取組んだ事によって安全衛生を社内に周知徹底する良い機会となりました。

体力・バランス測定

体組成測定(初回)  
姿勢チェック

転倒防止や腰痛予防の  
ためのセミナー(実技あり)

パーソナル指導  
(特に高リスク対象者)

体組成測定(最終)  
全体指導(総括)





## 地域コラボによる 腰痛・転倒防止対策活動

※邑楽町役場地域包括支援センター、羽生総合病院との連携

事業者名：株式会社 フコク  
業界・業種：製造  
従業員規模：1,150  
地域：関東

### 背景（課題・ニーズ）

当社での直近の労働災害は腰痛や転倒による災害が目立っていました。腰痛においては対策が難しくクレーンによる重量物の運搬を検討しましたがクレーン設置に課題がありました。他にも重量物アシストスーツや腰部保護ベルト等を購入しましたが馴染むことが出来ません。また、自分たちで「腰痛・成人病予防」の啓蒙を行っても聞いている従業員は関心を持たないことから第3者の力を頂きたいと申し出て邑楽町役場地域包括支援センター、羽生総合病院の協力を得て健康講話と健康運動の指導を受けました。

### 取り組んだプロジェクト内容

自分たちで今まで行ってきた健康指導がうまく浸透しなかったところ昨年3月のSAFEコンソーシアムシンポジウムを視聴し専門の方に運動の指導を受けている事例を視て、これを参考に町役場の地域包括支援センターに伺って「腰痛・成人病予防」対策の目的を説明し、地域包括支援センターのプログラム「かんたん体操」「成人病予防講話」を社内でも実施していただきました。まずは安全衛生委員会にてデモンストレーションを行い審議した後に60歳以上の方を対象に指導を行いました。

これを機に関東にある工場の邑楽町役場地域包括支援センターや羽生総合病院にも相談して同様の内容で指導を受けました。

総合病院では指導プログラムが豊富にそろっているので女性を対象とした骨粗しょう症等の指導も受けることが出来ました。今後もリクエストのあるプログラムの指導を行って行きます。



### やってみての効果

自分たちでやれることに限界があり専門の方に協力を得ることで目標を達成することが出来たことで地域の方への協力でこれからの安全衛生活動に期待を持つことが出来た。

### 今後の目標や展望

定期的に地域コラボとして健康講話や健康体操を継続する。また役所とまちぐるみ健康会議座談会を発足することが出来たので工業団地の方々と情報交換を通して安全衛生活動を活発化する。

建設現場の環境改善と安全に貢献するボディメンテナンス施設  
**健水院** produced by ダイヤ工業(株)

事業者名 : 株式会社竹中工務店  
 業界・業種 : 建設業  
 従業員規模 : 約8000人  
 地域 : 大阪府

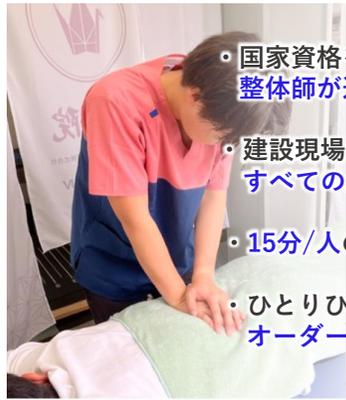
**背景 (課題・ニーズ)**

建設業における**若手就労者の減少**が問題視されており、建設現場のきついイメージや怪我の絶えない現状が大きな理由として考えられる。その改善のために、建設作業員にとって魅力的な作業所環境を構築することや、怪我や事故のリスク低減に努める必要がある。そこで「建設現場向けアシストスーツ」の共同開発先であるダイヤ工業(株)と協業し、**建設作業員の体調の改善、モチベーション向上及び怪我のリスク低減に寄与する取り組み**の包括的な実施により改善を目指した。

**取り組んだプロジェクト内容 : 2024年5月～6月実施**

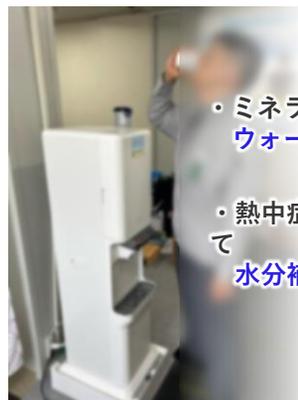
建設現場内に「**健水院**」というボディメンテナンス施設を設置し、その効果検証を実施した。  
 「健水院」という名前は、「**みずから (水から・自ら) 健康を**」というテーマに基づいて名付けられた。

**① 整体スペースの設置**



- 国家資格を有する**整体師が週2日常駐 (8時間/日)**
- 建設現場ではたらく**すべての人が利用可能**
- **15分/人の施術**
- ひとりひとりに合わせた**オーダーメイドの施術**

**② 熱中症対策**



- ミネラルウォーターの**ウォーターサーバーの設置**
- 熱中症対策の一環として**水分補給の促進**

**③ 身体能力の可視化**

施術後に7項目の体力測定

転倒リスクを算出



**やってみての効果**

- 実証を行った建設現場の**熱中症災害・転倒災害がともにゼロ**であった
- 複数回の施術により**転倒リスクが低減する傾向**がみられた

**今後の展望**

- 当ボディメンテナンス施設を当社又は当社以外の建設現場にも展開
- 建設現場における**ボディメンテナンスの効果検証**を推進

## 素材梱包の変更による取り組み 素材購入業者中山商工(株)様 企業等間連携

事業者名：日東精密工業株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：109人  
地域：関東/埼玉

協力：中山商工株式会社様  
関東/東京

### 経緯（課題・ニーズ）

弊社内で素材寸法『φ100×1200L』重量80Kgの材料を素材置場へ移動する際、作業員2名で人力での作業を行い1名が腰痛を発症した。重量物はリフトを使用し、スリングを掛けることになっていたが素材梱包荷姿の状態ではスリングを掛けられなかった。

### 取り組んだプロジェクト内容

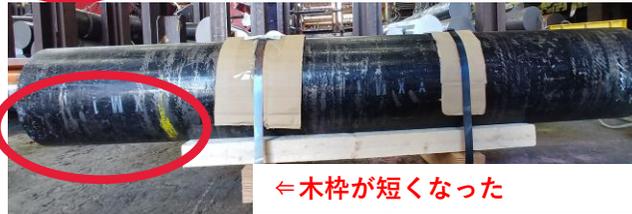


←木枠が長い

#### 写真①

(Before)

木枠が長い為スリングを素材のみに掛ける事が出来ず、吊るせない状態。



←木枠が短くなった

#### 写真②

(After)

木枠を短くしたことでスリングを掛ける事が出来、吊るせるようになった。



#### 写真③ (After)

人力ではなくリフトを使用し移動出来るようになった。



### 改善効果

中山商工(株)様(素材購入業者)から送付された素材が素材のみをリフトで吊るすことが出来ない為「良い方法はありませんか」と問い合わせをし、双方にて検討・意見交換をした末、木枠を短くすることに至った。

写真①改善前の状態(Before)→写真②改善後の状態(After)に素材梱包の状態を変更した。写真①から写真②へ変更したことにより写真③のようにスリングを掛けることが簡単にできるようになったことで、人力での持ち運び移動が無くなり、腰痛防止に繋がった。この意見交換の期間は1週間で実践対応できた。

### 今後の目標・展望

今後も危険箇所や危険な作業等での労働災害を未然に防げるよう、全社員の労働災害への意識を高め、安全な職場づくりに努めます！！  
目指せ0災！！



# 労働災害防止の取組み

～SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み構築～

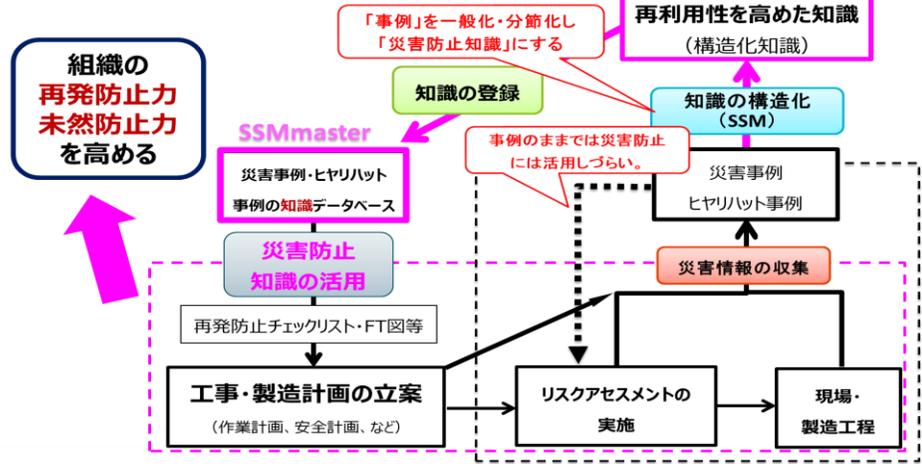
事業者名：栗田工業株式会社  
 業界・業種：建設業（水処理装置/薬品）  
 従業員規模：約8,000人（連結）  
 地域：東京都

## 背景（課題・ニーズ）

当社における労働災害発生件数が年々増加しており、労働災害防止が急務である。労働災害の中でも特に再発災害（過去に発生した労働災害と災害の型、危険源、発生要因の全てが一致）が60%を占めており、再発災害の防止が必要である。そこで、SSM（Stress Strength Model）を考案された株式会社構造化知識研究所様に連携・監修して頂き、「SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み」を構築した。  
 ※SSMとは労働災害・事故・品質トラブルなどの発生メカニズムを知識構造（作業/機器・事象・ストレス要因（発生条件）・ストレングス要因（業務計画要因））に基づいて一般化・体系化し、対策知識と共にリスクアセスメント等の業務に再利用し、再発防止・未然防止に繋げる手法である。

## 取り組んだプロジェクト内容①

### SSMの考え方を取り入れた安全管理の仕組み構築



- ①過去災害の情報を危険事象・危険源発生・不安全行動の事象ごとに切り出して（分節化）、各事象メカニズムを再利用する作業を一般化して知識ベースに登録する。一般化・分節化することで、他部門への事例展開が可能となる。
- ②計画の作業ごとに知識ベースから「過去災害から学んだ教訓（災害防止知識）」を抽出し、リスクアセスメント（又はKY）や安全教育などに活用する。

## 取り組んだプロジェクト内容②

### ①リスクアセスメントへの活用

SSMmasterから検索した結果のスクリーンショットと、現場のリスクアセスメントシート。検索結果から危険リスクとして踏み台を抽出し、現場のリスクアセスメントシートに反映させています。

### ②安全教育への活用

災害事例と災害防止知識を周知するための現場での活用状況。

## やってみての効果



再発災害が60%→0%に低減！

## 今後の目標や展望

再発率は低減できたが、労働災害発生件数自体は削減できていないため、今後は未然防止の観点が必要となる。AIの活用や他社様との連携を行い、「当社でこれまでに経験したことがない労働災害」のデータベースへの登録を進める。

その他



# ウェザーニュースの気象情報を全社導入 ～店舗の防災対策に特化したアプリの開発で安全性を向上～

事業者名：株式会社カインズ  
 業界・業種：小売  
 従業員規模：約26,600人  
 地域：関東/埼玉

## 背景（課題・ニーズ）

- ・気象情報は、Yahoo!やウェザーニュース、NHK等様々なアプリから情報収集をしていた
- ・店舗のピンポイントの位置の気象情報の把握ができなかった

## 目的

- ・ウェザーニュースと連携し、**店舗のピンポイントの気象情報をキャッチし、店舗と本部が同一の情報把握を可能にする**ことで、いち早くアクションにつなげ、浸水被害や発注情報につなげる

## 取り組んだプロジェクト内容

- ・約3年前よりウェザーニュースが検討していた、**店舗のピンポイントの位置の気象情報をキャッチできる**ようなシステムやアプリ開発に携わる
- ・特に**台風など事前に予見可能な自然災害**に対し、同一の情報把握だけでなく、**暴風域や強風域突入時間帯も全店舗で把握**が可能  
⇒**避難行動や営業判断に活用**

・店舗の従業員や来店客の安全対策に特化した「ウェザーニュース for business」の開発のきっかけに。



## やってみての効果

### 【定性的効果】

- ・店舗と本部が同一の気象情報を把握できるようになったことで、事前準備や現場情報のコミュニケーションに活かされるようになった。
- ・**台風接近時に、暴風域突入店舗の営業判断に活用**。店舗メンバーからは、台風接近前に安全を優先した判断が好評

【安全な職場づくり部門】



## フリーランスにも産業医を！

略して  
#ここケア

✨**芸術・芸能従事者の健康活動**✨  
「**こころとからだのヘルスケア**」

事業者名：一般社団法人日本芸能従事者協会  
業界・業種：芸能業界・芸能従事者  
従業員規模：会員数約52,000名  
地域：全国

### 背景とニーズ

当協会の会員である芸能人やスタッフは労働法令に守られない個人事業者がほとんど(94.6%文化庁調査)で、ストレスチェックとは義務化されていません。しかし不安・うつ傾向が強いため(2023年24年過労死防止等対策白書)メンタルヘルスの向上、自殺防止の必要性を強く感じています。芸術・芸能従事者の幅広く多様な働き方に合った相談窓口が必要でした。

### 3種類の相談窓口を設置

#### ①臨床心理士「こころの119」

プライバシーの確保を重視した、誹謗中傷・ハラスメント等に対応するよろず相談



#### ②芸能従事者健康心理相談

相談慣れしていない芸能従事者が、気軽に相談できるオンライン対面式相談窓口



#### ③産業医の相談・視察・研修

医師が踏み込見づらい芸能界の現場を視察。安全対策を指導し労災を減らすよう注意喚起



照明機材やケーブルの多い現場への安全指導

### やってみての効果

制作現場の現場視察では「産業医が来た！」と話題になり、担当した産業医や保健師は質問攻めにありました。日ごろ関心がない人でも安全や健康に関する知識が増えて、労災保険の加入者が増えました。発注者の理解も深まり、保険料を支払う団体も増えました。

### 今後の目標や展望

労務管理をされないため、長時間労働をしがちな状況の改善を目指し「仕事より命」の考えを定着させて「ゼロ労災」を目指します！

【安全な職場づくり部門】



背景（課題・ニーズ）

人工呼吸をしない救急蘇生法の開催  
～救命教育の全社展開～

事業者名：株式会社IHIエスキューブ  
業界・業種：情報・通信業  
従業員規模：約500人  
地域：東京・横浜・他

当社では毎年秋に、若手適応能力向上を目的とし、約70kmを約7時間で自転車走行する「しまなみ海道サイクリング研修」を実施している。本研修により安心・安全に参加するため、また、今後の生活においていざとなった時に対応できることを目的とし、総務グループが主体となり、産業医ならびに保健師監修のもと救命講習を実施した。研修参加者の中から希望を募り、救命講習へは新入社員を含む10名が参加した。

取り組んだ内容

～人工呼吸をしない救急蘇生法～と題し、傷病者発見から呼吸確認、胸骨圧迫およびAEDを用いた救命措置の実技を行なった。

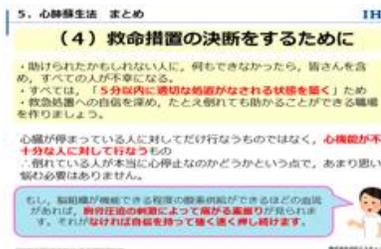
<実技のほか、救命講習において重点を置いて実施したこと>

①救命措置の重要性の周知

「いざとなるときは行動で救える命がある」として、救命措置の重要性を周知した。

②救命措置実施決断の心理的ハードルを下げる

救命措置実施の決断をしやすくするため、胸骨圧迫を実施するときの判断のポイントの説明を行なった。



講習で使用した資料の一部



当日の写真

受講者の声・効果検証

救命講習自体の参加が初めてという方もいて、最初は参加者に「いざという時に対応ができるか」という緊張感が見られた。しかし、動画で流れを説明、産業医および保健師監修のもとで実技を行なったことで、救命措置の要領が分かり参加者の緊張感が緩和したように見受けられた。

当社はデスクワーク主体のため

参加者からは「各事業所で定期的で開催してほしい」との声もあがり、参加者に対し救命措置の重要性について浸透できたと考える。講習内容も有効性も確認でき、今後も引き続き、全社展開を進める。

今後の目標や展望

当社内で全社展開をし、各事業所に傷病者発生時の対応ができる人員を増やす。



お客様に新しい価値ある体験を提供します  
寿精版印刷株式会社

【チーム名】 REX × SAFEコンソーシアム

## 全社員で取り組む 多能工化・多専門化活動！ ～標準化作業を軸とした安全で効率的な教育展開～

事業者名：寿精版印刷株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：496人  
地域：東京・大阪

### 背景（課題・ニーズ）

当社では以前から各部署単位での、**多能工化**に取り組んでいましたが、今後の更なる**生産量増加に対応**し、お客様へ**安定して製品を供給する責任**を果たすべく、改めて全社員で一丸となって、部署・係を超えた**効率的で精度の高い、多能工化・多専門化**に取り組みました。

### 取り組んだプロジェクト内容

#### 多能工化・多専門化教育



ISOの考え方を基準として作成された作業標準をもとに教育実施。Aさんはa工程の担当者であったが、部署間連携での多能工化・多専門化教育により、b工程、c工程の作業も覚え、**複数の工程でメインオペレーターと同じ水準で、安全に作業できるようになった！** 自工程だけでなく、全体の流れを理解することで、相互リスクを認識し、より**安全な環境作り**の促進につながった！

### やってみての効果

#### ● 平均残業時間の削減（疲労による安全リスクの軽減）

複数の工程で作業できる社員の教育  
⇒ 作業の分散化に繋がり、生産量増加に伴う供給責任を果たしながら、平均残業時間の削減！

#### 月当たり平均残業時間の推移：

2022年度：26.4時間、2023年度：23.4時間、2024年度(上期)：21.67時間

#### ● 育休の取りやすい職場環境（ワークライフバランス・心の健康）

育休を取得したい社員の工程を他メンバーが支援できる！  
⇒ 本人が希望する場合、育休取得が100%対応可能に！

#### 男性の育休取得者数（取得割合）：

2022年度：7人(54%)、2023年度：6人(75%)、2024年度(上期)：3人(60%)

#### ● BCP対応（会社全体の安定供給リスクの軽減）

多能工化・多専門化の推進展開（東京・大阪 拠点間での相互対応可能）  
⇒ 自然災害等が発生しても事業の継続ができる体制を整備！





お客様に新しい価値ある体験を提供します  
寿精版印刷株式会社

【チーム名】コーポレートコミュニケーションチーム

# 心も身体も安心安全な職場づくりへの挑戦！ ～心理的安全性の浸透教育～

事業者名：寿精版印刷株式会社  
業界・業種：製造業  
従業員規模：496人  
地域：東京 / 大阪

## 背景（課題・ニーズ）

＜心理的安全性とは：チームやグループの中で、メンバーが自分の意見やアイデアを自由に発言できる環境のこと。＞  
私たちは、「安全は全てに優先する」という基本理念のもと、各工場が無災害活動の推進中。社内標準化による不安全の撲滅を継続的に行う中で、社員一人ひとりが能力を発揮して活躍できるようにするには、自分の考えを積極的に出し、チャレンジできる環境が、重要だと考えた。

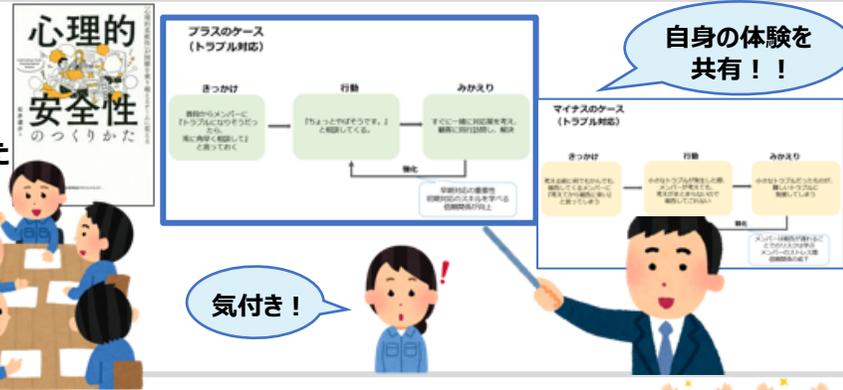
## 活動内容

### ①心理的安全性に関する教育の実施。【2021.01.～ 2021.12.】

2020年9月に発売された、『心理的安全性のつくりかた』を用いて、  
**トップ経営層から順にマネジメント層全体**に至るまで、段階的な教育機会の設定。  
教育メンバー内で担当を割り振り、各自が自分なりに教材内容を自身の体験・経験も交えた形でとりまとめ、他者に説明共有。ディスカッション形式での社内メンバー教育を実施。

### ②学びをもとにした実践。【2022.01.- 現在も取組中】

教育を受けたマネジメント層が、自部署メンバーへ内容共有。  
出席メンバーが発言しやすい会議体のデザイン設計の検討。



## やってみての効果

### ①『心理的安全性の考え方』の浸透：

- ・教育を受けた者が自身の周りの者に教育する。学び合いの連鎖による浸透。  
→『心理的安全性』という言葉が、組織内で共通言語化！

### ②会議体のデザイン設計と共有（意思決定、報告、相談、意見交換・・・）：

- ・会議体を目的ごとにデザイン設計し、参加メンバー内に共有。  
→立場を気にせず、自身の意見が言える環境。意見交換による互いの気づき。



## 今後の展望

心理的安全性ある組織文化の醸成！  
『失敗は誰もがするもの。  
改善をみんなで実行し、不安全の撲滅と、  
チャレンジできる環境の醸成を推進する』





# エイジフレンドリー

## イベント型・情報提供型の両面からアプローチ!

事業者名：ユニ・チャーム株式会社  
 業界・業種：製造  
 従業員規模：約1,800名  
 地域：全国

### 背景 (課題・ニーズ)

プレゼンティーイズムによる損失額は、アブセンティーイズムの約18倍と試算しており、**プレゼンティーイズムの要因の第1位は運動器・感覚器の障害**となっている。  
 今後社員のさらなる高齢化が予測されるため、筋力・視力等を要因としたパフォーマンス低下への対策が急務となっている。

### 取り組んだプロジェクト内容

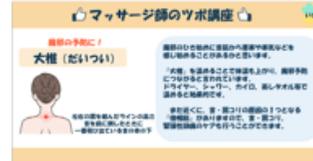
イベント

- ・ マッサージ師を採用し、本社にマッサージルームを開設
- ・ 本社以外でも出張マッサージ企画を実施



情報提供

- ・ **ベテラン社員への健康研修実施。**  
 ①筋力(運動・栄養)②睡眠③メンタルヘルス④がん検診
- ・ **健康情報配信** ①ニュースレター ②デジタルサイネージ



### やってみての効果

- ・ マッサージを受けた社員の90%が施術後のパフォーマンスがアップしたと回答。
- ・ **パフォーマンスやリテラシーの向上に繋がった**という感想が多数得られた。  
 「すきま時間でできる情報の紹介はうれしい！」  
 「日常生活から気を付けていきたい」



### 今後の目標や展望

- ・ より多くの社員が参加できるよう、出張マッサージ企画を推進、複数拠点でのマッサージルーム開設の検討を行う。
- ・ リテラシー向上のため、楽しみながら、普段の生活やちょっとしたすき間時間でも取り入れられるような情報発信を継続的に行う。

